



パソコンも知ったかぶり

オプション周辺機器の取り付けに挑戦！

機能や設定など、もっと知りたいあなたに！

パソコン各部の名前や仕様一覧も収録！

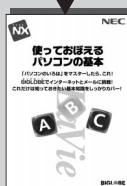
マニュアルを活用しよう

このパソコンには次のマニュアルや練習ソフトが用意されています。
『はじめにお読みください』でセットアップを終了したら、目的に応じて次のマニュアルや練習ソフトを活用してください。



『はじめにお読み
ください』

パソコンを使っているいろいろなことをはじめたい!



『使っておぼえるパソコンの基本』

- ・インターネットやメールをする
- ・文字の入力のしかた
- ・Windowsの基本操作
- ・BIGLOBEに入会する

パソコン初心者なので、基本的なこと
から覚えたい!



『パソコンのいろは』

- ・NXパッドの使いかた
- ・文字の入力のしかた
- ・Windowsの基本操作を覚える
- ・インターネットの練習

このパソコンの機能をもっと使いこなしたい!

『もっと知りたいパソコン』

- ・パソコンの機能を詳しく知る
- ・周辺機器を接続する
- ・アプリケーションを追加 / 削除する
- ・パソコンのメンテナンスをする
- ・BIOSの設定を変更する



困ったなあ、どうしたらいいのかな?



『困ったときのQ&A』

- ・トラブルを解決する
- ・パソコンを再セットアップする
- ・知りたいことが、どのマニュアルに載っているかを調べる
(全マニュアル用総索引)

知りたいことを画面上で調べてみよう



『サポートセンター(電子マニュアル)』

- ・添付のアプリケーションを使う
- ・トラブルを解決する
- ・アプリケーションを追加 / 削除する
- ・サービス&サポート窓口紹介

巻末に簡単な操作方法が載っています。

はじめに

このマニュアルは、パソコンの機能全般についての取扱説明書です。各機能について詳しく知りたいときや周辺機器を接続したいとき、パソコンの設定を変更したいときなど、必要に応じて活用してください。

2000年5月 初版




2000年5月 2版

2000年6月 3版




表記について

記号

パソコンを安全にお使いいただくための注意事項を次のように記載しています。

 警告	注意事項を守っていただけない場合、人が死亡または重傷を負う可能性が想定されることを示します。
 注意	注意事項を守っていただけない場合、人が損害を負う可能性が想定されること、または物的損害のみの発生が想定されることを示します。
 感電注意	注意事項を守っていただけない場合、発生が想定される障害または事故の内容を表しています。左のマークは感電の可能性が想定されることを示しています。このほかに、毒物注意、破裂注意、高温注意についても、それぞれ記載しています。

その他の記号

 チェック	しては けないことや、注意していただきたいことを説明しています。よく読んで注意を守ってください。場合によっては、作ったデータの消失、使用しているアプリケーションの破壊、パソコンの破損の可能性が あります。
 メモ	利用の参考となる補足的な情報や、用語について説明しています。
 参照	関連する情報が書かれている所を示しています。

モデル

モデルの呼びかた

一太郎モデル	一太郎10・花子10パックがあらかじめインストールされているモデルのことです。
Office 2000モデル	Office 2000 Personalがあらかじめインストールされているモデルのことです。
CD-ROMモデル	CD-ROMドライブを内蔵しているモデルのことです。
CD-R/RWモデル	CD-R/RWドライブを内蔵しているモデルのことです。
ワイヤレスインターネットモデル	本体にワイヤレス通信機能を内蔵し、ワイヤレスモデムステーションを添付したモデルのことです。
携帯/PHSモデル	携帯/PHSインターフェイスを内蔵しているモデルのことです。
LAN内蔵モデル	LANインターフェイスを内蔵しているモデルです。
SmartVoice添付モデル	SmartVoiceを添付しているモデルです。
14.1型モデル	14.1型の液晶ディスプレイを搭載しているモデルのことです。
13.3型モデル	13.3型の液晶ディスプレイを搭載しているモデルのことです。

対象モデル一覧

型名	表記の区分				
	添付アプリケーション	音声認識アプリケーション	CD-ROM・CD-R/RW	通信機能	ディスプレイ
LC700J/34DL LC700J/34DL9	Office 2000モデル	SmartVoice 添付モデル	CD-R/RWモデル	携帯/PHSモデル LAN内蔵モデル	14.1型モデル
LC600J/34DR LC600J/34DR9				携帯/PHSモデル	
LC500J/34DR LC500J/34DR9					
LC50H/34DA1 LC50H/34DA19					
LC50H/34CA1 LC50H/34CA19	一太郎モデル	CD-ROMモデル			
LC50H/34DB1 LC50H/34DB19	Office 2000モデル		ワイヤレス インターネットモデル		
LC50H/33DR LC50H/33DR9		SmartVoice 添付モデル	CD-R/RWモデル	携帯/PHSモデル	

:内蔵モデム以外の通信機能

操作方法

【 】	【 】で囲んである文字は、キーボードのキーを示します。 【 】+【 】はキーを同時に押すことを表しています。
←	← は、Enterキーを表しています。
「 」 「 」 「 」 「 」	「 」で囲まれた項目を順番に選択することを示します。 [例] 「スタート」ボタン 「プログラム」 「アクセサリ」 「メモ帳」 「スタート」ボタンをクリックし、現れたポップアップメニューから「プログラム」を選択し、横に現れるサブメニューから「アクセサリ」 「メモ帳」を順に選択することを示します。

コントロールパネルの開きかた

コントロールパネルは次のどちらかの方法で開くことができます。

- ・「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」
- ・「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックして、表示された「マイコンピュータ」画面の「コントロールパネル」アイコンをダブルクリックする

「添付ソフトの使い方」

次の方法で「添付ソフトの使い方」を開き、各アプリケーションの使い方を参照することができます。

「スタート」ボタン 「サポートセンタ」 「添付ソフトの使い方」

記載内容

- ・イラストや画面は、モデルによって異なることがあります。
- ・本文中に記載の画面は、実際の画面と多少異なることがあります。

ソフトウェアの正式名称

Windows、 Windows 98	Microsoft® Windows® 98 Second Edition Operating System 日本語版
Windows 2000	Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system
一太郎10バック	一太郎10・花子10バック(一太郎10、花子10、三四郎9、ATOK13)
Office 2000 Personal	Microsoft® Office 2000 Personal(Microsoft Word 2000,Microsoft Excel 2000,Microsoft Outlook® 2000,Microsoft/Shogakukan Bookshelf® Basic)
Outlook 2000	Microsoft Outlook® 2000
インターネット エクスプローラ	Microsoft® Internet Explorer 5.01
IME2000 音声入力アプレット	Microsoft® IME2000 IME パッド 音声入力アプレット
MS-IME98	Microsoft® IME98
MS-IME2000	Microsoft® IME2000
Acrobat Reader	Adobe® Acrobat™ Reader 4.0J
AOL	AOL 5.0 for Windows
DirectCD	DirectCD™ 3
Easy CD Creator	Easy CD Creator™ 4 Standard
KaraOK!	インターネットカラオケ KaraOK! for Windows
NEWEBサインアップ	NEWEBオンラインサインアップソフトウェア for Windows Ver1.0
PostPet	PostPet for Windows ver. 2.0jp
SmartVoice	SmartVoice(Ver.3.0)
So-netサインアップ	So-netオンラインサインアップソフト
ThumbsStudio	ThumbsStudio(Ver2.0)
VideoStudio	Ulead VideoStudio Version 4.0
VirusScan	VirusScan Ver4.0.3a
@niftyで インターネット	@niftyでインターネット for Windows® Version2.10
携快電話2001	携快電話2001N
しゃべっていいメール	しゃべっていいメール(Ver.2.0) for SmartVoice
筆王	筆王 平成12年編
翻訳アダプタ CROSSROAD	翻訳アダプタ CROSSROAD(Ver3.0)



当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの基準に適合していると判断します。

国際エネルギースタープログラムは、コンピュータをはじめとしたオフィス機器の省エネルギー化推進のための国際的なプログラムです。このプログラムは、エネルギー消費を効率的に抑えた製品の開発、普及の促進を目的としたもので、事業者の自主判断により参加することができる任意制度となっています。対象となる製品は、コンピュータ、ディスプレイ、プリンタ、ファクシミリおよび複写機等のオフィス機器で、それぞれの基準ならびにマーク(ロゴ)は参加各国の間で統一されています。

技術基準等適合認定について

このパーソナルコンピュータは、電気通信事業法第50条第1項の規定に基づく技術基準等適合認定を受けています。申請回線と認定番号は次のとおりです。なお、専用回線等との接続は、一般のお客様には行えませんので、必ずご購入元にご相談ください。

対象機種	モデル	電話回線
LC700J、LC600J、 LC500J、LC50H	内蔵モデムだけのモデル	A00-0384JP
	ワイヤレスインターネットモデル	A00-0369JP
	携帯 / PHS モデル	A00-0343JP
	モデム / LAN同時搭載モデル	A00-0384JP

本装置(モデム / LAN同時搭載モデル)の直流回路の抵抗値は309 です。線路抵抗条件によっては使用できないことがあります。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

漏洩電流自主規制について

この装置は、社団法人日本電子工業振興協会のパソコン業界基準(PC-11-1988)に適合しております。

瞬時電圧低下について

[バッテリバックを取り付けていない場合]

本装置は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをおすすめします。

[バッテリバックを取り付けている場合]

本装置にバッテリバック実装時は、社団法人日本電子工業振興協会の定めたパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインを満足しますが、ガイドラインの基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合が生じることがあります。

レーザー安全基準について

このパソコンには、レーザーに関する安全基準(JIS-C-6802、IEC825)クラス1適合のCD-ROMドライブまたはCD-R/RWDドライブが内蔵されています。

ご注意

- (1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁じられています。
- (2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書の内容については万全を期して作成いたしました。万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、ご購入元、最寄りのBit-INN、またはNECパソコンインフォメーションセンターへご連絡ください。落丁、乱丁本はお取り替えいたします。ご購入元までご連絡ください。
- (4) 当社では、本装置の運用を理由とする損失、逸失利益等の請求につきましては、(3)項にかかわらずいかなる責任も負いかねますので、予めご了承ください。
- (5) 本装置は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など、人命に関わる設備や機器、および高度な信頼性を必要とする設備や機器などへの組み込みや制御等の使用は意図されておりません。これら設備や機器、制御システムなどに本装置を使用され、人身事故、財産損害などが生じて、当社はいかなる責任も負いかねます。
- (6) 海外NECでは、本製品の保守・修理対応をしておりませんので、ご承知ください。
- (7) 本機の内蔵ハードディスクにインストールされているMicrosoft® Windows® 98は本機でのみご利用ください。また、本機に添付のCD-ROM、フロッピーディスクは、本機のみでしかご利用になれません(詳細は「ソフトウェアのご使用条件」および「ソフトウェア使用条件適用一覧」をお読みください)。
- (8) ソフトウェアの全部または一部を著作権の許可なく複製したり、複製物を頒布したりすると、著作権の侵害となります。
- (9) ハードウェアの保守情報をセーブしています。

Microsoft、MS、MS-DOS、Windows、NetMeeting、Outlook、Windows Media、およびWindowsのロゴは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。

「一太郎」「花子」「ATOK」は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。

「一太郎10・花子10パック」「Shuriken」「Sasuke」は、株式会社ジャストシステムの商標です。

「一太郎10・花子10パック」は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、「一太郎10・花子10パック」にかかる著作権その他の権利は株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

商標「三四郎」は、株式会社エス・エス・ピーの登録商標であり、株式会社ジャストシステムは商標使用許諾を受けています。

パソコン大学は、㈱アビバジャパンの商標です。

@niftyは、ニフティ㈱の商標です。

アメリカ・オンラインおよびAOLは、AOLの登録商標です。

VirusScanは、米国法人Network Associates, Inc. またはその関係会社の米国またはその他の国における登録商標です。

Adobe AcrobatおよびAcrobatロゴは、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社)の商標です。

「てきばき家計簿マム」は、テクニカルソフト株式会社の商標です。

ODN (Open Data Network) は、日本テレコム㈱の登録商標です。

DIONは、第二電電株式会社の登録商標です。

筆王は、株式会社アイフォーの登録商標です。

コペルニクライト、Copernic Litelは、日本テクノラボの登録商標です。

NEWEBは、KDD㈱の商標です。

Virtual CDは、Far Stone Tech, Inc. の登録商標です。

PostPetは、ソニーコミュニケーションネットワーク株式会社の登録商標です。

So-netは、ソニー株式会社の登録商標です。

携快電話®は、ソースネクスト株式会社の登録商標です。

「Ulead」「VideoStudio」は、Ulead System, Inc. の登録商標です。

Pentiumは、Intel Corporationの登録商標です。

Celeronは、Intel Corporationの商標です。

SpeedStepは、Intel Corporationの商標です。

Hayesは、米国Hayes Microcomputer Productsの登録商標です。

MNPIは、Microcom, Inc. の登録商標です。

PS/2は、IBM社が所有している商標です。

AdaptecおよびAdaptec社のロゴは、Adaptec, Inc. の登録商標です。

Easy CD Creator、DirectCDは、Adaptec, Inc. の商標です。

RealPlayerは、RealNetworks, Inc. (<http://www.real.com>) の商標です。

「BIGLOBE」「BIGLOBE 電話で入会ナビ」「BIGLOBE ベージャ」「ThumbsStudio」「PCポータル」

「SmartVoice」「アクティブメニューNX」は、日本電気株式会社の商標または登録商標です。

その他、本マニュアルに記載されている会社名、商品名は各社の商標または登録商標です。

©NEC Corporation 2000

日本電気株式会社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。

輸出する際の注意事項

本製品(ソフトウェアを含む)は日本国内仕様であり、外国の規格等には準拠していません。本製品は日本国外で使用された場合、当社は一切責任を負いかねます。

また、当社は本製品に関し海外での保守サービスおよび技術サポート等は行っていません。

本製品の輸出については、外国為替及び外国貿易法に基づいて通商産業省の許可が必要となる場合があります。必要な許可を取得せずに輸出すると同法により罰せられます。輸出に際しての許可の要否については、ご購入頂いた販売店または当社営業拠点にお問い合わせ下さい。

このパソコンの基本機能	1
本体の各部の名称	2
本体前面	2
本体背面	3
本体底面	4
表示ランプ	5
名称と役割	5
ワンタッチスタートボタン	7
ワンタッチスタートボタンを使う	7
ワンタッチスタートボタンの設定を変更する	9
キーボード	10
キーの名称	10
キーの使いかた	11
キーボードの設定をする	13
日本語入力を使う	14
NXパッド	16
NXパッドの使いかた	16
NXパッドの設定をする	17
ハードディスク	21
ハードディスクを使用するときの注意	21
ハードディスクの領域の確保とフォーマット	22
FAT32ファイルシステムの利用	25
フロッピーディスクドライブ	28
名称と役割	28
このパソコンで使用できるフロッピーディスクの種類	28
フロッピーディスクドライブを使用するときの注意	28
フロッピーディスクのセットのしかたと取り出しかた	29
フロッピーディスクをフォーマットする	30
CD-ROMドライブ・CD-R/RWドライブ	31
名称と役割	31
使用できるディスク	31
CD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブを使用するときの注意 ..	33
ディスクのセットのしかたと取り出しかた	33
CDプレーヤボタン	36
Easy CD Creatorを使う	37

DirectCDを使う	39
液晶ディスプレイ	43
画面表示を調整する	43
表示できる解像度と表示色	44
バーチャルスクリーン	46
デュアルディスプレイ機能	47
バッテリー	49
バッテリーのみで使う	49
バッテリーを充電する	49
バッテリーの残量を確認する	50
バッテリーリフレッシュ	52
バッテリーパックを交換する	55
省電力機能	58
省電力機能とは	58
省電力機能を使用するときの注意	59
スタンバイ状態(サスペンド)	60
休止状態(ハイパネーション)	64
Intel® SpeedStep™テクノロジー	68
セキュリティ機能	70
このパソコンのセキュリティ機能	70
パスワードを設定してパソコンの利用者を制限する	70
その他のセキュリティ機能を使う	75
ファイル転送機能	77
ファイル転送機能について	77
ケーブルによるファイル転送を利用する	77
ファイル転送を行う	77
IEEE1394コネクタを使う	78
サウンド機能	79
音量を調節するには	79
音量調節つまみを使う	79
ボリュームコントロールを使う	79
ピープ音を設定する	82
光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力機能について	83
音声入力機能	84
音声入力の準備	84
SmartVoiceの起動と設定	85

音声でパソコンを操作する 86

通信機能 89

モデム 90

内蔵のモデムを利用する 90

インターネットへの通信環境を切り替える 93

ワイヤレス通信機能 98

ワイヤレス通信機能を使う 98

ワイヤレス通信機能を使用するときの注意 103

ワイヤレス通信機能を活用する 104

通信速度を変更する 109

ワイヤレスフォンを使う 109

インターネットへの通信環境を切り替える 114

PHS インターフェイス 115

PHSと接続する 115

PHS インターフェイス使用上の注意 116

接続先を設定する 117

ダイヤル設定のしかた 117

携帯 / PHS インターフェイス 120

携帯電話またはPHSと接続する 120

携帯電話 / PHS インターフェイス使用上の注意 121

接続先を設定する 122

ダイヤル設定のしかた 122

いろいろなデータ通信を行う 124

携帯電話連携機能 127

携帯連携 / i 127

携快電話2001 128

LAN(ローカルエリアネットワーク) 129

LANへの接続 129

運用上の注意 130

ユニバーサル管理アドレス(MACアドレス) 132

CATVでインターネットを利用する 132

マルチメディア機能 133

音楽の再生 / 編集機能 134

音楽を再生するには 134

音楽を編集するには 136

編集してオリジナルMDを作る 136

編集してオリジナル音楽CDを作る 137

映像の再生 / 編集機能 138

映像を再生する 138

映像を編集する 138

画像ファイルや映像ファイルを活用する 146

周辺機器を使う 147

このパソコンに接続できる周辺機器 148

本体前面 / 右側面 148

本体背面 149

本体底面 150

周辺機器を接続する前に 151

周辺機器を利用する 151

周辺機器を利用するときの注意 151

周辺機器を使えるようにセットアップする 154

プリンタ 155

プリンタを接続する 155

プリンタを設定する 156

外部ディスプレイを使う 160

CRTディスプレイを使う 160

プロジェクタを使う 161

テレビを使う 162

表示するディスプレイを切り替える 162

接続した外部ディスプレイを設定する 163

PCカード 164

PCカードとPCカードスロットを使う 164

PCカードを使用するときの注意 165

PCカードのセットのしかたと取り出しかた 165

メモリ 168

メモリを増設する 168

増設RAMボードを取り扱うときの注意	168
増設RAMボードの取り付けかたと取り外しかた	169
IEEE1394コネクタ	175
IEEE1394とは	175
IEEE1394対応機器を接続する	175
IEEE1394コネクタでファイルを転送する	176
USB対応機器	177
USBとは	177
USBコネクタに接続する	177
その他の機器を使う	179
その他の周辺機器について	179
PHSインターフェイス	179
携帯 / PHSインターフェイス	179
光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子	180
シリアルコネクタ	181
パラレルコネクタ	182
マウス / テンキーボード用コネクタ	183

アプリケーションの追加と削除 185

インストールされていないアプリケーションの追加	186
インストールが必要なアプリケーションや機能	186
アプリケーションの削除	187
アプリケーションを削除する前に	187
インストーラ-NXを使って削除する	188
コントロールパネルを使って削除する	191
アンインストール機能を使って削除する	192
削除したアプリケーションの再追加	193
アプリケーションを再追加する前に	193
インストーラ-NXを使って自動でインストールできる アプリケーション	193
インストーラ-NXを使って内容を確認しながら インストールするアプリケーション	197
パソコン大学一年生CD-ROMを使って追加する	197
Office 2000 Personal CD-ROMを使って追加する (Ooffice 2000モデルのみ)	198
一太郎10・花子10バックCD-ROMを使って追加する (一太郎モデルのみ)	198

Easy CD Creator™ 4 Standard/DirectCD™ 3 CD-ROMを 使って追加する	198
アプリケーションCD-ROMを使って追加する	198

BIOSセットアップメニュー 199

BIOSセットアップメニュー	200
BIOSセットアップメニューを使ってできること	200
BIOSセットアップメニューを使う	200
BIOSセットアップメニューを終了する	201
工場出荷時の値に戻す	202
設定項目一覧	202

付録 213

パソコンのお手入れ	214
用意するもの	214
パソコンのお手入れをはじめの前に	214
お手入れのしかた	215
Windows 98でMS-DOSモードを利用する	216
MS-DOSモードを利用する	216
MS-DOSモードでCD-ROMドライブ またはCD-R/RWドライブを利用する	217
Windows 2000 Professionalを使う	220
Windows 2000 Professionalをセットアップする前に	220
1. パソコン本体の準備をする	221
2. Windows 2000 Professionalをセットアップする	222
3. 周辺機器の設定を行う	224
携帯 / PHSインターフェイスの利用	237
IEEE1394コネクタでのファイル転送	237
機能一覧	238
本体	238
内蔵FAXモデム	244
ワイヤレス通信機能	246
PHSインターフェイス	246
携帯 / PHSインターフェイス	246
内蔵LAN機能仕様	247

割り込みレベルとDMAチャンネル	248
割り込みレベルとDMAチャンネルについて	248

索引	251
----------	-----

P A R T

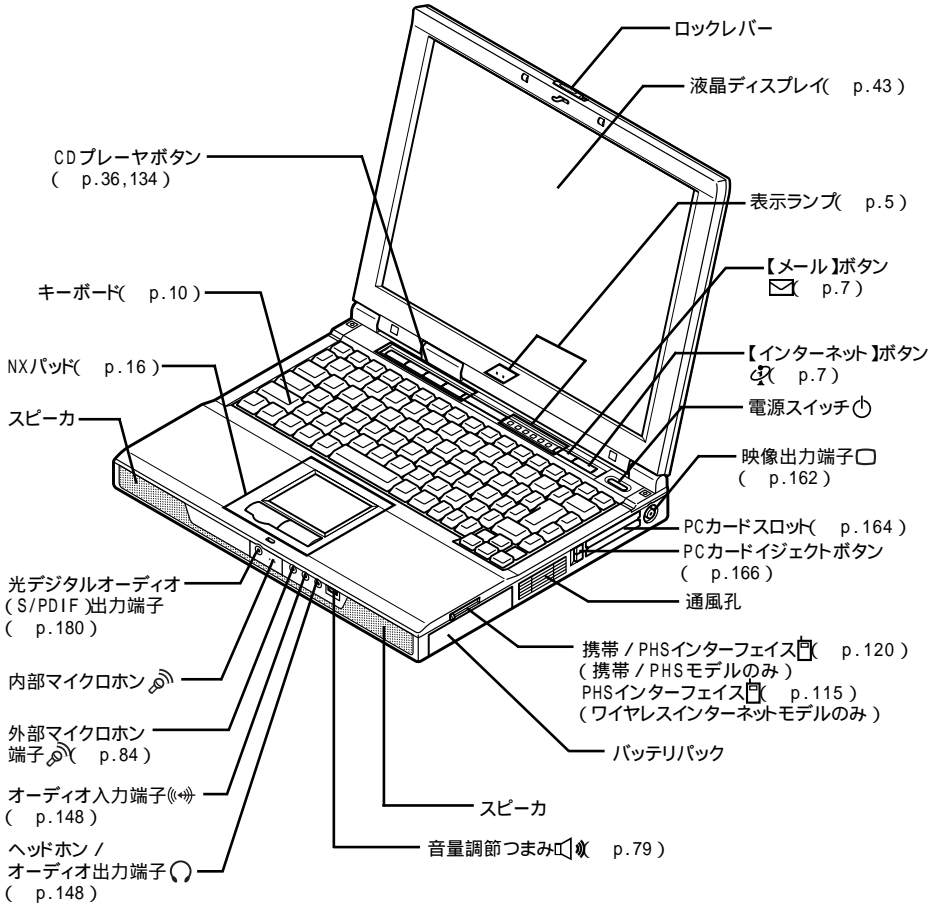
1

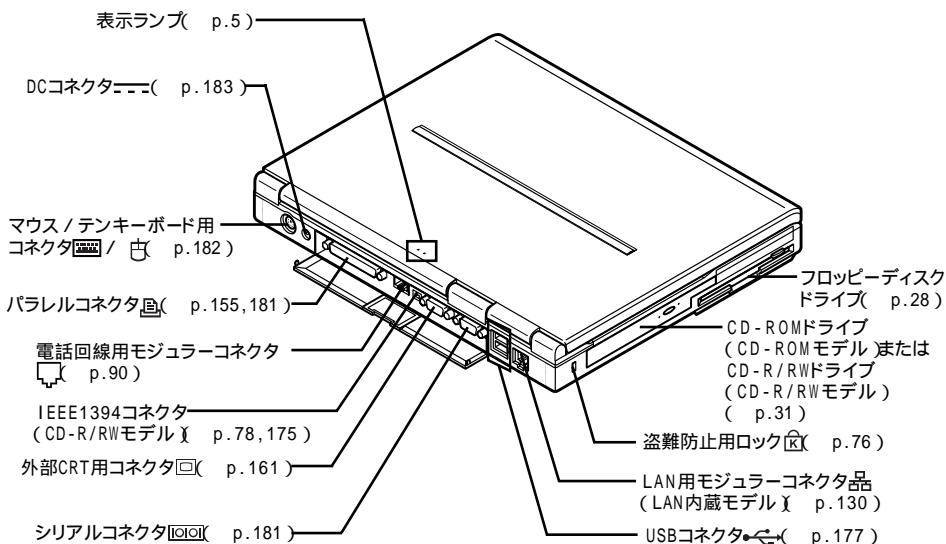
このパソコンの基本機能

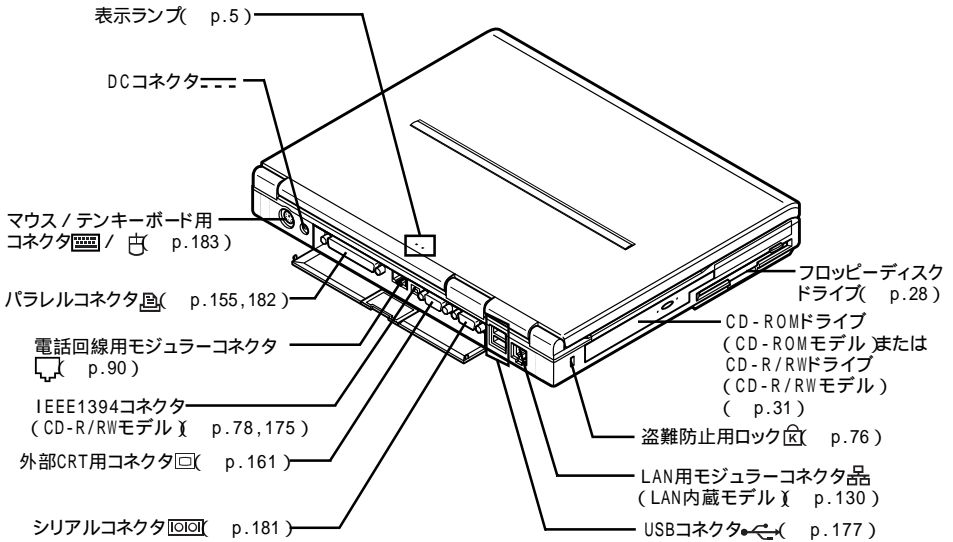
このパソコンの各部の名称とおもな機能について説明しています。

本体の各部の名称

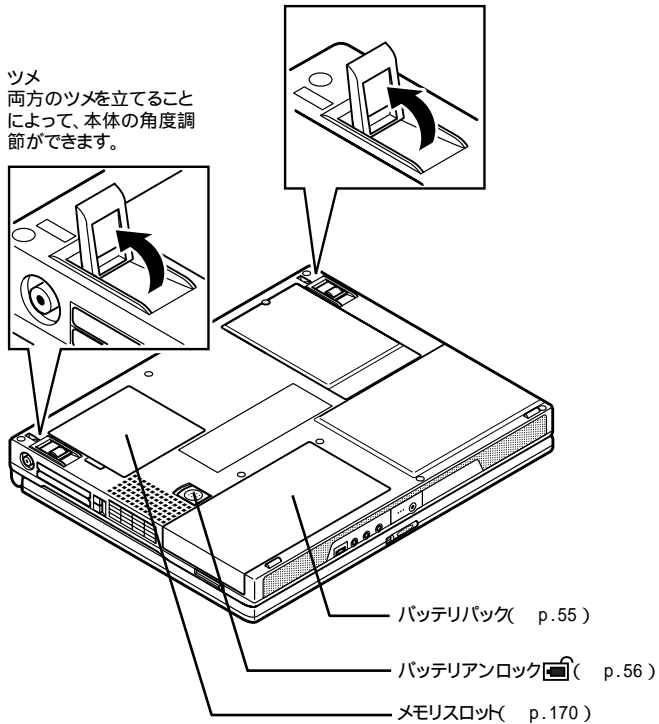
本体前面





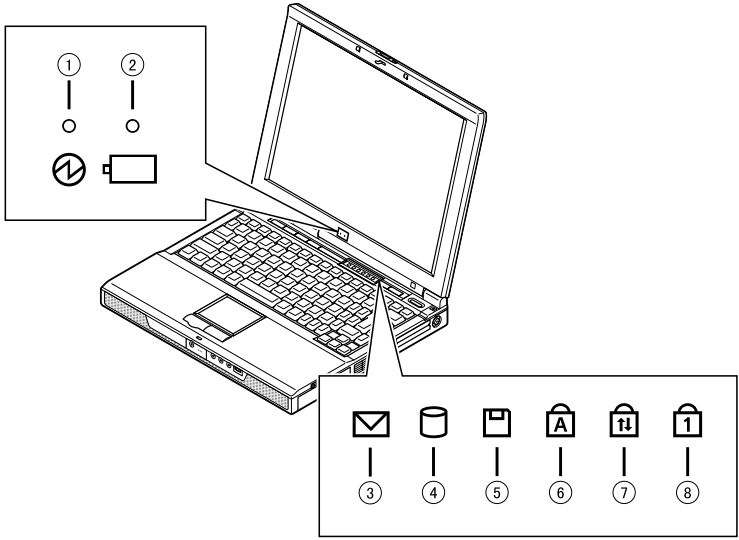


本体底面



表示ランプ

名称と役割



電源ランプ (⏻)

ランプ		状態
緑	点灯	電源が入っている
	点滅	スタンバイ状態
黄色	点灯	バッテリー容量が少ない
	点滅	スタンバイ状態でバッテリー容量が少ない
オレンジ	点灯	バッテリー容量が残りわずか
	点滅	スタンバイ状態でバッテリー容量が残りわずか
消灯		電源が切れている、または休止状態

バッテリー充電ランプ (🔋)

ランプ		状態
オレンジ	点灯	バッテリー充電中
	点滅	バッテリーのエラー
消灯		ACアダプタが接続されていない、または充電完了

: バッテリーを取り付けなおしてもエラーが出るときは、バッテリーリフレッシュを行ってください (p.52)

メール着信ランプ(✉)

ランプ	状態
緑点灯	メール着信あり、またはPIAFS圏内
消灯	メール着信なし、またはPIAFS圏外

ワイヤレスインターネットモデルの場合、BIOSセットアップメニューの「周辺機器セットアップ」の「PIAFS使用時のランプ切り替え」を「圏内」に設定すると、ランプをワイヤレスモデムステーションの圏内にいるかどうかを確認する機能に切り替えることができます (p.210)。

アクセスランプ(☐)

ランプ	状態
緑点灯	ハードディスクやCD-ROMなどのディスクにアクセス中
消灯	ハードディスクやCD-ROMなどのディスクにアクセスしていない

フロッピーディスクアクセスランプ(☐)

ランプ	状態
緑点灯	フロッピーディスクにアクセス中
消灯	フロッピーディスクにアクセスしていない

キャップスロックキーランプ(Ⓐ)

ランプ	状態
緑点灯	【Caps Lock】がロックされている 英字を入力すると大文字になります
消灯	【Caps Lock】がロックされていない 英字を入力すると小文字になります

スクロールロックキーランプ(Ⓜ)

ランプ	状態
緑点灯	【Scr Lock】がロックされている
消灯	【Scr Lock】がロックされていない

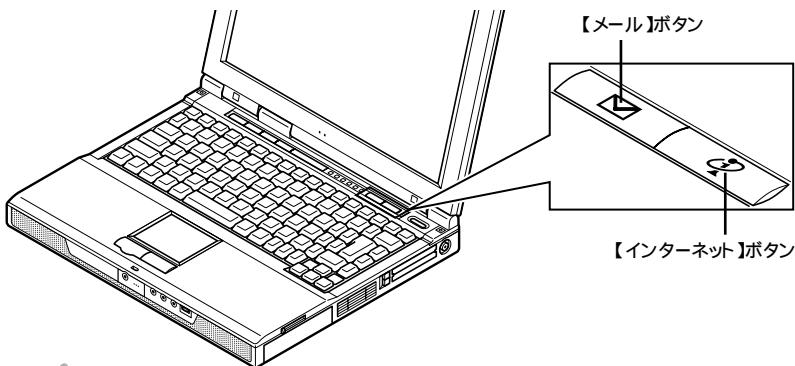
ニューメリックロックキーランプ(Ⓝ)

ランプ	状態
緑点灯	【Num Lock】がロックされている キーを押すとキー前面の文字が入力されます
消灯	【Num Lock】がロックされていない キーを押すとキー上面の文字が入力されます

ワンタッチスタートボタン

ワンタッチスタートボタンを使う

このパソコンには次のワンタッチスタートボタンがあります。



チェック

MS-DOSモードで起動した場合やWindows 98のSafeモードなど、Windows 98のキーボードドライバが動作しない状態では、ワンタッチスタートボタンの機能は使えません。

【インターネット】ボタン

電源がONの状態の場合

パソコンの電源がONの状態では【インターネット】ボタンを押すと、インターネットへの接続がはじまります。購入時の状態では、「インターネット無料体験」が起動するように設定されています。設定を変更すると「Internet Explorer」などのインターネットブラウザを起動することができます。



参照

【インターネット】ボタンの設定 「【インターネット】ボタン / 【メール】ボタンの設定をする」(p.9)

電源がOFFの状態 / スタンバイ状態(サスペンド)の場合

パソコンの電源がOFFの状態、またはスタンバイ状態(サスペンド)で、【インターネット】ボタンを押すと、電源がONになり、インターネットの接続が始まります。購入時の状態では、「インターネット無料体験」が起動するように設定されています。設定を変更すると、「Internet Explorer」などのインターネットブラウザを起動することができます。



参照

【インターネット】ボタンの設定 「【インターネット】ボタン /【メール】ボタンの設定をする」(p.9)

【メール】ボタン

電源がONの状態の場合

パソコンの電源がONの状態【メール】ボタンを押すと、メールソフトが起動します。購入時の状態では、「メールボタン利用のご案内」が表示されます。設定を変更すると、「Outlook Express」などのメールソフトを起動することができます。



参照

【メール】ボタンの設定 「【インターネット】ボタン /【メール】ボタンの設定をする」(p.9)

電源がOFFの状態 / スタンバイ状態(サスペンド)の場合

パソコンの電源がOFFの状態、またはスタンバイ状態(サスペンド)で、【メール】ボタンを押すと、電源がONになり、メールソフトが起動します。購入時の状態では、「メールボタン利用のご案内」が表示されます。設定を変更すると、「Outlook Express」などのメールソフトを起動することができます。



参照

【メール】ボタンの設定 「【インターネット】ボタン /【メール】ボタンの設定をする」(p.9)

ワンタッチスタートボタンの設定を変更する

【インターネット】ボタン / 【メール】ボタンの設定をする


【インターネット】ボタン / 【メール】ボタンの設定は、「ワンタッチスタートボタンの設定」を使って行います。

「ワンタッチスタートボタンの設定」を起動する

- 1 「スタート」ボタン 「プログラム」 「ワンタッチスタートボタンの設定」 「ワンタッチスタートボタンの設定」をクリックする
「ワンタッチスタートボタンの設定」の画面が表示されます。



メモ

インジケータ領域(タスクトレイ)にあるをダブルクリックして起動することもできます。

参照

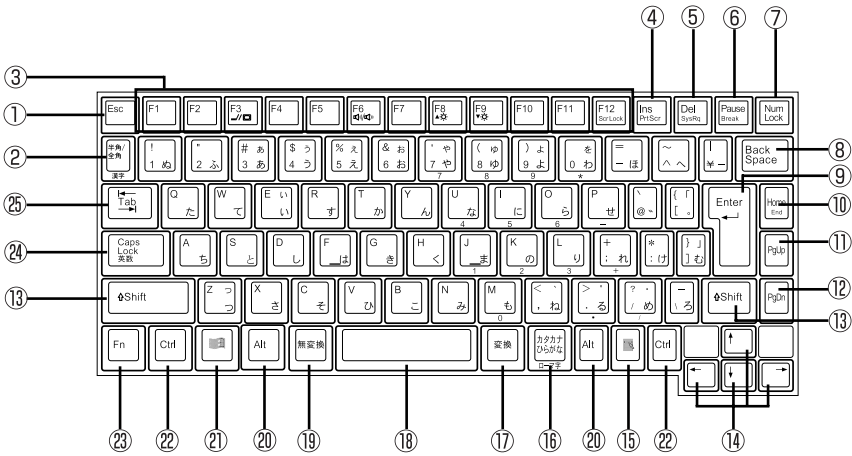
ワンタッチスタートボタンの設定 「添付ソフトの使い方」-「ワンタッチスタートボタンの設定」または「ワンタッチスタートボタンの設定 ヘルプ」

メモ

「ワンタッチスタートボタンの設定 ヘルプ」は、「スタート」ボタン 「プログラム」 「ワンタッチスタートボタンの設定」 「ワンタッチスタートボタンの設定 ヘルプ」をクリックすると表示できます。

キーボード













キーの名称



- ①【Esc】: エスケープキー
- ②【半角/全角】: 半角/全角キー
- ③【F1】～【F12】: ファンクションキー
- ④【Ins】: インサートキー
- ⑤【Del】: デリートキー
- ⑥【Pause】: ポーズキー
- ⑦【Num Lock】: ニューメリックロックキー
- ⑧【Back Space】: バックスペースキー
- ⑨【Enter】: エンターキー(リターンキー)
- ⑩【Home】: ホームキー
- ⑪【PgUp】: ページアップキー
- ⑫【PgDn】: ページダウンキー
- ⑬【Shift】: シフトキー
- ⑭【 ⌂ ⌂ ⌂ 】: カーソル移動キー
- ⑮【 🍵 】: アプリケーションキー
- ⑯【カタカナ ひらがな】: かなキー
- ⑰【変換】: 変換キー
- ⑱【無変換】: 無変換キー
- ⑲【Alt】: オルトキー
- ⑳【 🪟 】: Windowsキー
- ㉑【Ctrl】: コントロールキー
- ㉒【Fn】: エフエヌキー
- ㉓【Caps Lock】: キャップスロックキー
- ㉔【Tab】: タブキー

キーの使いかた

特殊なキーを使う

キー操作	説明
【Num Lock】	一度押すとニューメリックロックキーランプ()が点灯し、キー前面に青で表示されている数字や記号が入力できるようになります。もう一度押すとランプは消灯し、キー上面の文字が入力できるようになります。
【Shift】+【Caps Lock】	一度押すとキャップスロックキーランプ()が点灯し、アルファベットを入力すると大文字が入力されます。もう一度押すとランプは消灯し、アルファベットを入力すると小文字が入力されます。
【Alt】+【半角 / 全角】 または 【半角 / 全角】	押すごとに、日本語入力システムのオン / オフが切り替わります。
【Alt】+ 【カタカナ ひらがな】	日本語入力システムがオンになっているとき、一度押すとかな入力モードになり、キー上面のかな文字で日本語を入力できるようになります。もう一度押すとローマ字入力モードになり、キー上面のアルファベットの組み合わせで日本語を入力できるようになります。
【Caps Lock】	日本語入力システムがオンになっているとき、一度押すと英数字を入力できるようになります。
【カタカナ ひらがな】	日本語入力システムがオンになっていて英数字が入力されるモードになっているとき、一度押すとひらがなやカタカナを入力できるようになります。
【Fn】	他のキーと組み合わせて機能を実行します(p.12)
【  】	右クリックするのと同じ機能があります。
【  】	「スタート」ボタンをクリックするのと同じ機能があります。
【  】+【R】	「ファイル名を指定して実行」ウィンドウを表示します。
【  】+【M】	現在起動しているウィンドウをすべてアイコン化します。
【Shift】+【  】+【M】	【  】+【M】でアイコン化したウィンドウを元に戻します。
【  】+【F1】	Windowsのヘルプを表示します。
【  】+【F】	ファイルやフォルダを検索するウィンドウを表示します。
【Ctrl】+【  】+【F】	コンピュータを検索するウィンドウを表示します。
【  】+【Tab】	タスクバーに表示されているボタンを順番に切り替えます。

：MS - IME2000またはMS - IME98でのみ使用できます。

ホットキー機能を使う

【Fn】と他のキーを組み合わせることで、パソコンの設定をキー操作で簡単に調整することができます。これをホットキー機能といいます。

組み合わせが可能なキーとその機能のアイコンは、【Fn】と同じ色(青)でキー上面に印刷されているものもあります。

キー操作	機能	説明
【Fn】+【F3】	ディスプレイの切り替え ( / )	別売のCRTディスプレイが接続されているとき、キーを押すごとに、「液晶ディスプレイとCRTの同時表示」「テレビ」 ¹ 「液晶ディスプレイ」「CRT」の順に切り替わります(p.162)
【Fn】+【F6】	ビープ音量調節 ()	ビープ音のオン / オフを設定します(p.82)
【Fn】+【F8】	輝度を上げる ()	キーを押すごとに、液晶ディスプレイの輝度が増加します(8段階) (p.43)
【Fn】+【F9】	輝度を下げる ()	キーを押すごとに、液晶ディスプレイの輝度が低下します(8段階) (p.43)
【Fn】+【F10】	画面の伸縮	低解像度時に、ディスプレイの画面を拡大表示する / しないを切り替えます。
【Fn】+【F12】	スクロールロック	【Scr Lock】の役割
【Fn】+【Ins】	プリントスクリーン	【Prt Scr】の役割
【Fn】+【Del】	システムリクエスト	【Sys Rq】の役割
【Fn】+ 	右Windows	右  の役割
【Fn】+【Pause】	Break	【Break】の役割
【Fn】+【Home】	End	【End】の役割

1: テレビが接続されているときのみ切り替わります。

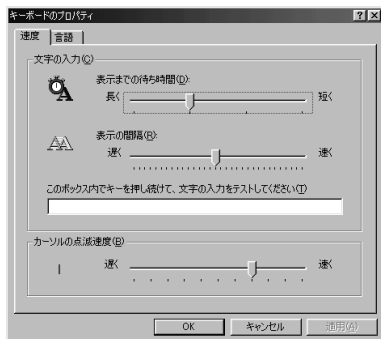


メモ

【Fn】+【F3】～【F12】で設定した内容は、電源を切ったり再起動したりすると解除されます(【Fn】+【F8】、【F9】を除く)。

キーボードの設定をする

- 1 「コントロールパネル」を開き、「キーボード」アイコンをダブルクリックする
「キーボードのプロパティ」が表示されます。



「キーボードのプロパティ」では、ウィンドウ左上の「速度」「言語」の各タブを選ぶと、次のような設定を行うことができます。

- ・文字入力時のくりかえし入力のタイミング調節
- ・カーソルの点滅速度の調節
- ・日本語入力システムの選択
- ・レイアウトの設定

「速度」タブでの設定

表示までの待ち時間

一つのキーを押し続けたときに、入力のくりかえしがはじまるまでの時間を調節します。

表示の間隔

一つのキーを押し続けたときに、文字の入力がくりかえされる間隔を調節します。

カーソルの点滅速度

カーソルの点滅間隔を調節します。

「言語」タブでの設定

言語

よく使う日本語入力システムを一覧から選び、「既定値として設定」をクリックすると、その日本語入力システムが「既定の言語」欄に表示され、登録されます。

追加

「追加」ボタンをクリックして「言語の追加」ウィンドウを表示させ、追加したい言語を選びます。

プロパティ

日本語入力システムを一覧から選んで、「プロパティ」ボタンをクリックすると、環境設定のウィンドウが表示されます。「ローマ字 / かな入力」、「入力モード / 方式」、「句読点の種類」などを設定できます。

削除

削除したい言語を一覧から選んで、「削除」ボタンをクリックすると、その言語が一覧から削除されます。




言語の切り替え

言語の切り替えを行うキーの組み合わせを選ぶことができます。

タスクバー上に状態を表示

「タスクバー上に状態を表示」をクリックしてにすると、日本語や日本語入力システムを簡単に切り替えることができるメニューをタスクバーに表示できます。

別売のキーボードを使うには

別売のテンキーボードやキーボードを接続して使用することができます。テンキーボードは本体背面のマウス / テンキーボード用コネクタ( / )に接続します。キーボードはUSB対応のキーボードを本体背面のUSBコネクタ()に接続することができます。



参照

- ・別売のテンキーボードやキーボードの接続 PART4の「その他の機器を使う」の「マウス / テンキーボード用コネクタ」(p.183)
- ・別売のUSB対応キーボードの接続 PART4の「USB対応機器」(p.177)

日本語入力を使う

このパソコンでは、次の日本語入力システムを使用できます。




- ・一太郎モデル : ATOK13とMS-IME98(既定値はATOK13)
- ・Office 2000モデル : MS-IME2000

日本語入力システムのオン / オフを切り替える

日本語入力システムのオン / オフを切り替えるときは、【半角 / 全角】または【Alt】+【半角 / 全角】を押します。日本語入力システムがオンになると、日本語入力システムのツールバーが表示されます。オン / オフは、キーを押すごとに切り替えることができます。



メモ

インジケータ領域(タスクトレイ)にある  をクリックして表示されるメニューでオン/オフを切り替えることもできます。日本語入力システムがオンのときは、 は  になっています。

日本語を入力する



日本語入力システムの詳しい使いかたは、各日本語入力システムの「ヘルプ」を利用してください。






参照

日本語入力の練習をする「パソコンのいろは」-「ステップ4 日本語の入力」

MS-IME2000またはMS-IME98の「ヘルプ」を使う

- 1 MS-IME2000またはMS-IME98のツールバーから  をクリックする
- 2 メニューの「目次とキーワード」をクリックする
- 3 表示されたヘルプ画面で、調べたい項目をダブルクリックする
ヘルプを終了したいときは、 をクリックします。

ATOK13の「ヘルプ」を使う

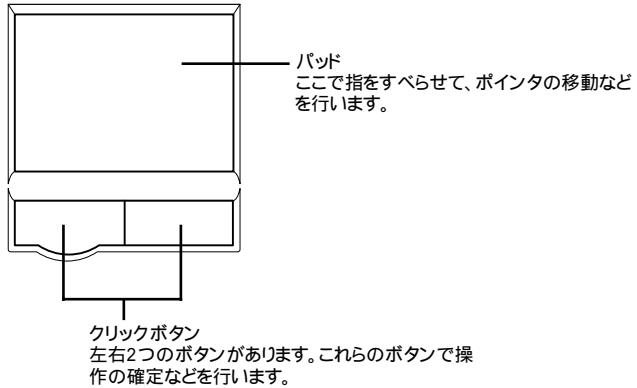
- 1 ATOKパレットの  をクリックする
ATOKパレットが最大化表示されます。
- 2  をクリックする
- 3 メニューの中から「ヘルプ」メニュー「ヘルプ」をクリックする
- 4 表示されたヘルプ画面で、調べたい項目をダブルクリックする
ヘルプを終了したいときは、 をクリックします。

NX パッド

NXパッドの使いかた

このパソコンにはポインティングデバイスとしてNXパッドが内蔵されています。

名称と役割

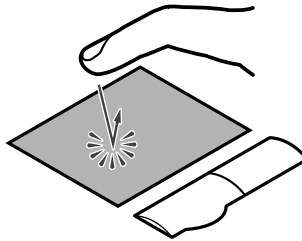


パッドのみを使って操作する

NXパッドではクリックボタンを使わずにパッドのみを使って操作することもできます。

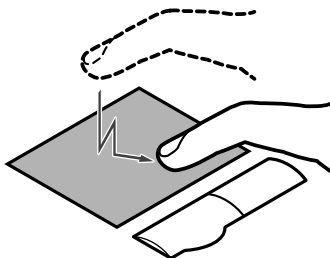
タップとダブルタップ

指先で軽くパッドをたたく操作です。1回たたくことを「タップ」、2回続けてたたくことを「ダブルタップ」といい、それぞれクリック、ダブルクリックするのと同じことです。



ドラッグ

アイコンやフォルダの上にポインタを合わせた状態で、パッドに2回続けて触れ、2回目に触れたときにパッドから指を離さずにはずらせるとドラッグできます。



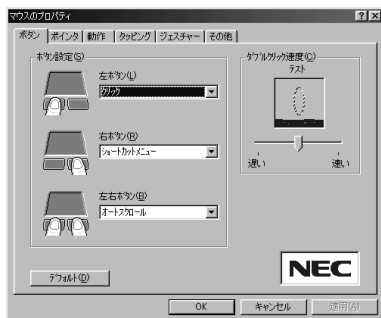
参照

NXパッドの使いかたを練習する 「パソコンのいろは」-ステップ1の「NXパッドに慣れる」

NXパッドの設定をする

WindowsでNXパッドをより使いやすく設定することができます。

- 1 「コントロールパネル」を開き、「マウス」アイコンをダブルクリックする
「マウスのプロパティ」が表示されます。



「マウスのプロパティ」では、ウィンドウの左上の各タブを選ぶと、次のような設定を行うことができます。

- ・ ボタンの設定
- ・ ポインタデザインの選択
- ・ NXパッドの動作の調節
- ・ オートジャンプの設定
- ・ タッピングの調節
- ・ ジェスチャーの調節(NXパッド使用時のみ設定可能)
- ・ その他

「ボタン」タブの設定

ボタン設定

左右のクリックボタンの設定や、左右のクリックボタンを同時に押したときの設定ができます。

ダブルクリック速度

ダブルクリックのクリック間隔の調整を行います。

「ポインタ」タブの設定

デザイン

ポインタのデザインを変更することができます。

「動作」タブの設定

速度と加速度

ポインタの動作速度を調節します。

アクセラレーション

パッド上で指をすばやく動かすことで、ポインタの移動速度を「速度」欄で設定した以上に速くすることができます。パッド上でゆっくり指を動かしたときは、「速度」欄で設定した速度で動きます。

オートジャンプ

ウィンドウやダイアログボックスを開いたときに、ポインタをボタンの上に自動的に合わせるように設定できます。

軌跡

「表示する」を にすると、ポインタの軌跡が表示されます。

「タッピング」タブの設定

タッピング

にすると、タップが効かないように設定できます。

タッピング速度

タップする速度を調節します。タップの間隔(指をパッドに触れてから離すまで)を調整することで、間違っただけではタップにならないように設定できます。

ドラッグロックの設定

パッド上でドラッグをしている場合のドラッグロックの設定ができます。ドラッグしている途中でパッドから指を離しても、ドラッグしたままの状態を保つことができます。

タイピング

キー入力時に間違っただブタップされたり、ポインタが移動するのを防ぐことができます。

「ジェスチャー」タブの設定

コーナータップ

パッドの左上角や右上角をタップする動作に、次の機能を割り当てることができます。

- ・ショートカットメニューの表示
- ・オートスクロール
- ・イージーキャプチャー
- ・全ウィンドウ最小化
- ・最近使ったファイルの表示
- ・お気に入りの表示



メモ

イージーキャプチャーは、「ペイント」などのアプリケーションを起動しなくても、NXパッドを操作して簡単な絵を作成し、起動中のアプリケーションに貼り付けることができる機能です。

ブラウザ補助機能

パッドの上端を左右どちらかになぞって指を離すと、ブラウザの「進む」「戻る」の操作ができます。

スクロール機能

「スクロール機能を使う」を にして「設定」ボタンを選ぶと、次の各機能を使うように設定できます。

- ・スクロール速度
スクロールする速度を設定することができます。
- ・スクロール領域
パッド上のスクロール機能で使用する部分を「スクロール領域」といいます。スクロール領域の広さを変更することができます。

「その他」タブの設定

トレイアイコン

「タスクバーにアイコンを表示する」を にすると、インジケータ領域 (タスクトレイ) にNXパッドのアイコンが表示されなくなります。

IMEキャプチャー

IMEパッドの手書き入力エリアでタップすると、絶対座標モードで入力できるようになります。「使用する」を にすると、この機能が有効になります。

イージーキャプチャーの設定

「イージーキャプチャーの設定」ボタンを選ぶと、次の各設定を変更できます。イージーキャプチャーは、「ジェスチャー」タブの中の「左(または右)コーナータップ」で割り当てることができます。

・キャンバスサイズ

使用するキャンバスの幅、高さを変更できます。

・線の種類

使用する線の太さ、色を変更できます。

・オプション

「前回のイメージを保存する」を にすると、イージーキャプチャーで描いたイメージが保存され、次回イージーキャプチャーを開いたときに表示されます。

ハードディスク


ハードディスクを使用するときの注意

ハードディスクとは

ハードディスクとは、Windows 98やアプリケーションなどのソフトウェア、またはそれらで作成したデータを記録し、読み出すための装置です。非常に精密な機械なので、強い衝撃や過度の重量などが加わらないように注意してください。



チェック

データの読み書き中(アクセスランプ()の点灯中)は少しの衝撃が故障の原因となる場合がありますので注意してください。

データのバックアップについて

ハードディスクが故障すると、大切なデータが失われてしまうことがあります。特に、自分で作成したデータなどは再セットアップしても元通りにはできません。大切なデータは、フロッピーディスクやMOなどのハードディスク以外の媒体にこまめにバックアップ(コピー)をとっておくことをおすすめします。



参照

バックアップの取りかた 『困ったときのQ&A』PART1の「トラブルを予防するには」または「サポートセンター」-「困ったときのQ&A」-「トラブルの予防」-「大事なデータはバックアップを取ろう」

ハードディスクの購入時の状態

このパソコンは購入時、ハードディスク全容量の75%がCドライブ、残りの25%がDドライブに割り当てられており、次のように領域が作成されています。

例：ハードディスクの全容量が「12Gバイト」の場合

Cドライブ：約9Gバイト(FAT32)

Dドライブ：約3Gバイト(FAT32)



参照

FAT32について 「FAT32ファイルシステムの利用」(p.25)

ハードディスクの領域の確保とフォーマット

ハードディスクの領域を削除した場合や、新たにハードディスクを増設した場合などには、ハードディスクの領域の確保とフォーマットが必要です。

ハードディスクの領域の確保とフォーマットは、「容量の確認」「領域の確保」「フォーマット」の順に行います。

ハードディスクの容量の確認

はじめに、領域を確保しようとしているハードディスクの容量を確認します。

- 1 「スタート」ボタン 「プログラム」 「MS-DOS プロンプト」をクリックする
次のように表示されます。

```
C: ¥WINDOWS>
```

- 2 次のように入力する

```
FDISK ↵
```

「大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか(Y/N)」と表示されます。



「FDISK」コマンドは「領域の確保」「領域の削除」「ハードディスクの状態の確認」を行うプログラムです。


- 3 「Y」を選んで【Enter】を押す
「FDISK オプション」の画面が表示されます。
- 4 「4」を入力し、【Enter】を押す
- 5 表示された画面でハードディスクの容量を確認する
- 6 【Esc】を押す
- 7 【Esc】を押す
次のように表示されます。


```
C: ¥WINDOWS>
```

ハードディスクの領域の確保


1 次のように入力する


・ハードディスクの総容量が8,192Mバイト以下の場合



FDISK /x 

・ハードディスクの総容量が8,193Mバイト以上の場合



FDISK 

「大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか(Y/N)」と表示されます。

2 「N」を入力し【Enter】を押す

「FDISKオプション」の画面が表示されます。



メモ

ここで「Y」を入力し【Enter】を押すと、FAT32で領域が作成されます。FAT32を利用する場合は「FAT32ファイルシステムの利用 (p.25)」をご覧ください。

3 「1」を入力し【Enter】を押す

領域を作成する画面が表示されます。

4 「2」を入力し【Enter】を押す

「領域のサイズをMバイトか全体に対する割合(%)で入力してください。拡張MS-DOS領域を作ります」と表示されます。



チェック

確保される領域は、入力した領域サイズよりも大きくなる場合があります。例えば、FAT16で2,047Mバイトを取得しようとする、2,052Mバイトなどの値になり、FAT16で取得できない場合があります。このような場合は、2,047Mバイトより小さい値で入力してください。

5 【Enter】を押す

「拡張MS-DOS領域を作成しました。」と表示されます。

6 【Esc】を押す

7 サイズを入力して【Enter】を押す

8 拡張MS-DOS領域がなくなるまで手順7をくりかえし、すべての拡張MS-DOS領域を論理ドライブに割り当てる

- 9** 【Esc】を3回押す
次のように表示されます。

C: ¥WINDOWS>

- 10** 次のように入力する

EXIT ←

Windows 98の画面に戻ります。

- 11** 「スタート」ボタン 「Windowsの終了」で「再起動する」を選び、「OK」ボタンをクリックする
再起動します。

ハードディスクをフォーマットする

領域を確保したら、続いてハードディスクをフォーマットします。

- 1** 「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックする
- 2** 新たに領域を確保したドライブをクリックする
- 3** 「ファイル」メニュー 「フォーマット」をクリックする
「フォーマット」の画面が表示されます。
- 4** 「通常のフォーマット」をクリックする
- 5** 「開始」ボタンをクリックする
確認の画面が表示されます。
- 6** 「OK」ボタンをクリックする
フォーマットが始まります。
しばらくすると、フォーマットが終了してフォーマットの結果が表示されます。
- 7** 「閉じる」ボタンをクリックする
スキャンディスクの実行を促す画面とヘルプが表示されます。
- 8** 「OK」ボタンをクリックする
- 9** 「フォーマット」ウィンドウをクリックする

10 「閉じる」ボタンをクリックする

- 11 ヘルプにしたがって、スキャンディスクを実行する
複数の領域を確保したいときは、手順2～11の操作をくりかえしてください。

FAT32ファイルシステムの利用

FATとは

FAT(File Allocation Table)ファイルシステムとは、MS-DOSやWindowsで、ディスクのどの場所にどのようなファイルがあるかを記録 / 管理するシステムのことです。Windows 98では次の2つのFATファイルシステムをサポートしています。

FAT16

MS-DOSや従来のWindowsで使われている基本的なファイルシステムです。最大2Gバイトまでの容量をひとつのドライブとして扱うことができます。

FAT32

FAT16を拡張したファイルシステムです。FAT32では理論上2Tバイト(2,048Gバイト)までの容量を扱うことができます。またFAT16よりも効率よく大容量ハードディスクを利用することができます。



参照

FAT32に関する情報 「Windows」フォルダのGENERAL.TXT

FAT32ファイルシステムを使用するときの注意

FAT32を使用するときは、次の注意事項を確認してから使用してください。

- ・ FAT32はこのパソコンにインストールされているWindows 98でのみ使うことができます。
- ・ 購入時の状態では、FAT32ファイルシステムでハードディスクの領域が確保されています。購入時の状態で使用する場合は、ここでFAT32の設定を行う必要はありません。
- ・ 別売のアプリケーションによっては正しく動作しないことがあります。
- ・ スキャンディスク、バックアップ、およびデフラグなど、「アクセサリ」の「システムツール」にあるディスク管理ツールはFAT32に対応しています。ただし、「ドライブスペース」でFAT32のドライブを圧縮することはできません。
- ・ FAT16に変更するには、カスタム再セットアップする必要があります。



参照

カスタム再セットアップ 『困ったときのQ&A』の「PART3 再セットアップ」

FAT32を利用するには

FAT32を利用するには、「FDISK」コマンドを使用してFAT32ファイルシステムで領域を作成します。また、Windows 98で「ドライブコンバータ (FAT32)」を利用することで、FAT16のドライブをFAT32に変換することもできます。



参照

ドライブコンバータ (FAT32) Windowsのヘルプ

「FDISK」コマンドでFAT32の領域を作成する

1 「スタート」ボタン 「プログラム」 「MS-DOS プロンプト」をクリックする
「MS-DOS プロンプト」の画面が表示されます。

2 次のように入力する

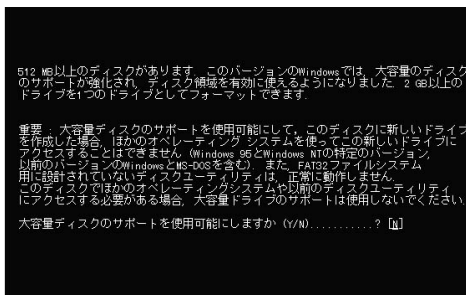
・ハードディスクの総容量が8,192Mバイト以下の場合

```
FDISK /x <Enter>
```

・ハードディスクの総容量が8,193Mバイト以上の場合

```
FDISK <Enter>
```

ハードディスクの容量が512Mバイト以上のときは、次のような大容量ディスクのサポートを行うかどうかを確認するメッセージが表示されます。



参照

ハードディスクの容量を確認する 「ハードディスクの容量の確認」(p.22)

3 【Y】を押して【Enter】を押す

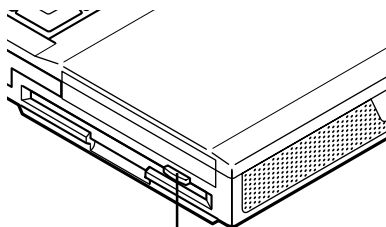
4 領域を作成する

512Mバイト以上の領域を作成すると、その領域にはFAT32が適用されます。作成した領域が512Mバイトよりも小さいときには自動的にFAT16が適用されます。

5 領域の作成が終了したら、【Esc】を押す**6** 次のように入力する**7** 「スタート」ボタン 「Windowsの終了」で、「再起動する」を選び、「OK」ボタンをクリックする
再起動します。**8** 作成したドライブをフォーマットする(p.24)

フロッピーディスクドライブ

名称と役割



フロッピーディスクイジェクトボタン
フロッピーディスクを取り出すためのボタンです。

このパソコンで使用できるフロッピーディスクの種類

このパソコンのフロッピーディスクドライブでは、次の形式のフロッピーディスクを使うことができます。

作業内容	データの読み書き	フォーマット	ディスクコピー
フォーマット			
640Kバイト	-	-	-
720Kバイト			
1.44Mバイト			
1.2Mバイト			

： 使用可

： Windows 2000でのみ使用可

- ： 使用不可

フロッピーディスクドライブを使用するときの注意

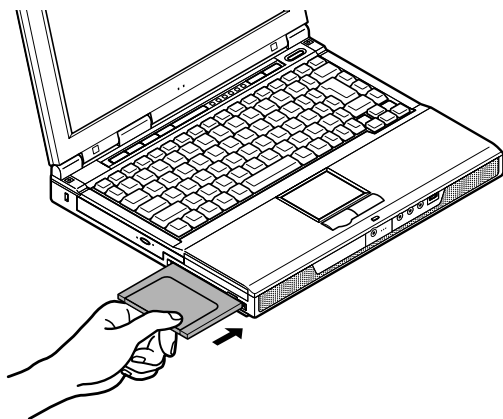
- ・ このパソコンでは、PC-9800シリーズのパソコンでフォーマットされたフロッピーディスクを使ってシステムを起動することはできません。
- ・ Windowsの「ディスクのコピー」またはMS-DOSプロンプトのDISKCOPYコマンドでコピーを行うときは、コピー先のフロッピーディスクは、コピー元のフロッピーディスクと同じ容量でフォーマットされたものを使用してください。

- ・フォーマットしていないフロッピーディスクをマイコンピュータなどで選択すると、フロッピーディスクアクセスランプ(凹)が点灯し続けたり、フォーマットしようとするフォーマット開始までの時間が長くなる場合があります。これは、フロッピーディスクの種類を判別しているためなので、処理が開始されるまでしばらくお待ちください。
- ・MS-DOS Ver.6.2以前のFORMATコマンドでフォーマットしたフロッピーディスクを、MS-DOSプロンプトからDISKCOPYコマンドでディスクコピーすることはできません。「マイコンピュータ」の「3.5インチFD」アイコンを右クリックし、「メニュー」から「ディスクのコピー」を実行してください。
- ・2DDのフロッピーディスクを720KBでフォーマットした場合、いったんフロッピーディスクを取り出し、もう一度入れ直してから使用してください。フォーマット後に、フロッピーディスクを入れ直さずにファイルを書き込もうとすると、フォーマットが正常に終了していても、エラーが発生する場合があります。クイックフォーマットされたフロッピーディスクの場合は、この手順は必要ありません。

フロッピーディスクのセットのしかたと取り出しかた

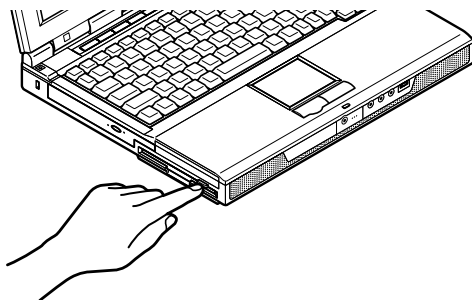
フロッピーディスクをセットする

- 1 カチッと音がするまでフロッピーディスクをゆっくりと水平に差し込む
フロッピーディスクがセットされるとイジェクトボタンが少し飛び出します。




フロッピーディスクを取り出す

- 1 イジェクトボタンを押す
フロッピーディスクが少し飛び出します。



- 2 フロッピーディスクをゆっくりと水平に引き出す



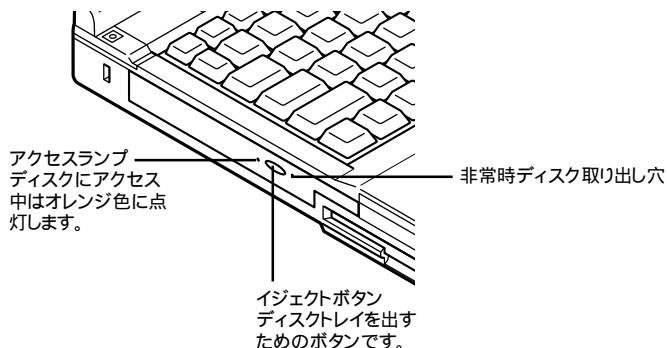
フロッピーディスクを書き込み中、または読み取り中は、フロッピーディスクアクセスランプ()が点灯します。アクセスランプ点灯中は、絶対にフロッピーディスクを取り出さないでください。ドライブの故障やデータの不具合の原因となります。

フロッピーディスクをフォーマットする

- 1 フロッピーディスクをセットする
- 2 「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックする
「マイコンピュータ」ウィンドウが開きます。
- 3 「3.5インチFD」アイコンをクリックする
- 4 「ファイル」メニュー 「フォーマット」をクリックする
「フォーマット」ウィンドウが表示されます。
- 5 「フォーマットの種類」から実行するフォーマットの種類を選ぶ
はじめてフォーマットをするフロッピーディスクのときは「通常のフォーマット」を選んでください。
- 6 「開始」ボタンをクリックする
フォーマット作業が開始されます。

CD-ROMドライブ・CD-R/RWドライブ

名称と役割



メモ

CD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブのイジェクトボタンやアクセスランプ、非常時ディスク取り出し穴の位置や形状は、イラストと多少異なることがあります。

使用できるディスク

CD-ROMドライブの場合

CD-ROMモデルにはCD-ROMドライブが内蔵されています。CD-ROMドライブでは、CD-ROMやCD-Rの読み込み、音楽CD、ビデオCD、フォトCDなどの再生ができます。

CD-R/RWドライブの場合

CD-R/RWモデルにはCD-R/RWドライブが内蔵されています。CD-R/RWドライブでは、CD-ROMなどの読み込みや、音楽CD、ビデオCD、フォトCDの再生のほか、CD-Rへの書き込みやCD-RWの書き換えを行うことができます。使用できるCD-RおよびCD-RWは、ISO9660に準拠したディスクです。書き込みできる容量は、使用するアプリケーションによって異なりますので、詳しくはアプリケーションのヘルプをご覧ください。

CD-RやCD-RWへの書き込み

CD-R/RWモデルでCD-RまたはCD-RWに書き込みするときは、「Easy CD Creator」または「DirectCD」というアプリケーションを使用します。それぞれの機能や使用方法については、「Easy CD Creatorを使う」(p.37)または「DirectCDを使う」(p.39)をご覧ください。

CD-RやCD-RWへ書き込むときの注意

- ・お客様がオリジナルのCD-ROM、音楽CD、ビデオCDなどからのコピー作成およびその利用のための著作権を所有していなかったり、著作権の所有者からコピーの許可を得ていない場合は、使用許諾条件または著作権法に違反する場合があります。コピーの際は、オリジナルのCDの使用許諾条件、複製に関する注意事項にしたがってください。
- ・Easy CD Creatorなど、Track at once(トラック アット ワンス)方式やDisk at once(ディスク アット ワンス)方式で書き込みを行うアプリケーションでは、CD-R、CD-RWへのデータ書き込み中に、他のアプリケーションを使用したり、自動的に省電力機能や一定時間が経過してスクリーンセーバーが働いたり、メールの自動受信プログラムなどが常駐していると、書き込みエラー(バッファアンダーラン)が発生する場合があります。書き込みエラーの発生を抑えるため、データ書き込みの際は、他の動作プログラムを閉じ、省電力機能や常駐するプログラムを無効(オフ)にすることをおすすめします。
- ・バッテリーの残量がなくなると、書き込みエラーの原因になります。バッテリーのみでパソコンを使用している場合は、書き込みを行う前にACアダプタを接続して、ACコンセントから電源を供給してください。
- ・パソコンに振動や衝撃をあたえないでください。書き込みエラーの原因となります。



メモ

- ・ディスクにデータを書き込むために、パソコンはCD-R/RWドライブにデータを転送しています。転送されてきたデータはCD-R/RWドライブのバッファ(データの一時的な蓄積場所)に貯められてからディスクに書き込まれますが、途中で割り込んでくる操作(たとえばスクリーンセーバーの起動など)があると、バッファへのデータの転送に遅れが生じてバッファが空になってしまい、ディスクへの書き込みに失敗してしまうことがあります。このような現象を「バッファアンダーラン」と呼びます。
 - ・DirectCDなど、Packet Write(パケット ライト)方式で書き込みを行うアプリケーションでは、書き込みエラー(バッファアンダーラン)は起こりません。
- ・書き込みに失敗したCD-Rは再生できなくなります。書き込みの失敗によるCD-Rの補償はできませんので注意してください。
- ・DirectCDを使って、データの書き込みや削除をくりかえすと、CD-Rの空き容量が減っていきます。

- ・フォーマット形式などによっては、他のCD-ROMドライブ、CD-R/RWDドライブでは使用できない場合があります。
- ・市販されているCD-RおよびCD-RWの一部に規格外のものがあります。規格外のCD-RおよびCD-RWでは正常に読み込めない場合があります。
- ・データを書き込んだCD-RWを他のパソコンで読む場合、マルチリード対応のCD-ROMドライブを使用してください。マルチリード対応CD-ROMドライブの確認は、各メーカーにお問い合わせください。



メモ

マルチリード対応のCD-ROMドライブとは、CD-RWを読み出せるようにしたCD-ROMドライブのことです。CD-RWはCD-ROMに比べて光の反射率が低いいため、マルチリードに対応していないCD-ROMドライブでは読み出すことができません。

CD-ROMドライブまたはCD-R/RWDドライブを使用するときの注意

- ・CD-ROMドライブまたはCD-R/RWDドライブ内のレンズには触れないでください。指紋などの汚れによってデータが正しく読み取れなくなるおそれがあります。
- ・アクセスランプが点灯しているときは、ディスクを絶対に取り出さないでください。故障の原因となります。
- ・ディスクの盤面にはラベルやテープなどを貼らないでください。故障の原因となることがあります。また、ラベルやテープが貼られているなど、重心バランスの悪いディスクを使用すると、操作中に手に振動を感じる場合があります。
- ・接続していないCD-ROMドライブが存在する場合がありますが、これはVirtual CD 2によって作成された仮想CD-ROMドライブです。



参照

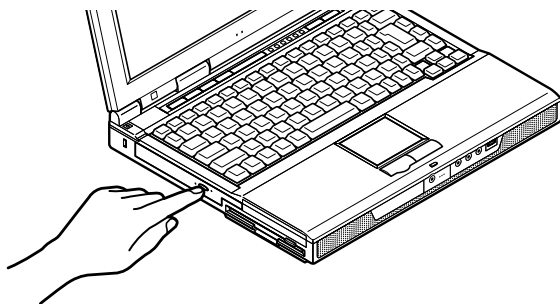
仮想CD-ROMドライブについて「添付ソフトの使い方」 「Virtual CD 2」

ディスクのセットのしかたと取り出しかた

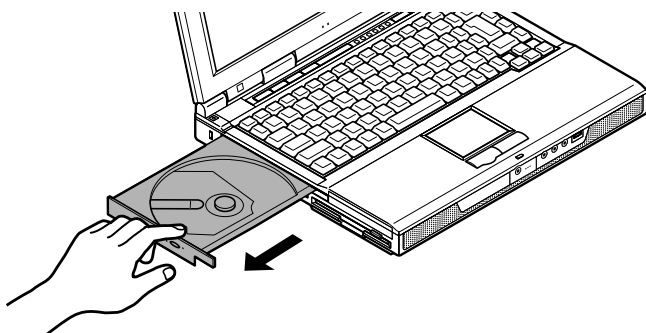
ディスクをセットする

- 1 電源が入っていない場合は、パソコンの電源を入れる

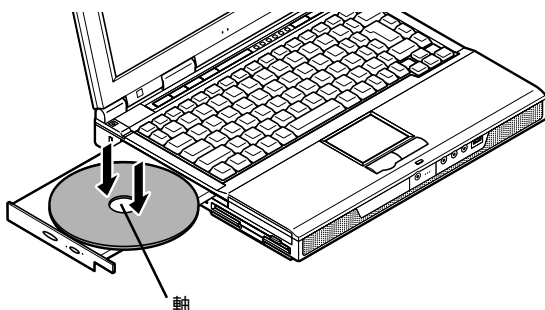
- 2** イジェクトボタンを押す
ディスクトレイが少し飛び出します。



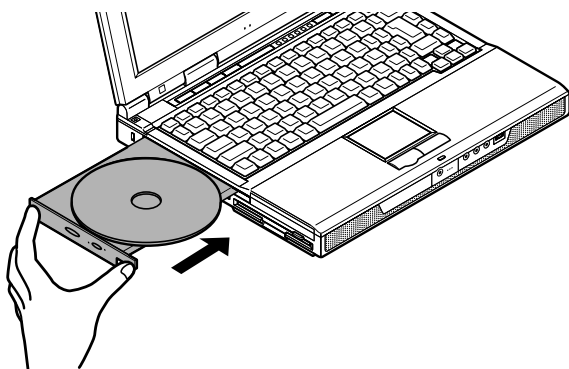
- 3** 手でディスクトレイを静かに引き出す



- 4** ディスクのデータ面（文字などが印刷されていない面）を下にして、傷など付けないようディスクトレイの中央に置き、ディスクを軸にしっかりとめ込む



- 5 イジェクトボタンに触れないようにディスクトレイ前面を押して、ディスクトレイを元の位置に戻す



メモ

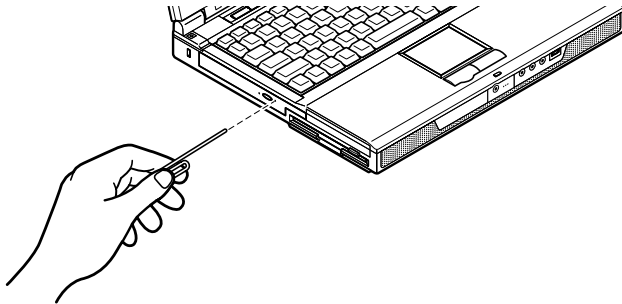
「CDプレーヤー」を使用する場合、CD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブにディスクをセットしていない状態では、「CDプレーヤー」の「取り出し」ボタンを押してもディスクトレイは出てきません。ディスクトレイを出すためには、CD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブのイジェクトボタンを押すか、「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックして対象となるドライブのアイコンを右クリックし、「取り出し」メニューを選んでください。

ディスクを取り出す

- 1 電源が入っていない場合は、パソコンの電源を入れる
- 2 イジェクトボタンを押す
ディスクトレイが少し飛び出します。
- 3 手でディスクトレイを静かに引き出してから、ディスクを取り出す
- 4 イジェクトボタンに触れないようにディスクトレイの前面を押して、ディスクトレイを元の位置に戻す

ディスクを取り出せなくなったときは

ソフトウェアの暴走など不慮の原因で、イジェクトボタンを押してもディスクトレイが出てこなくなった場合は、非常時ディスク取り出し穴に太さ1.3 mm程の針金を押し込むと、トレイを手動で引き出すことができます。針金は太めのペーパークリップなどを引き伸ばして代用できます。



⚠ チェック

イジェクトボタンを押してもディスクトレイが出てこない、といった非常時以外は、非常時ディスク取り出し穴を使わないようにしてください。

CDプレーヤボタン

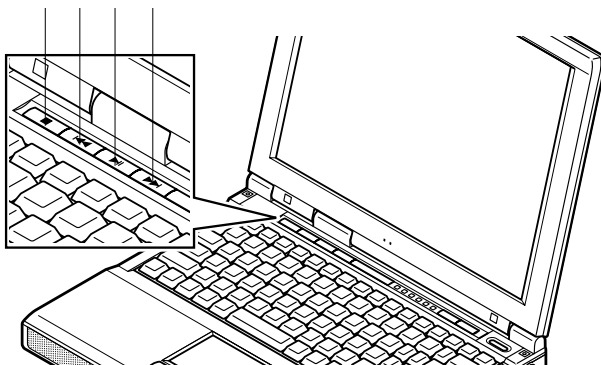
このパソコンにはCDプレーヤボタンが内蔵されています。CDプレーヤボタンでは、CDを再生するための「プレーヤ-NX」の操作を行うことができます。

📖 参照

「プレーヤ-NX」の使いかた 「添付ソフトの使い方」・「プレーヤ-NX」

各ボタンの役割

それぞれのボタンの役割は、次のとおりです。



ボタン	機能
	停止
⏮	前のトラック / 巻き戻し
⏸	再生 / 一時停止
⏭	次のトラック / 早送り

Easy CD Creatorを使う

Easy CD Creatorは、CD-RやCD-RWにデータを書き込むことができるアプリケーションです。データを書き込む以外にも、音楽CDを作成したり、CD全体のバックアップなどの機能があります。ここでは、基本的なデータを書き込む操作について説明します。そのほかの機能について詳しくは、ヘルプをご覧ください。



メモ

Easy CD Creatorで書き込んだCD-RWは、マルチリード対応のCD-ROMドライブで読み出すことができます。

データを書き込む

ここでは、CD-RWを使ったデータの書き込みについて説明します。はじめに、CD-RWを用意しておいてください。なお、CD-Rの場合でも同様の手順で利用できます。その際はCD-RWをCD-Rに読み替えてください。

1 CD-RWをCD-R/RWドライブにセットする

「作成したいCDの種類を選択してください。」というウィンドウが自動的に開いた場合は、ウィンドウ右下の「x」のイラストをクリックしてウィンドウを閉じてください。

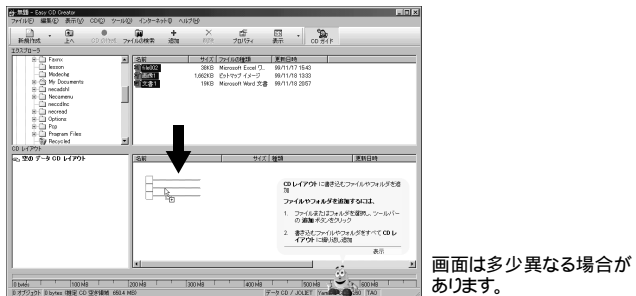
2 「スタート」ボタン 「プログラム」 「Adaptec Easy CD Creator 4」 「Features」 「Easy CD Creator」をクリックする

3 画面の上段で、書き込みたいデータがあるフォルダを選び、データのファイル名を表示させる





4 書き込みたいデータのファイル名を選んで、画面の下段にドラッグ&ドロップする

書き込みデータが画面の下段に表示されます。このとき、まだ書き込みは開始していません。



メモ

- ・ファイル名を選んだ後、**+**追加 (追加) ボタンを押しても同様の操作ができます。
- ・書き込みたいデータがほかにもある場合は、手順3~4をくりかえしてください。
- ・下段に表示されたデータの中で書き込みを取りやめたいものがあれば、そのファイル名を選んで **x**削除 (削除) ボタンをクリックしてください。

- 5  (CDの作成) ボタンをクリックする
- 6 「CD作成セットアップ」画面が表示されるので、「OK」ボタンをクリックする書き込みを開始します。
- 7 書き込み終了後、「OK」ボタンをクリックする
- 8 画面右上の  ボタンをクリックし、Easy CD Creatorを終了する
「CDレイアウトの変更を無題に保存します。」というメッセージが表示されます。書き込みが正常に終了した場合は保存の必要がないので、「いいえ」をクリックしてください。書き込みに失敗した場合や同じデータを別のCD-RWに書き込む場合は、「はい」をクリックして保存してください。

DirectCDを使う

DirectCDを使うと、フロッピーディスクやハードディスクと同じような感覚で、CD-RやCD-RWにデータを保存したり移動したりすることができます。簡単にデータを保存することができますので、データのバックアップなどに適しています。ここでは、DirectCDを使ってCD-RWまたはCD-Rにデータを書き込むときの基本的な操作を説明しています。

そのほかの機能や使いかたについて詳しくは、ヘルプをご覧ください。

準備をする

DirectCDで使用するCD-RまたはCD-RWは、フォーマットされている必要があります。データを書き込む前に、次の手順でフォーマットしてください。すでにフォーマットされたCD-RWまたはCD-Rを使用する場合は、この手順は必要ありません。次の「DirectCDで書き込む」(p.40)の手順でデータの書き込みを行ってください。

- 1 CD-RまたはCD-RWをCD-R/RWドライブにセットする
「作成したいCDの種類を選択してください。」というウィンドウが自動的に開いた場合は、ウィンドウ右下の「x」のイラストをクリックして、ウィンドウを閉じてください。フォーマット済みのCD-RまたはCD-RWをセットした場合、「CDの準備ができました」と表示されます。次の「DirectCDで書き込む」(p.40)の手順2に進んで、データの書き込みを行ってください。
- 2 「スタート」ボタン 「プログラム」 「Adaptec DirectCD」 「DirectCD ウィザード」をクリックする
Adaptec DirectCD ウィザードの画面が表示されます。
- 3 「次へ」をクリックする
レコーダ情報の画面が表示されます。

- 4 「次へ」ボタンをクリックする
CDのフォーマットの画面が表示されます。
- 5 「次へ」をクリックする
CD名を付ける画面が表示されます。
- 6 「CD名」欄にCD名を入力して、「完了」ボタンをクリックする
CD名を付けておくと、あとから何のデータが入っているCDかを検索したいときに便利です。特に付ける必要がない場合は、何も入力しないで「完了」ボタンをクリックしてください。
- 7 処理時間を確認する画面が表示された場合は、処理時間を確認して「OK」ボタンをクリックする
フォーマットがはじまりますので、そのまましばらくお待ちください。
フォーマットが終了すると「CDの準備ができました」と表示されます。
- 8 「OK」ボタンをクリックする
CD-R/RWDドライブのウィンドウが自動的に開いた場合は、 ボタンをクリックしてウィンドウを閉じてください。

これで、CD-RまたはCD-RWをDirectCDで使用するための準備ができました。
このまま続けてデータの書き込みを行う場合は、次の「DirectCDで書き込む」の手順3に進んでください。

DirectCDで書き込む

- 1 DirectCDでフォーマットしたCD-RまたはCD-RWをCD-R/RWDドライブにセットしていない場合はセットする
「CDの準備ができました」と表示されます。
- 2 「OK」ボタンをクリックする
- 3 CD-RまたはCD-RWにデータを書き込む
フロッピーディスクやハードディスクと同じように、「マイコンピュータ」や「エクスプローラ」を使ってデータを書き込むことができます。

CD-RまたはCD-RWを取り出す

DirectCDを使用しているときは、ディスクによって取り出しかたが異なります。

CD-Rを取り出す

CD-Rを取り出すときは、DirectCDで書き込んだCD-RをほかのパソコンのCD-ROMドライブで読み出すことができるようにするかどうかを選ぶ必要があります。

- 1 CD-R/RWドライブのイジェクトボタンを押す
「CDの取り出し」の画面が表示されます。



インジケータ領域(タスクトレイ)に表示されているを右クリックし、表示されたメニューから「取り出し」をクリックしても同様の操作ができます。

- 2 CD-Rに、ほかのパソコンのCD-ROMドライブでも読み出せるように処理を行うかどうかを選ぶ

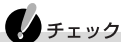
次もDirectCDで使用する場合は、「次回、このCDへはDirectCDで読み書きを行います。」がになっていることを確認してください。

ほかのパソコンのCD-ROMドライブで読み出したい場合は、「Windows 95/98、Windows NT 4.0 SP3以上」およびWindows 2000のCD-ROMドライブで読み込めるようにCDを構成します。」のをにします。また、必要であれば「再び書き込みができないように、CDを書き込み禁止にする」をにしてください。



「Windows 95/98、Windows NT 4.0 SP3以上」およびWindows 2000のCD-ROMドライブで読み込めるようにCDを構成します。」を選んで取り出した後、再度DirectCDで書き込みを行いたい場合は、を右クリックして「書き込み可能にする」を選び、設定を行ってください。

- 3 「完了」ボタンをクリックする
「CDは取り出されました。」と表示されるまで、そのまましばらくお待ちください。自動的にディスクトレイが少し飛び出します。
- 4 表示されているメッセージを確認して、「OK」ボタンをクリックする




書き込んだCD-Rを読み出すことができる環境についてのメッセージが表示されています。表示されたメッセージ以外の環境では、このCD-Rを読み出すことはできません。

- 5 CD-R/RWドライブからCD-Rを取り出し、ディスクトレイを元の位置に戻す

CD-RWを取り出す

- 1 CD-R/RWドライブのイジェクトボタンを押す
しばらくすると、「CDIは取り出されました。」と表示され、ディスクトレイが少し飛び出します。



インジケータ領域(タスクトレイ)に表示されているを右クリックし、表示されたメニューから「取り出し」をクリックしても同様の操作ができます。

- 2 表示されているメッセージを確認して「OK」ボタンをクリックする







書き込んだCD-RWを読み出すことができる環境についてのメッセージが表示されています。表示されたメッセージ以外の環境では、このCD-RWを読み出すことはできませんので注意してください。

- 3 CD-R/RWドライブからCD-RWを取り出し、ディスクトレイを元の位置に戻す

液晶ディスプレイ

画面表示を調整する

キーボードの【Fn】を使うと、次のような表示の調整ができます。

機能	キー操作	説明
ディスプレイ切り替え ( / )	【Fn】+【F3】	別売のCRTディスプレイが接続されているとき、キーを押すごとに、「液晶ディスプレイとCRTの同時表示」「テレビ」 ¹ 「液晶ディスプレイ」「CRT」の順に切り替わります(p. 162)。
輝度を上げる()	【Fn】+【F8】	キーを押すごとに、液晶ディスプレイの輝度が増加します(8段階)。
輝度を下げる()	【Fn】+【F9】	キーを押すごとに、液晶ディスプレイの輝度が低下します(8段階)。
画面の伸縮	【Fn】+【F10】	低解像度時に、ディスプレイの画面を拡大表示する/しないを切り替えます。

1: テレビが接続されているときのみ切り替わります。

表示するディスプレイを変更する

このパソコンは、液晶ディスプレイだけでなく、別売のCRTディスプレイやプロジェクタ、テレビなどに画面を表示することもできます。

チェック

複数のディスプレイで同時表示を行っているとき、一方のディスプレイにおいて、メディアプレーヤーなどでビデオCDが正しく表示されない場合があります。このディスプレイでビデオCDを表示させるには、次の手順で設定を変更してください。

1. 「コントロールパネル」で「画面」アイコンをクリックする
2. 「画面のプロパティ」画面で「設定」タブをクリックして「詳細」ボタンをクリックする
3. 表示された画面で「ATI画面」タブをクリックする
4. 表示された画面で、「パネル」の下にある水色の丸いボタンをクリックして、「プライマリ」に設定する(液晶ディスプレイとTVを同時にプライマリに設定することはできません)

参照

別売のディスプレイやプロジェクタ、テレビの接続 PART4の「外部ディスプレイを使う」(p. 160)

表示できる解像度と表示色



メモ

解像度とは、ディスプレイの画面上に表示できる文字や図面などの情報量を表すものです。この数字が大きくなるほど、画面上に一度に多くの情報を表示することができ、より細かな表現ができます。

このパソコンの液晶ディスプレイは、標準で次の解像度と表示色を表示できます。

解像度 (ドット)	表示色	液晶 ディスプレイ のみに表示	別売の ディスプレイ のみに表示	液晶 ディスプレイ と別売の ディスプレイ の同時表示 ¹	TVのみ
640 × 480	16色				
	26万色中256色				
	65,536色				
	1,677万色 ²				
800 × 600	26万色中256色				
	65,536色				
	1,677万色 ²				
1,024 × 768	26万色中256色			4	
	65,536色 ³			4	
	1,677万色			4	
1,280 × 1,024	26万色中256色			4	
	65,536色			4	
	1,677万色			4	
1,600 × 1,200	26万色中256色			4	
	65,536色			4	

：画面のまわりが黒く表示される【Fn】を押しながら【F10】を押して拡大表示可能）

：フルスクリーン表示可能

：バーチャルスクリーン（ p.46 ）でのみ表示可能

1：別売のCRT未接続時は、このパソコンの液晶ディスプレイのみに表示される

2：このパソコンの液晶ディスプレイでは、ウィンドウアクセラレータのデザイン機能により実現

3：購入時の設定

4：解像度の組み合わせによってはバーチャルスクリーン表示（ p.46 ）



メモ

320×200ドット、320×240ドット解像度対応のアプリケーションなどは、このパソコンでは画面のまわりが黒く表示されます。

解像度と表示色の設定

ディスプレイの解像度と表示色の変更はコントロールパネルで設定します。

- 1 「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックする
「画面のプロパティ」が表示されます。




- 2 「設定」タブをクリックする

- 3 「画面の領域」または「色」を変更する

画面の領域の変更をする場合

「画面の領域」でつまみを「大」の方向へドラッグすると高解像度に、「小」の方向へドラッグすると低解像度になります。

色の変更をする場合

「色」で  をクリックし、選択一覧から変更します。この選択一覧には、使用している液晶ディスプレイとディスプレイアダプタが対応しているカラーパレットが一覧表示されます。



メモ

High Colorとは65,536色のことで、True Colorは1,677万色のことです。

- 4 設定が終了したら、「OK」ボタンをクリックする
このあとは、画面の指示にしたがって操作してください。

バーチャルスクリーン

バーチャルスクリーンとは、実際に表示可能な解像度よりも大きい解像度を使用できるようにするための仮想画面のことです。バーチャルスクリーンでは、仮想画面全体のサイズが実際のディスプレイの画面より大きくなるので、ディスプレイには常に仮想画面の一部が表示されている状態となります。画面をスクロールすると、ディスプレイの画面上で見えていない部分を表示することができます。



メモ

バーチャルスクリーンでは、「スタート」ボタンがディスプレイの画面上から外れ、表示されないことがあります。ディスプレイの画面上で見えていない部分を見るには、ポインタをディスプレイの画面の端に移動させます。ポインタの移動した方向に画面がスクロールし、見えなかった部分が表示されます。

バーチャルスクリーンモードの設定方法

- 1 「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックする
「画面のプロパティ」が表示されます。
- 2 「設定」タブをクリックし、「詳細」ボタンをクリックする
- 3 「モニタ」タブをクリックし、「変更」ボタンをクリックする
「デバイスドライバの更新ウィザード」が表示されます。
- 4 「次へ」ボタンをクリックする
- 5 検索方法で「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を作成し、インストールするドライバを選択する」を選び、「次へ」ボタンをクリックする
- 6 「すべてのハードウェアを表示」を選ぶ
- 7 「モデル」から「Super VGA 1600 × 1200」をクリックする
- 8 「次へ」ボタンをクリックし、再び「次へ」ボタンをクリックする
- 9 「完了」ボタンをクリックし、「閉じる」ボタンをクリックする
- 10 「OK」ボタンをクリックする
これで設定が完了しました。

このあとは、画面の指示にしたがって操作してください。上記の設定をしたあとは、「設定」タブで、次の解像度を設定できるようになります。

640 × 480ドット / 800 × 600ドット / 1,024 × 768ドット / 1,280 × 1,024ドット / 1,600 × 1,200ドット

デュアルディスプレイ機能

デュアルディスプレイ(Dual Display)とは、CRTディスプレイなどの外部ディスプレイを接続したときに、本体の液晶ディスプレイと外部ディスプレイを使ってひとつの画面として表示できる機能です。液晶ディスプレイと外部ディスプレイを続き画面として利用できるため、表示できる範囲が広がります。



メモ

デュアルディスプレイ機能は、同じ画面を2つのディスプレイに表示するのは別の機能です。



チェック

画面の解像度によっては、デュアルディスプレイ表示にならない場合があります。



参照

別売のCRTディスプレイなどを接続するには PART4の「外部ディスプレイを使う」(p.160)

デュアルディスプレイ機能を使う準備をする

画面を表示するディスプレイのオン/オフ、プライマリ/セカンダリを次の手順にしたがって設定します。

- 1 別売のディスプレイを接続し、電源を入れる(p.160)
- 2 パソコンの電源を入れる
- 3 「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックする
「画面のプロパティ」が表示されます。
- 4 「設定」タブをクリックし、「詳細」ボタンをクリックする
- 5 「ATI画面」タブをクリックする
「モニタ」「パネル」「テレビ」の接続状態が表示されます。
- 6 「モニタ」の左上のボタンをクリックする
接続したモニタへの表示がオンになります。



チェック

表示をすべてオフにすることはできません。どれかひとつはオンの状態になっています。

- 7 「モニター」パネル」の下のボタンをクリックする
「プライマリ」ディスプレイ、「セカンダリ」ディスプレイが指定されます。



チェック

すべてをセカンダリに設定することはできません。

接続が認識され、ディスプレイの表示がオンに設定されると、解像度とリフレッシュレート(水平同期周波数)が表示されます。

- 8 「OK」ボタンをクリックする

デュアルディスプレイ機能を使う

- 1 「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックする
「画面のプロパティ」が表示されます。
- 2 「設定」タブをクリックする
- 3 「2」と表示されたディスプレイのイラストをクリックする
モニタの使用を確認するメッセージが表示されます。
- 4 「はい」ボタンをクリックする
- 5 「適用」ボタンをクリックする
これでデュアルディスプレイ機能を使うことができます。

デュアルディスプレイ機能を解除する

- 1 「デュアルディスプレイ機能を使う」の手順1~2を行う
- 2 「2」と表示されたディスプレイのイラストを右クリックする
- 3 表示されたメニューから「使用可能」をクリックする
- 4 「適用」ボタンをクリックする
これでデュアルディスプレイ機能は解除されました。

バッテリー

バッテリーのみで使う

このパソコンは、ACアダプタを使用せずにバッテリーだけで駆動することができます。バッテリーだけでの駆動時間は限られていますので、長時間使用する場合は、省電力機能を使用することをおすすめします。



参照

省電力機能について このPARTの「省電力機能」(p.58)

さらに次のような点に気をつけると、バッテリーパックを長持ちさせることができます。

- ・バッテリーの残量をできるだけなくしてから充電する
- ・充電はフル充電(バッテリー充電ランプが消灯)になるまで中断しない
- ・定期的にバッテリーリフレッシュを実行する(p.52)
- ・このパソコンを1か月以上使わないときは、バッテリーパックを取り外して、涼しいところに保管する



メモ

バッテリーは自然放電していますので、使用していない場合でも2~3か月に一度は充電することをおすすめします。

バッテリーを充電する



チェック

- ・バッテリーの充電中は、バッテリーパックをパソコンから取り外さないでください。ショートや接触不良の原因になります。
- ・購入直後や長時間放置したバッテリーでは、バッテリー駆動ができないことや動作時間が短くなること、バッテリー残量が正しく表示されないことなどがあります。必ずフル充電してから使用してください。
- ・充電を行う際にはできるだけフル充電するようにしてください。バッテリー残量が少ない場合などに少量の充放電を何度もくりかえして使用すると、バッテリー残量に誤差が生じることがあります。

バッテリーの充電のしかた

バッテリーパックを取り付けてACアダプタをACコンセントに接続すると、自動的にバッテリーの充電がはじまります。
パソコンの電源を入れて使用しているときでもバッテリーは充電されます。



メモ


充電できる電池容量は、周囲の温度によって変わります。また、高温になると充電が中断されることがありますので、18～28℃での充電をおすすめします。



参照

バッテリーの充電時間について PART7の「機能一覧」(p.239, 243)

充電状態を表示ランプで確認する


バッテリーの充電状態を、バッテリー充電ランプ()で確認することができます (p.5)

ランプ		状態
オレンジ	点灯	バッテリー充電中
	点滅	バッテリーのエラー
消灯		ACアダプタが接続されていない、または充電完了

：バッテリーを取り付けなおしてもエラーが出るときは、バッテリーリフレッシュを行ってください(p.52)


バッテリーの残量を確認する

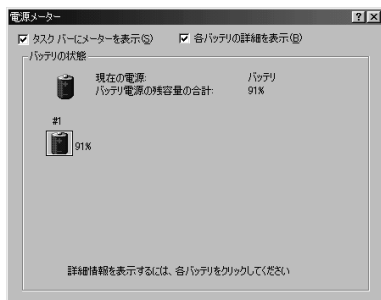
バッテリー残量は、次の3つの方法で確認することができます。

インジケータ領域(タスクトレイ)にある  の上にポインタを合わせる



アイコンはバッテリーの残量により異なります。



インジケータ領域(タスクトレイ)のをダブルクリックして、表示された「電源メーター」ウィンドウを見る




「コントロールパネル」を開き、「電源の管理」アイコンをダブルクリックして、表示された「電源の管理のプロパティ」ウィンドウの「電源メーター」タブを見る




メモ

ACコンセントから電源を供給しているときは、はに変わります。

バッテリー駆動中にバッテリー残量が少なくなったときは

バッテリーの残量が少なくなると、電源ランプが黄色に点灯します。この場合は、次の操作を行ってください。次の操作をしないでそのままにしておくと、再度バッテリー残量が少ないというメッセージが表示され、しばらくすると自動的に休止状態(p.64)になります。

ACコンセントから電源を供給する

いったんパソコンの電源を切り、ACアダプタを接続してACコンセントから電源を供給してください。ACコンセントから電源を供給すると、バッテリー充電ランプ（)が点灯し、バッテリーの充電がはじまります。

ACコンセントが使えない場合

使用中のアプリケーションを終了して、パソコンの電源を切ってください。



チェック

フロッピーディスクやハードディスクの読み書き中にバッテリー残量がなくなり、電源が切れてしまうと、作成中のデータが失われたり、フロッピーディスクやハードディスクのデータが失われたり、壊れたりすることがあります。

バッテリーのみで使用中にバッテリー残量が少なくなったときの動作の設定

バッテリーのみで使用している場合、バッテリー残量が少なくなったとき、どのような動作をさせるかを設定します。設定の手順は次のとおりです。

- 1 「コントロールパネル」を開き、「電源の管理」アイコンをダブルクリックする
- 2 「アラーム」タブをクリックする
- 3 バッテリー残量が少ないときと、バッテリー残量がわずかなときに、それぞれどのような動作をするようにしたいかを設定する
「アラームの動作」ボタンをクリックすると、動作を選ぶことができます。
- 4 「OK」ボタンをクリックする
バッテリー低下アラームとバッテリー切れアラームの設定値は、10%、8%未満に設定しても、それぞれ10%、8%で動作します。

バッテリーリフレッシュ


バッテリーリフレッシュは、一時的に低下したバッテリーの性能を回復させるときに行います。次のようなときには、バッテリーリフレッシュを実行してください。

バッテリーでの駆動時間が短くなった



バッテリーを完全に使い切らないまま充電をくりかえしていると、バッテリーの充電可能容量が目減りして、駆動時間が短くなる場合があります。これをバッテリーのメモリ効果と呼びます。

購入直後や、長期間の放置で、バッテリーの性能が一時的に低下した

バッテリーの残量表示に誤差が生じている


バッテリーの充電が完了し、バッテリー充電ランプ()が消えてしばらくしても、バッテリーの残量表示が95%以上にならない場合は、バッテリーの残量表示に誤差が生じていると考えられます。

バッテリーリフレッシュの実行

- 1 パソコンを使用中の場合は、「スタート」ボタン 「Windowsの終了」で「電源を切れる状態にする」を選び、「OK」ボタンをクリックして電源を切る
- 2 バッテリーパックを取り付けていない場合は、バッテリーパックを本体に取り付ける(p.57)
- 3 パソコンにACアダプタを接続していない場合は、ACアダプタを接続し、電源コードをACコンセントに接続する
- 4 バッテリー充電ランプが点滅している場合は、一度バッテリーパックを本体から外して、再度取り付ける
- 5 バッテリーをフル充電(バッテリー充電ランプが消灯した状態)まで充電する
- 6 電源を入れ、「NEC」のロゴが表示されたらすぐに【F2】を押す
BIOSセットアップメニューが表示されます。
- 7 電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタを本体から取り外す
- 8 【  】または【  】で「バッテリーリフレッシュ」を選び、【Enter】を押す
- 9 「バッテリーリフレッシュを行いますか?」と表示されたら、「はい」を選んで【Enter】を押す
次ような画面が表示されます。



- 10【 】または【 】で「Continue Battery Refresh」を選んで【Enter】を押す
次のような画面が表示され、バッテリーリフレッシュがはじまります。
バッテリーリフレッシュが完了し、バッテリー内の電力がなくなると自動的にパソコンの
電源が切れますので、電源が切れるまでお待ちください。



Battery Refresh Now(55% LEFT).....Don't close Display.....Prease ESC Key to Cancel

 チェック

バッテリーリフレッシュ中は、液晶ディスプレイを開いたままにしてください。液晶
ディスプレイを閉じると、ビピピと警告音が鳴ります。

 メモ

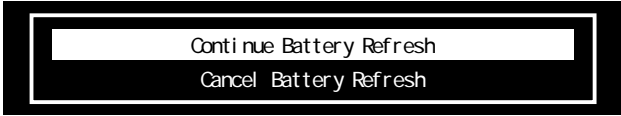
バッテリーリフレッシュの所要時間の目安は、標準バッテリー使用時で約160分
です。

バッテリーリフレッシュを中断する

バッテリーリフレッシュを中断するときは、次の手順で行ってください。

1【Esc】を押す

次のようなメッセージが表示されます。



Continue Battery Refresh
Cancel Battery Refresh

- 2【 】または【 】で「Cancel Battery Refresh」を選び、【Enter】を押す
再起動します。

 メモ

バッテリーリフレッシュ中にパソコンの電源を切ろうとしたり、ACアダプタを
接続したときも、バッテリーリフレッシュの中断を確認するメッセージが表示さ
れます。バッテリーリフレッシュを続ける場合は「Continue Battery Refresh」
を選んでください。中断する場合は「Cancel Battery Refresh」を選ぶと、
バッテリーリフレッシュを中断して再起動します。

バッテリーパックを交換する

交換の目安

フル充電(バッテリーを充電してバッテリー充電ランプ(□)が消灯した状態)にしても使用できる時間が短くなったら、バッテリーリフレッシュ(p.52 を行ってください。それでも使用できる時間が回復しないときは、新しいバッテリーパックを購入して交換してください。

交換用のバッテリーパック

このパソコンに取り付けられる交換用バッテリーパックは次の2種類です。

- ・ PC - VP - WP12(リチウムイオンバッテリーパック)
- ・ PC - VP - WP13(ニッケル水素バッテリーパック)



メモ

リチウムイオンバッテリーパックを取り付けると、ニッケル水素バッテリーパックを取り付けた場合よりも、バッテリー駆動時間が20%程度長くなります。

バッテリーパックの交換のしかた

⚠警告



感電注意

雷が鳴りだしたら、本機や電源コードに触れないでください。また、機器の接続や取り外しを行わないでください。落雷による感電のおそれがあります。



破裂注意



毒物注意

使用を終えたバッテリーパックを分解したり、火気に投じることは危険です。絶対にしないでください。破裂したり、液漏れしたりすることがあります。

⚠注意



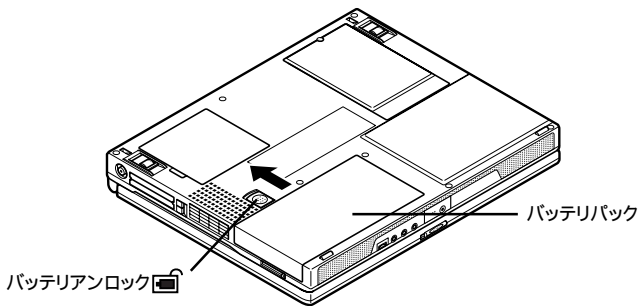
感電注意

濡れた手で電源コードを抜き差ししないでください。感電の原因となります。

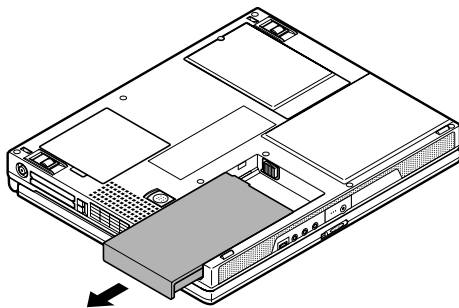
⚠️ チェック

- ・ バッテリスロットの端子部分には絶対に触れないでください。接触不良の原因となります。
- ・ スタンバイ状態のときにバッテリーパックを交換すると、作業中のデータが失われます。電源ランプ (④) が点滅しているときには、一度スタンバイ状態から復帰し、作業中のデータを保存してからWindowsを終了し、パソコンの電源を切ってください。
- ・ 特に必要でない限り、バッテリーパックの取り付けや取り外しをしないでください。故障の原因となります。

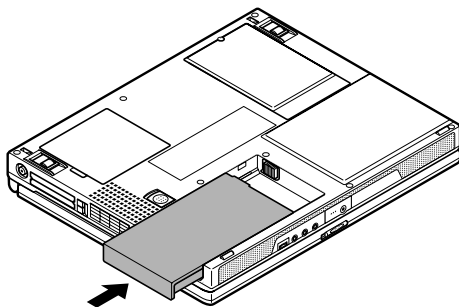
- 1 パソコンを使用中の場合は、「スタート」ボタン「Windowsの終了」で、「電源を切れる状態にする」を選び、「OK」ボタンをクリックして電源を切る
- 2 電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタを本体から取り外す
- 3 液晶ディスプレイを閉じて、本体を裏返す
- 4 バッテリーパックの横にあるバッテリーアンロック (🔒) を矢印の方向にスライドさせる
スライドさせたままの状態、そのまま次の手順へ進んでください。



- 5** バッテリーパックを矢印の方向にスライドさせる
バッテリーパックが外れます。



- 6** 新しいバッテリーパックを矢印の方向にカチッと音がするまでスライドさせる



省電力機能

省電力機能とは

省電力機能とは、CPUやハードディスク、ディスプレイといった、パソコンの主要な部分への電力供給を停止することで、本体の消費電力を抑える機能です。また、作業を一時的に中断したいときや、中断した作業をすぐに再開したいときにも便利な機能です。

このパソコンの省電力機能

このパソコンの省電力機能には、「スタンバイ状態(サスペンド)」、「休止状態(ハイバネーション)」、「Intel® SpeedStep™テクノロジー」があります。「スタンバイ状態」と「休止状態」を合わせて「スリープ状態」と呼ぶこともあります。このパソコンでの省電力機能の設定は、「コントロールパネル」の「電源の管理」で行います。

スタンバイ状態(サスペンド)

作業中のデータを一時的にメモリに保存し、消費電力を抑える機能です。スタンバイ状態のことを「サスペンド」と呼ぶこともあります。データはメモリに保存されているため、すぐに元の状態に戻すことができます。元の状態に戻すことを「復帰(レジューム)」と呼びます。



参照

スタンバイ状態にする 「スタンバイ状態(サスペンド)」(p.60)

休止状態(ハイバネーション)

作業中のデータをハードディスクに保存し、電源を切る機能です。休止状態のことを「ハイバネーション」と呼ぶこともあります。普通に電源を切るとは異なり、次に電源を入れるときに、Windows 98を起動する操作をせずに、すぐに元の状態に戻すことができます。元の状態に戻すことを「復帰(レジューム)」と呼びます。データを保持するための電力を消費しないので、長時間作業を中断するときなどに便利です。



参照

休止状態にする 「休止状態(ハイバネーション)」(p.64)

Intel® SpeedStep™テクノロジー(LC700J、LC600Jのみ)

電源の種類によって、動作性能を切り替えることができます。

BIOSセットアップメニューで設定する方法と、Windows 98のコントロールパネルで設定する方法の2種類があります。



参照

Intel® SpeedStep™テクノロジーの設定をする 「Intel® SpeedStep™テクノロジー」
(p.68)



チェック

BIOSセットアップメニューでも省電力機能の設定項目がありますが、一部を除き、BIOSセットアップメニューでの設定は無効になります。

省電力機能を使用するときの注意

スタンバイ状態または休止状態を利用できないとき

次のようなときには、スタンバイ状態または休止状態にしないでください。パソコンが正常に動かなくなったり、正しく復帰できなくなることがあります。

- ・ プリンタへ出力中
- ・ 通信用アプリケーションを実行中
- ・ 電話回線を使って通信中
- ・ 音声または動画を再生中
- ・ ハードディスク、CD-ROMなどのディスク、フロッピーディスクなどにアクセス中
- ・ システムの「プロパティ」ウィンドウを表示中
- ・ Windowsの起動 / 終了処理中
- ・ スタンバイ状態または休止状態に対応していないアプリケーションを使用中
- ・ スタンバイ状態または休止状態に対応していないPCカードを使用中

スタンバイ状態または休止状態を使用するときの注意

スタンバイ状態または休止状態にするときは、次のことに注意してください。

- ・ スタンバイ状態では、ネットワーク機能が一旦停止します。ネットワークを使用するアプリケーションによっては、スタンバイ状態になった時にデータが失われることがあります。ネットワークを使用するアプリケーションを使う場合には、システム管理者に確認のうえ、スタンバイ状態を使用してください。
- ・ バッテリーのみで使用している場合は、あらかじめバッテリーの残量を確認しておいてください。また、バッテリー駆動時にバッテリー残量が少なくなってきたとき、パソコンをどのような動作にさせるかなどの設定もできます(p.52)。
- ・ スタンバイ状態または休止状態への移行中は、各種ディスクやPCカードの入れ替えなどを行わないでください。データが正しく保存されないことがあります。
- ・ スタンバイ状態または休止状態のときに、PCカードを入れ替えるなどの機器構成の変更をすると、スタンバイ状態から正しく復帰できなくなることがあります。

スタンバイ状態または休止状態から復帰するときの注意

スタンバイ状態または休止状態から復帰させるときには、次のことに注意してください。

- ・スタンバイ状態または休止状態にしてからすぐに復帰させたいときは、パソコンに負担がかからないよう、スタンバイ状態または休止状態になった後、約5秒以上たってから操作してください。
- ・スタンバイ状態または休止状態のときにPCカードの入れ替えや周辺機器の取り付け / 取り外しなどの機器構成の変更をすると、正常に復帰できなくなることがあります。
- ・CD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブにフォトCDを入れたままスタンバイ状態または休止状態にした場合、復帰に時間がかかることがあります。
- ・スタンバイ状態または休止状態からの復帰時にパスワードを入力するように設定してある場合は、パスワード入力画面でパスワードを入力してください。
- ・タイマ、LAN、FAXモデムの自動操作、および液晶ディスプレイを開いてのスタンバイ状態からの復帰を行った場合、本機はスタンバイ状態から復帰していますが、液晶ディスプレイに何も表示されない状態になります。この場合はNXパッドを操作するかキーボードのキーを押すことによって液晶ディスプレイを表示することができます。
- ・SCSI PCカードをご使用の場合、SCSI PCカードと接続されている機器の組み合わせによってはスタンバイ状態または休止状態から正しく復帰できない場合があります。このような場合は、スタンバイ状態または休止状態にしないでください。



参照

パスワード設定時の復帰 このPARTの「セキュリティ機能」の「パスワードを設定しているときの復帰のしかた」(p.74)

スタンバイ状態(サスペンド)

スタンバイ状態にする

購入時の状態では、次のいずれかの方法でスタンバイ状態にすることができます。スタンバイ状態になると、電源ランプ(④)が緑色に点滅します。

Windowsの「スタート」ボタン 「Windowsの終了」をクリックして表示された画面から「スタンバイ」を選び、「OK」ボタンをクリックする

バッテリー駆動時、キーボードやNXパッドからの入力がなくなってから一定時間経過後、自動的にスタンバイ状態にする

ほかにも、設定を行うことにより液晶ディスプレイを閉じたり、電源スイッチを押してスタンバイ状態にすることもできます。

液晶ディスプレイを閉じる



メモ

液晶ディスプレイを閉じたときにスタンバイ状態にするには、「コントロールパネル」を開き、「電源の管理」アイコンをダブルクリックすると表示される「電源の管理のプロパティ」の「詳細」タブで、「ポータブルコンピュータを閉じたとき」を「スタンバイ」に設定する必要があります。



参照

電源スイッチでスタンバイ状態にする 「電源スイッチを押してスタンバイ状態にする」(p.63)



メモ

- ・ATAカードをセットした状態でスタンバイ状態にすると、スタンバイ状態になるまでに時間がかかる場合があります。
- ・「スタート」ボタン 「設定」 「アクティブデスクトップ」の「Webページで表示」にチェックマークが入っていると、自動的にスタンバイ状態にできない場合があります。この場合は、「Webページで表示」をクリックしてチェックマークをはずしてください。

「電源設定」の設定をする

「コントロールパネル」の「電源の管理」の「電源設定」では、スタンバイ状態にするまでの時間を変更したり、ACアダプタ駆動時にもスタンバイ状態になるように設定することができます。

また、あらかじめ設定されている電源設定モードを選んでスタンバイ状態にするまでの時間を設定することもできます。購入時には「常にオン」のモードに設定されています。モードは「常にオン」「ホーム/オフィス デスク」「ポータブル/ラップトップ」の3つのモードがあります。

1 「コントロールパネル」を開き、「電源の管理」アイコンをダブルクリックする
「電源の管理のプロパティ」画面が表示されます。

2 「電源設定」タブをクリックする

3 「電源設定」欄でモードを選ぶか、または下段の「システム スタンバイ」や「モニタの電源を切る」、「ハードディスクの電源を切る」でそれぞれの時間を設定する



- ・システム スタンバイ
指定した時間何の入力もなく、またハードディスクへのアクセスがないと、パソコンがスタンバイ状態になり、消費電力を抑えます。
- ・モニタの電源を切る
入力が何も行われなまま指定した時間が経過すると、モニタの電源を切ります。
- ・ハードディスクの電源を切る
指定した時間ハードディスクへのアクセスがないと、ハードディスクの電源を切ります。

メモ

- ・画面の下段の「××の電源の設定」の「××」には、上段の「電源設定」欄で選んだモード名が表示され、それぞれの項目欄には、モードの設定時間が表示されます。
- ・「電源設定」欄で新しいモードを作成することもできます。

4 「適用」ボタンをクリックして、「OK」ボタンをクリックする

新しいモードを作成する

パソコンの利用状態に合わせて、モードを新たに登録することができます。

- 1 「コントロールパネル」を開き、「電源の管理」アイコンをダブルクリックする
「電源の管理のプロパティ」画面が表示されます。
- 2 「電源設定」タブをクリックする
- 3 「システム スタンバイ」「モニタの電源を切る」「ハードディスクの電源を切る」のそれぞれの時間を設定する
- 4 「名前を付けて保存」ボタンをクリックする
- 5 任意の保存名を入力し、「OK」ボタンをクリックする
これで、新しいモードが登録されました。
- 6 「適用」ボタンをクリックして、「OK」ボタンをクリックする

電源スイッチを押してスタンバイ状態にする

- 1 「コントロールパネル」を開き、「電源の管理」アイコンをダブルクリックする
「電源の管理のプロパティ」画面が表示されます。
- 2 「詳細」タブをクリックする
- 3 「電源ボタン」の欄の「コンピュータの電源ボタンを押したとき」で「スタンバイ」を選ぶ
- 4 「適用」ボタンをクリックして、「OK」ボタンをクリックする

スタンバイ状態から復帰する

スタンバイ状態から元の状態に戻すことを「復帰」または「レジューム」といいます。スタンバイ状態からの復帰は次の方法で行うことができます。

電源スイッチを押す

スタンバイ状態にする前の元の状態が表示されます。



メモ

タスクスケジューラを使って、時刻を指定してスタンバイ状態から復帰することもできます。タスクスケジューラについて詳しくはWindowsのヘルプをご覧ください。

休止状態(ハイバネーション)

休止状態にする

電源スイッチを押す

液晶ディスプレイを閉じる

「Suspend to Disk」の表示とともに、作業状況を示す棒グラフが表示されます。休止状態になると、電源ランプ(④)が消灯し、パソコンの電源が切れます。

上記の方法で休止状態にできるようにするためには、次の「休止状態を利用できるようにする」の手順を行ってください。

休止状態を利用できるようにする

電源スイッチを押して休止状態にする

- 1 「コントロールパネル」を開き、「電源の管理」アイコンをダブルクリックする
「電源の管理のプロパティ」画面が表示されます。
- 2 「休止状態」タブをクリックする
- 3 「休止状態をサポートする」のをにする
- 4 「適用」ボタンをクリックする
- 5 「電源の管理のプロパティ」画面で「詳細」タブをクリックする
- 6 「電源ボタン」の欄の「コンピュータの電源ボタンを押したとき」で「休止状態」を選ぶ
- 7 「適用」ボタンをクリックして、「OK」ボタンをクリックする

液晶ディスプレイを閉じたときに休止状態にする

- 1 「電源スイッチを押して休止状態にする」の手順1～5を行う
- 2 「電源ボタン」の欄の「ポータブルコンピュータを閉じたとき」で「休止状態」を選ぶ
- 3 「適用」ボタンをクリックして、「OK」ボタンをクリックする



- ・ATAカードをセットした状態で休止状態にすると、時間がかかる場合があります。
- ・「スタート」ボタン「設定」「アクティブデスクトップ」の「Webページで表示」にチェックが入っていると、自動的に休止状態にできない場合があります。この場合は、「Webページで表示」をクリックしてチェックマークをはずしてください。

休止状態から復帰する

休止状態から元の状態に戻すことを「復帰」または「レジューム」といいます。休止状態からの復帰は次の方法で行います。

電源スイッチを押す

「Resuming from Disk」の表示とともに、作業状況を示す棒グラフが表示され、復帰が完了すると、元の状態(休止状態に入る前)の画面が表示されます。

休止状態の設定の解除と再設定

休止状態中は、元の状態をハードディスクにファイルとして保存します。このファイルのことを「休止状態のためのファイル」または「ハイバネーション用ファイル」と呼び、購入時には、あらかじめ用意されています。その休止状態ためのファイルをいったん削除することを「休止状態の設定の解除」と呼び、メモリの取り付け/取り外しを行ったり、CDドライブの圧縮/圧縮解除を行ったときには、この「休止状態の設定の解除」を行う必要があります。

設定を解除したあと、再び休止状態を利用したいときは、「休止状態の再設定」で休止状態のためのファイルを作成する必要があります。

休止状態の設定を解除する


休止状態の設定を解除するには、「ハイバネーション設定ユーティリティ」を使いません。

チェック

「ハイバネーション設定ユーティリティ」は、MS-DOSモードで起動します。Windows 98の「MS-DOSプロンプト」ウィンドウでは実行できません。

- 1 「スタート」ボタン 「Windowsの終了」で「MS-DOSモードで再起動する」を選ぶ
- 2 「OK」ボタンをクリックする
MS-DOSモードで再起動します。
- 3 次のように入力する

HIBEROFF 

- 4 次のようなメッセージが表示されたら、電源スイッチ()を押してパソコンの電源を切る

ハイバネーション用ファイルを削除しました。
電源を切って5秒以上たってから再び電源を入れてください。

- 5 5秒以上待ってから、もう一度パソコンの電源を入れる

これで休止状態の機能を使うためのファイル(ハイバネーション用ファイル)が削除され、休止状態の設定を解除することができました。

メモ

すでに休止状態の機能を使うためのファイルが削除されている状態で「ハイバネーション設定ユーティリティ」を実行すると、「ハイバネーション用ファイルは存在しません。」と表示されます。

休止状態を再設定する

休止状態の設定を解除したときや、休止状態のためのファイルを削除してしまったときは、休止状態の再設定を行ってください。



チェック

「ハイバネーション設定ユーティリティ」は、MS-DOSモードで起動します。Windows 98の「MS-DOSプロンプト」ウィンドウでは実行できません。

- 1 「スタート」ボタン 「Windowsの終了」で「MS-DOSモードで再起動する」を選ぶ
- 2 「OK」ボタンをクリックする
MS-DOSモードで再起動します。
- 3 次のように入力する

HIBERON

しばらくの間、ハイバネーション用ファイルの作成画面が表示されることがあります（お使いの機器のメモリ容量によって異なります）。

ハードディスクの空き容量が不足しているというメッセージが表示された場合は、不要なファイルを削除するなどしてハードディスクの空き領域を確保したあと、手順1からやり直してください。必要なハードディスクの空き領域の目安は、パソコンに搭載されているメモリ容量 + 8Mバイトです。

- 4 次のようなメッセージが表示されたら、電源スイッチ()を押してパソコンの電源を切る

ハイバネーションファイルを作成しました。
電源を切って5秒以上たってから再び電源を入れてください。

- 5 5秒以上待つから、もう一度パソコンの電源を入れる



メモ

すでに休止状態の機能を使うためのファイルがある状態で実行すると、「ハイバネーションファイルはすでに存在します」と表示されます。

Intel® SpeedStep™テクノロジーの設定をする

ここでは、LC700J、LC600JのIntel® SpeedStep™テクノロジーについて説明しています。

BIOSセットアップメニューで設定する

BIOSセットアップメニューの「省電力セットアップ」の「Intel(R) SpeedStep(TM)テクノロジー」で設定できます。

モード	機能
自動	AC電源で駆動中にこのパソコンを使用する場合、最高性能で動作します。
バッテリー最適化	常にバッテリー最適性能で動作します。
使用しない	本機能が、無効になります。

購入時の設定



参照

省電力セットアップ PART6の「BIOSセットアップメニュー」(p.205)

Windows 98の「電源の管理」で設定する

- 1 「コントロールパネル」を開き、「電源の管理」アイコンをダブルクリックする
「電源の管理のプロパティ」画面が表示されます。
- 2 「Intel(R) SpeedStep(TM) テクノロジー」タブをクリックする



メモ

インジケータ領域(タスクトレイ)のをダブルクリックしても起動することができます。

パソコンをバッテリーのみで使用するときと、AC電源で使用するときの設定を行います。

バッテリーモードの場合

「バッテリーに合わせたパフォーマンス」に設定されています。この項目は変更できません。

AC電源の場合

「バッテリーに合わせたパフォーマンス」または「最大パフォーマンス」のどちらかを選択できます。

をクリックして選んでください。



メモ

- ・「電源が変更されたときにパフォーマンスを自動的に変更」がになっているとバッテリー駆動からAC駆動に変更した場合、自動的に「AC電源の場合」で設定した動作に変わります。
- ・「パフォーマンスを自動的に変更する前に確認」がになっているとバッテリー駆動からAC駆動に変更した場合に、パフォーマンスを自動的に変更するかどうかの確認メッセージが表示されます。
- ・「Intel(R) SpeedStep(TM) テクノロジ」タブでの設定内容は、このパソコンの終了時にBIOSセットアップメニューに反映されます。

セキュリティ機能

このパソコンのセキュリティ機能

セキュリティ機能を利用すると、パソコンの不正使用やデータの盗難を防止するためのパスワードを設定したり、起動に必要なファイルを保護したりすることができます。



チェック

セキュリティ機能を使用している場合でも、「絶対に安全」ということはありません。重要なデータなどの管理や取り扱いには十分注意してください。

パスワードを設定してパソコンの使用者を制限する

パスワードを設定することで、このパソコンの使用者を制限するとともに、不正使用を防止することができます。パスワードはBIOSセットアップメニューで設定します。パスワードを設定することにより、次のような機能を制限することができます。

- ・ パソコンの起動
- ・ BIOSセットアップメニューの起動と設定変更
- ・ スリープ状態(スタンバイ状態または休止状態)からの復帰
- ・ キーボードやポインティングデバイスからの入力



チェック

- ・ 設定したパスワードを忘れないようにしてください。パスワードは再セットアップしても解除できません。パスワードは忘れないように控えておくことをおすすめします。
- ・ ご購入元、NECフィールドイングの各支店、営業所などにこのパソコンの修理を依頼される際は、設定したパスワードは解除しておいてください。



参照

パスワードを忘れてしまった 『困ったときのQ&A』PART2の「パスワード」

パスワードの種類

設定可能なパスワードには、「スーパーバイザパスワード」と「ユーザパスワード」があります。

スーパーバイザパスワード

スーパーバイザパスワードは、おもに管理者用のパスワードで、管理者以外の不正な使用や設定の変更を防止したり、このパソコンの使用者を制限するために設定します。また、使用者の使用できる機能を制限することもできます。

パスワードを設定しておく、BIOSセットアップメニュー起動時にパスワードの入力画面が表示され、パスワードを入力しないかぎりBIOSセットアップメニューを起動できなくなります。また、パスワード入力のタイミングを、起動時やスリープからの復帰時に設定しておくこともできます。

ユーザパスワード

ユーザパスワードは、スーパーバイザパスワードが設定されていないと設定できないパスワードです。おもに使用者のためのパスワードで、パスワードを入力しないと、パソコンを使用できなくなります。

パスワードを使った管理

たとえば、管理者がスーパーバイザパスワードとユーザパスワードの両方を設定し、通常の利用者にはユーザパスワードのみを通知します。このように設定しておく、管理者以外はBIOSセットアップメニューの設定を変更できなくなります。また、どちらのパスワードも通知されていない人は、パソコンを起動することもできません。

パスワードを設定する

スーパーバイザパスワードとユーザパスワードは、BIOSセットアップメニューで設定します。パスワードを設定後にBIOSセットアップメニューを起動するときは、設定したパスワードを入力しなければ、BIOSセットアップメニューを起動することができなくなります。

- 1 BIOSセットアップメニューを起動する(p.200)
- 2 「セキュリティセットアップ」を選ぶ
- 3 【 】または【 】で、「スーパーバイザパスワードの設定」または「ユーザパスワードの設定」を選ぶ



チェック

スーパーバイザパスワードを設定していないと、ユーザパスワードを設定することはできません。

- 4** 【Enter】を押す
パスワード設定の画面が表示されます。

- 5** パスワードを入力する



パスワードの文字列は、6文字以内で設定してください。使用できる文字は、半角英字のA～Z（大文字 / 小文字の区別はありません）と半角数字の0～9だけです。

- 6** 【Enter】を押す

- 7** 手順5で入力したパスワードを、もう一度入力する

- 8** 【Enter】を押す



設定したパスワードを忘れないようにしてください。パスワードは再セットアップしても解除できません。パスワードは忘れないように控えておくことをおすすめします。

パスワードを入力するタイミング

パスワードを設定しておく、BIOSセットアップメニュー起動時にパスワードを入力するように要求されます。BIOSセットアップメニュー起動時以外にも、次のようなタイミングに設定できます。

パソコンの起動時

パソコンの起動時に常にパスワードを入力するように設定するには、次の手順で行います。

- 1** BIOSセットアップメニューを起動する（ p.200 ）
- 2** 「セキュリティセットアップ」の「起動時のパスワード」を選ぶ
- 3** 「はい」を選ぶ
- 4** BIOSセットアップメニューを終了する

スリープ状態からの復帰時



チェック

「起動時のパスワードを「はい」に設定していないと、「レジューム時のパスワード」の設定は変更できません。

スリープ状態からの復帰時にパスワードを入力するように設定するには、次の手順で行います。

- 1 BIOSセットアップメニューを起動する(p.200)
- 2 「セキュリティセットアップ」の「レジューム時のパスワード」を選ぶ
- 3 「はい」を選ぶ
- 4 BIOSセットアップメニューを終了する

パスワードを入力する

パスワードを設定しているときの電源の入れかた

BIOSセットアップメニューの「セキュリティセットアップ」の「起動時のパスワード」が「はい」に設定されている場合は、次の手順で電源を入れます。

- 1 パソコンの電源を入れる
次のようなパスワードを入力する画面が表示されます。

Enter CURRENT Password : _

- 2 設定されているパスワードを入力する
- 3 【Enter】を押す

正しいパスワードが入力されると、Windowsが起動します。





チェック

- ・ 誤ったパスワードが入力されると、警告が表示されます。パスワードの入力に3回失敗すると、パスワードが入力できなくなります。このときは、電源スイッチ(⏻)を押して電源を切ったあと、もう一度手順1からやり直してください。
- ・ パスワードの入力中にキーボードの【Back Space】などを押しても、文字を修正することはできません。

パスワードを設定しているときの復帰のしかた

BIOSセットアップメニューの「セキュリティセットアップ」の「レジューム時のパスワード」が「はい」に設定されている場合は、次の手順で電源を入れます。

1 パソコンの電源を入れる

キャップスロックキーランプ () とスクロールロックキーランプ () が交互に点灯します。このとき、画面には何も表示されません。



メモ

ランプは、キーボード入力がないと1分ほどで消灯します。消灯後、キーボード入力を行うと、再度ランプが点灯します。

2 設定されているパスワードをキーボードから入力する

3 【Enter】を押す

正しいパスワードが入力されると、データが復帰されてデータの内容が表示されます。





チェック

- ・ スーパーバイザパスワードとユーザパスワードの両方が設定されている場合、前回、電源を入れたときに入力したパスワードでないと復帰できません。
- ・ 誤ったパスワードが入力されると復帰できません。
- ・ パスワードの入力中にキーボードの【Back Space】などを押しても、文字を修正することはできません。

キーボードロック

キーボードロックを設定すると、キーボードやポインティングデバイスからの入力ができなくなります。

キーボードロックを設定する

- 1 パスワードが設定されているときに【Ctrl】+【Alt】+【Back Space】を押す
キャップスロックキーランプ () とスクロールロックキーランプ () が交互に点灯し、キーボードやポインティングデバイスからの入力ができなくなります。





メモ

ランプは、キーボード入力がないと1分ほどで消灯します。消灯後、キーボード入力を行うと、再度ランプが点灯します。

キーボードロックを解除する

キーボードロックは次の手順で解除してください。

- 1 キャップスロックキーランプ()とスクロールロックキーランプ()が交互に点灯していることを確認する
ランプが点灯していないと、パスワードを入力しても解除できません。いずれかのキーを押してランプを点灯させてください。
- 2 設定されているパスワードをキーボードから入力する
このとき、画面にはパスワード入力画面は表示されません。
- 3 【Enter】を押す
正しいパスワードが入力されるとランプは消灯し、キーボードやポインティングデバイスからの入力が可能になります。



チェック

- ・ スーパバイザパスワードとユーザパスワードの両方が設定されている場合、前回、電源を入れたときに入力したパスワードでないと解除できません。
- ・ 誤ったパスワードが入力されると解除できません。
- ・ パスワードの入力中にキーボードの【Back Space】などを押しても、文字を修正することはできません。

その他のセキュリティ機能を使う

起動セクタへのウイルス感染防止

ハードディスクの起動セクタを書き込み禁止に設定できます。起動セクタ部分が削除されたり、書き換えられたりすると、パソコンを正常に起動することができなくなります。書き込み禁止に設定すると、起動セクタをコンピュータウイルスなどから保護できます。

「起動セクタへのウイルス感染防止」の設定は、BIOSセットアップメニューで行います。



参照

ハードディスク起動セクタを保護する PART6の「標準セットアップ」(p.202)

盗難防止用ロック

本体の盗難防止用ロックに市販の盗難防止用ケーブルを取り付けると、本体の盗難を防止できます。



参照

盗難防止用ロック このPARTの「本体の各部の名称」の「本体背面」(p.3)



メモ

このパソコンの盗難防止用ロックは、Kensington社製のマイクロサーバーセキュリティシステムに対応しています。日本国内総販売代理店の連絡先は次のとおりです(2000年5月現在)。

日本ポラデジタル株式会社

〒104-0032 東京都中央区八丁堀1丁目5番2号 はごろもビル

Tel:03-3537-1070 Fax:03-3537-1071

ファイル転送機能

ファイル転送機能について

ファイル転送機能とは、ケーブルを使って2台のパソコン間でデータの交換を行う機能です。

このパソコンでは、シリアルポートまたはパラレルポートをケーブルで接続してファイル転送を行うことができます。

ケーブルによるファイル転送を利用する

ケーブルによるファイル転送の準備をする

ケーブルによるファイル転送を行う場合、2台のパソコンをケーブルで接続する必要があります。ケーブルは次の規則にしたがって接続してください。

- ・シリアルポートとシリアルポート、パラレルポートとパラレルポートのように、2台のパソコンの同じポートを接続する
- ・使用するポート用のクロスケーブルを使用する



参照

- ・シリアルポートに接続する PART4の「シリアルコネクタ」(p. 181)
- ・パラレルポートに接続する PART4の「パラレルコネクタ」(p. 182)

ファイル転送を行う

ファイル転送機能には、Windows 98の「ケーブル接続」を使います。

Windows 98の「ケーブル接続」を使う

「ケーブル接続」は、ケーブルを使って他のコンピュータのネットワークや共有フォルダにアクセスする機能です。

IEEE1394コネクタを使う

このパソコンのIEEE1394コネクタと別のパソコンのIEEE1394コネクタとを別売のIEEE1394接続ケーブル(4ピン-6ピン)(PK-CA109)で接続すると、パソコン間でのファイルの転送ができるようになります。

接続には「IEEE 1394 Network Driver Ver.2.0」が必要になります。このパソコンには、このドライバがインストールされていますので、組み込み作業を行ってからお使いください。

ドライバの組み込み手順については、「スタート」ボタン 「プログラム」 「IEEE1394 Network Driver Ver.2.0」 「はじめにお読みください」をクリックして内容をご覧になったうえで、同一フォルダ内のユーティリティの「開始する」ボタンをクリックしてください。自動的に組み込み作業がはじまります。

サウンド機能

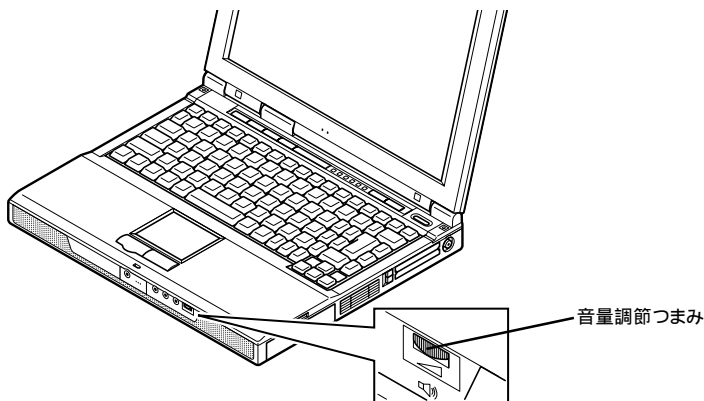
音量を調節するには

このパソコンにはスピーカが内蔵されています。スピーカからの再生音量は、本体の「音量調節つまみ」や、「ボリュームコントロール」を使って調節できます。「ボリュームコントロール」では再生音量だけでなく、録音時の入力レベルなども調節できます。

音量調節つまみを使う

1 音量調節つまみを回して調節する

音量を上げたいときはつまみを右側に回し、下げたいときは左側に回します。



ボリュームコントロールを使う

ボリュームコントロールでは、内蔵音源の再生音量や録音するときの入力レベルを調節することができます。

ボリュームコントロールを起動する

- 1 「スタート」ボタン 「プログラム」 「アクセサリ」 「エンターテイメント」 「ボリュームコントロール」をクリックする
「ボリュームコントロール」の画面が表示されます。



つまみを上下すると、音量調節ができる

をチェックすると消音状態になる

各音源で、左右のスピーカのバランスを調節できる

2 や をドラッグして調節する

チェック

ディスプレイの解像度を低解像度に設定しているときにボリュームコントロールを表示させると、ボリュームコントロールのすべての音源コントロールが表示されない場合や右端の音源コントロールの表示が一部欠ける場合があります。このようなときには、ディスプレイの解像度を変更する(p. 45)か、または「プロパティ」ウィンドウの「表示するコントロール」欄で、使用しない音源の選択を解除し、必要な音源コントロールが表示されるように変更してください。なお、ディスプレイの解像度を変更する場合は、ボリュームコントロールを一旦終了し、解像度を変更後に再度ボリュームコントロールを起動してください。

表示項目を切り替える

ボリュームコントロールに表示させる項目を切り替えることができます。

- 1 メニューバーの「オプション」「プロパティ」をクリックする
「プロパティ」が表示されます。



2 「再生」「録音」のどちらかを にする 表示項目が切り替わります。

設定項目一覧

表示できる項目と各項目の説明は、次のようになります。

項目	音量調整の種類		説明
	再生	録音	
Volume Control			スピーカから出力されるすべての音量を調整します。
W A V E			WAVEなどのPCM音源のボリュームを調整します。
3D Wide			3Dエンハンスメントの効果を調整します。3Dエンハンスメントはステレオ音声に対して効果がかけられます。
ZV Port			ZV Portから入力される音声のボリュームを調整します。
Auxiliary			本機では使用できません。
Video			本機では使用できません。
CD Audio			CD-ROMで再生した音楽CDを再生、または録音する時のボリュームを調整します。
Line			Line Inに接続している機器から入力される音をスピーカから出力するとき、または録音するときのボリュームを調整します。
Microphone			マイクロホン端子から入力される音声をスピーカから出力するとき、または録音するときのボリュームを調整します。
Telephony			ワイヤレスフォン使用時の通話音量を調整します (ワイヤレスインターネットモデルのみ)。
PC Beep			PCMCIA、Modemからのビープ音のボリュームを調整します。
MIDI			MIDIのボリュームを調整します。
Mono+Mic			Line Outへ出力する音声をループバックさせて録音するときのボリュームを調整します。ステレオ音声をミックスしモノラルにした音声が録音されます。
Stereo Out			Line Outへ出力する音声をループバックさせて録音するときのボリュームを調整します。ステレオのまま録音されます。

トーン調整で調整する

- 1 「ボリュームコントロール」画面に「Volume Control」が表示されていることを確認し、メニューバーの「オプション」「トーン調整」をクリックする
「ボリュームコントロール」画面の「Volume Control」項目に「トーン」ボタンが追加表示されます。
- 2 「トーン」ボタンをクリックする
トーン調整画面が表示されます。



チェック

このパソコンでは「そのほかの調整」のみ調整可能です。

ビープ音を設定する

キーボードを使ってビープ音のオン / オフの設定ができます。

- 1 【Fn】+【F6】を押す
キーを押すごとに、ビープ音のオン / オフを切り替えることができます。

光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力機能について

このパソコンには、光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子が用意されており、光デジタル入力を持ったオーディオ機器に接続して音を聞いたり、オーディオ機器にデジタル録音できます。



メモ

光デジタル入力端子を持つオーディオ機器として、MDデッキやAVアンプなどがあります。

光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子からは、スピーカから出力されるすべての音声を出力できます(WAVE出力、MIDI出力、音楽CDなど)。

: 通常は音楽CDのアナログ出力がS/PDIFから光デジタルで出力されています。「コントロールパネル」「マルチメディア」の「音楽CD」タブをクリックし、「このCD-ROMデバイスでデジタル音楽CDを使用可能にする」を にすると、音楽CDのデジタル出力を光デジタルで出力できます。



参照

光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子 PART4の「その他の機器を使う」の「光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子」(p.180)

音声入力機能

ここでは、SmartVoice添付モデルのみの説明をしています。

音声入力の準備


ヘッドセットマイクを接続して「SmartVoice」を使うと、音声でアプリケーションを起動したり文章を入力することができます。

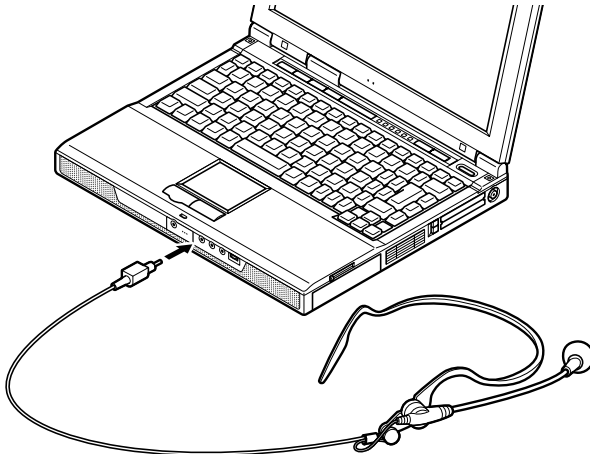
！チェック

- ・ SmartVoiceは、ご購入時にはインストールされていません。SmartVoiceを使う場合は、添付の「アプリケーションCD-ROM」を使ってインストールします。インストール方法は、「サポートセンタ」をご覧ください。
- ・ 音声認識対応のアプリケーションのみ、音声による操作ができます。アプリケーションによっては音声で操作できない場合があります。
- ・ 使用環境、語い、発音のしかた、発声のスピードなどによっては、十分に音声認識されない場合があります。

ヘッドセットマイクの接続

パソコンに音声を入力するために、ヘッドセットマイクを接続します。ヘッドセットマイクは、音声で文字を入力するときなどに、耳にかけて使います。

- 1 ヘッドセットマイクのプラグを、パソコン本体の外部マイクロホン端子() に接続する



SmartVoiceの起動と設定

はじめてSmartVoiceを起動するときは、「入力レベル調整」につづいて「話者の声の登録」を行う必要があります。



チェック

起動中のアプリケーションはすべて終了してください。

- 1 「スタート」ボタン 「プログラム」 「SmartVoice」 「SmartVoiceバー」をクリックする
SmartVoiceバーが表示され、「入力レベルの調整が一度もおこなわれません。」と表示されます。
- 2 「OK」ボタンをクリックする
音声入力のための調整画面が表示されます。
- 3 「すべての調整をおこなう」が選択されていることを確認して、「次へ」ボタンをクリックする
画面の指示にしたがって調整を行ってください。
- 4 「OK」ボタンをクリックする
次に「話者の声の登録」を行います。
- 5 「新しく登録する」が選択されていることを確認して、「次へ」ボタンをクリックする
画面の指示にしたがって調整を行ってください。



メモ

声の登録を多く行うと、認識性能を向上させることができます。声の登録は後から行うこともできます。

「入力レベル調整」と「話者の声の登録」が終了すると、SmartVoiceバーの話者名に名前が表示されます。
これでSmartVoiceが使えるようになります。

音声でパソコンを操作する

ここでは、ワードパッドを起動して、文字を音声で入力します。



メモ

SmartVoiceにはほかにもいろいろな音声入力機能があります。詳しくは、「スタート」ボタン「プログラム」「SmartVoice」の「SmartVoiceユーザーズガイド」または「SmartVoice補足説明」をご覧ください。

1 「ワードパッドをきどう」と発音する ワードパッドが起動します。




チェック




- ・ヘッドセットマイクに向かって何か話したとき、SmartVoiceバーにあるボリュームメーターが動くことを確認してください。
- ・話すときは、ヘッドセットマイクを口から約2cm以内のところに近づけてください。



メモ

- ・SmartVoiceにはあらかじめ、パソコンを操作する音声登録されています。これを音声コマンドといいます。音声コマンドの一覧については、 を押して、「音声コマンドリストの表示」をクリックしてください。
- ・うまく入力できない場合は、「SmartVoiceAssistant」のヘルプまたは「スタート」ボタン「プログラム」「SmartVoice」の「SmartVoiceユーザーズガイド」または「SmartVoice補足説明」をご覧ください。

2 「いんらいんにゆうりょく」と発音する

SmartVoiceバーに  とデスクトップ右下に   が表示されます。



メモ

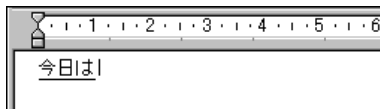
SmartVoiceインラインとは、音声で直接ワープロソフトやメールソフトなどに文章入力することができるSmartVoiceの機能のひとつです。



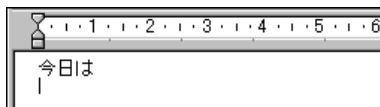
チェック

SmartVoiceインライン入力中はキーボードによる文字入力はできません。





- 3 「こんにちは」と発音する
下線つきの文字が表示されます。



- 4 「けっぺい」「ここがかいぎょう」と発音する
下線が消えて入力する文字が決定し、カーソルが次の行の先頭に移動します。



同じように、文字を音声で入力してみてください。文を一気に読み上げてしまうと正しく認識できません。ゆっくりていねいに発音してください。

- 5 「いんらいんしゅうりょう」と発音する
しばらくすると  と   が消えます。
- 6 「ふいあいる」「わーどぱっどのしゅうりょう」と発音する
ファイルを保存するかどうか確認するためのウィンドウが表示されます。
- 7 「いいえ」と発音する
ここでは文章の保存は行いません。ワードパッドが終了します。
- 8 SmartVoiceバーの  をクリックし、表示されたメニューから「SmartVoiceバーの終了」を選び、クリックする
SmartVoiceバーが消えてSmartVoiceが終了します。

P A R T

2

通信機能

このパソコンを、一般の電話回線、携帯電話、PHS
などに接続して使う方法を説明します。

モデム

内蔵のモデムを利用する

内蔵モデムと電話回線を接続すると、「インターネットに接続する」「メールの送受信をする」「FAXの送受信をする」などができるようになります。

電話回線に接続するときは

使用する電話回線の種類によってはすぐに接続できない場合があります。

電話回線の種類	対処方法
モジュラージャック方式	このパソコンに付属しているモジュラーケーブルを使って接続してください。
3ピンプラグ式コンセント	そのままでは接続できません。市販の3ピンプラグ変換アダプタを使用するか、NTTにモジュラージャックの取り付けをご相談ください。
直結配線方式	そのままでは接続できません。モジュラージャックに変更する必要があります。NTTにモジュラージャックの取り付けをご相談ください。

電話回線に接続する

このパソコンと電話回線とを接続するときは、添付のモジュラーケーブルを使用して、本体のモジュラーコネクタと電話回線を接続してください。接続について詳しくは、『はじめにお読みください』をご覧ください。



参照

電話回線に接続する 『はじめにお読みください』の「インターネットに接続する」



メモ

このパソコンに付属のモジュラーケーブルの長さが足りないときには、十分な長さの市販のモジュラーケーブルを購入してください。



チェック

内蔵のFAXモデムは、加入電話回線に適合するように設計されています。加入電話回線以外と接続すると、うまく動作しないことや、内蔵FAXモデムやパソコン本体などを破損するおそれがあります。

1つの電話回線のモジュージャックをパソコン以外の機器(たとえば電話機など)と共用する場合は、機器を使用することにケーブルの接続や取り外しが必要になります。パソコンと電話機などを両方とも電話回線に接続したままにしたいときは、次の1つの電話回線にパソコンと電話機の両方を接続するをご覧ください。

1つの電話回線にパソコンと電話機の両方を接続する

電話回線のモジュージャックが1つの場合、パソコンで通信している間は、電話機のモジュラーケーブルの接続を取り外す必要があります。電話機のモジュラーケーブルを取り外したくない場合は、市販の分岐アダプタを利用することができます。

⚠警告



感電注意

雷が鳴りだしたら、本機や電源コードに触れないでください。また、機器の接続や取り外しを行わないでください。落雷による感電のおそれがあります。

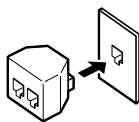
⚠注意



感電注意

モジュージャックの端子に触れないでください。電話回線と接続しているモジュージャックを抜いたときに電話がかかってくると、電話回線上に電圧がかかるため、端子に触れると感電することがあります。

1 分岐アダプタをモジュージャックに接続する



2 モジュラーケーブルを、分岐アダプタの一方と内蔵モデムのモジュージャックに接続する

3 電話機と分岐アダプタのもう一方のモジュージャックを接続する



チェック

- ・分岐アダプタを使用しても、パソコンと電話機が同時に電話回線を使用することはできません。
- ・パソコンで通信中は、電話機の手話器を外さないでください。通信が妨害され、切断されることがあります。



分岐アダプタの2つのモジュージャックは同じものです。電話機とパソコンのどちらも接続可能です。

内蔵モデム使用上の注意

- ・このパソコンでは、データ通信、ファクシミリ通信、インターネット通信の各機能が使えますが、これらの機能は添付のアプリケーション以外では動作しない場合があります。これらの機能の詳しい使用方法については「サポートセンタ」をご覧ください。
- ・内蔵FAXモデムは一般電話回線のみに対応しています。
- ・加入電話回線がトーン式かパルス式かわからないときは、NTTに確認してください。
- ・回線の状態によっては、接続しにくかったり通信時に雑音が入ることがあります。
- ・キャッチホンサービスを受けている場合、モデムで通信中に電話がかかってくると、モデムによる通信が切れる場合があります。
- ・コードレスホンや親子電話などの加入電話回線以外の回線を使っている場合は、正常なデータの送受信ができなくなる場合があります。
- ・回線の状態によっては、希望の通信速度で通信できない場合があります。
- ・電話局の交換機の種類によっては、14400bpsでのファクシミリ通信ができないことがあります。この場合には、通信速度を9600bpsにしてください。
- ・データ通信を行う場合、フロー制御はRTS/CTSに設定してください。それ以外に設定すると、データ抜けが生じる可能性があります。
- ・通常の電話回線を使用する場合、送信レベルは購入時の設定から変更する必要はありません。ただし、回線状態が悪く、うまく接続できない場合には、送信レベルの調整が必要なことがあります。送信レベルの調整は、工事担当者以外が行うことは法律で禁じられていますので、当社指定のサービス窓口にお問い合わせください。
- ・このパソコンに内蔵されているモデムは、海外では使用できません。
- ・ハイパーターミナルなどを使って通信する場合、ATコマンドが必要です。



参照

ATコマンドについて「サポートセンタ」-「パソコンを使いこなそう」-「ハードウェア情報」-「ATコマンド一覧」

インターネットへの通信環境を切り替える

インターネット設定切替ツールを使うと、複数のダイヤルアップ接続を使い分けたり、ダイヤルアップ接続からLAN接続へ切り替えたりと、利用シーンに応じて通信環境を切り替えることができます。


パソコンを携帯して、外出先でインターネットを利用するときなどに便利な機能です。

チェック



- ・ インターネット設定切替ツールは、ご購入時にはインストールされていません。インターネット設定切替ツールを使用する場合は、添付の「アプリケーションCD-ROM」を使ってインストールします。インストール方法は、『サポートセンタ』をご覧ください。
- ・ インターネット設定切替ツールを使うには、ダイヤルアップネットワークの情報がが必要です。ダイヤルアップネットワークが設定されていない場合は、インターネット設定切替ツールは起動できません。
- ・ LANを使った接続を行うには、あらかじめネットワークの設定をしておく必要があります。

インターネット設定切替ツールを起動する

インターネット設定切替ツールは、起動時にアイコン化してインジケータ領域(タスクトレイ)に常駐します。

- 1 インジケータ領域(タスクトレイ)のをダブルクリックする
次の画面が表示されます。



この画面には、ダイヤルアップの接続情報が3つまで表示されます。使用したいダイヤルアップの接続情報が表示されていない場合は、またはをクリックして表示させてください。

メモ

はじめてインターネット設定切替ツールを起動したときは、インターネット設定切替ツールのウィザードが表示されます。ウィザードにしたがって設定を行ってください。

インターネット設定切替ツールを終了するとき

- 1 インジケータ領域(タスクトレイ)のを右クリックし、表示されたメニューから「インターネット設定切替ツールの終了」をクリックする

インターネット設定切替ツールを使うための設定をする


ダイヤルアップ接続の情報を登録する

外出先でインターネットを使うときなどは、あらかじめインターネット設定切替ツールに新しいダイヤルアップ接続の情報を登録しておきます。

- 1 「インターネット設定切替ツール」の「プロパティ」ボタンをクリックする
「プロパティ」ウィンドウが表示されます。



- 2 「ボタン設定」タブをクリックする

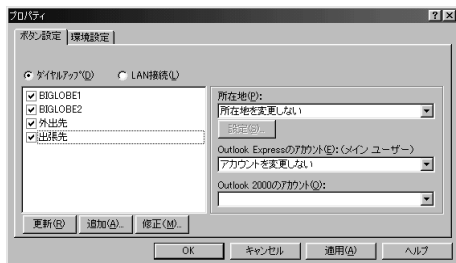
- 3 「ダイヤルアップ」を  にする

- 4 「追加」ボタンをクリックする

- 5 新しく登録する接続名を入力して、「OK」ボタンをクリックする
ここでは例として「出張先」という名前で登録します。

- 6 プロバイダに接続するための電話番号、国番号を入力し、「OK」ボタンをクリックする
「新しいダイヤルアップ ネットワーク接続が次の名前で作成されました。」と表示されます。

- 7 接続名を確認して、「完了」ボタンをクリックする



- 8 「OK」ボタンをクリックする
新しいダイヤルアップ情報「出張先」が登録されます。



ダイヤルアップ接続の情報を修正する
登録した情報を修正したいときは次の手順で行います。

- 1 登録されているダイヤルアップ接続から、変更するものをクリックする
- 2 「修正」ボタンをクリックする
- 3 表示された画面でダイヤルアップ接続の内容を変更する

LAN接続へ切り替えるための設定を行う

インターネット設定切替ツールで、LAN接続への切り替えを利用したい場合は、次の手順で設定を行っておいください。

- 1 「インターネット設定切替ツール」の「プロパティ」ボタンをクリックする
「プロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 2 「環境設定」タブをクリックする



- 3 「LANを使用する」をにし、「OK」ボタンをクリックする
これでインターネット設定切替ツールでLAN接続への切り替えができるようになります。

接続環境を反映するメールソフトを選ぶ

インターネット設定切替ツールで接続環境を切り替えたときに、切り替えた接続環境の情報をどのメールソフトに反映するかを選んでおきます。

接続環境を変更すると、メールソフトでも新たにその接続環境を設定しておく必要があるのですが、ここで選んだメールソフトは、メールソフト側で設定変更することなく使えるようになります。



メモ

インターネットエクスプローラは、接続環境の切り替えを自動的に認識しますので、ここで設定する必要はありません。


- 1 「インターネット設定切替ツール」の「プロパティ」ボタンをクリックする
「プロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 2 「環境設定」タブをクリックする
- 3 「切り替えるAPを選択してください」欄で、接続環境を反映するメールソフトを にする
- 4 「OK」ボタンをクリックする
これで通信環境を切り替えるための設定ができました。

インターネット設定切替ツールで、より詳細な設定を行いたい場合は、「詳細設定」(p.97)をご覧ください。

接続環境を切り替える

- 1 「インターネット設定切替ツール」を起動する



- 2 切り替える接続環境名をクリックする
または、インジケータ領域(タスクトレイ)の  を右クリックし、表示されたメニューから切り替える接続環境名をクリックする

これでインターネットへの接続環境が切り替わります。

詳細設定

接続環境の詳細設定は「プロパティ」ウィンドウで行います。



ダイヤルアップ / LAN接続

設定を行いたい接続の種類をクリックして☉にします。

接続名表示欄

登録されているダイヤルアップ接続名が表示されています。接続名の左を☑にすると、メイン画面やタスクトレイからのメニューにダイヤルアップ接続環境名として表示されるようになります。

「更新」ボタン

登録してあるダイヤルアップの接続情報を自動更新することができます。インターネット設定切替ツールで接続環境を設定したあとで、インターネット設定切替ツールを使用せずに直接ダイヤルアップ接続の設定を追加や削除した場合は、このボタンをクリックしてください。現在のダイヤルアップ接続の情報が取り込まれ、インターネット設定切替ツールの環境設定に反映されます。

「修正」ボタン

登録してあるダイヤルアップ接続の情報を変更することができます。

所在地

「所在地を変更しない」を選んだ場合、接続環境を切り替えても所在地情報は変更されません。「所在地情報名」を選んだ場合は、接続環境を切り替えるとシステム上の所在地情報に反映されます。

アカウントの選択

使用するメールソフトのどのアカウントに接続情報を反映するかを選ぶことができます。この項目を使用するには、メールソフトで複数のアカウントを作成しておく必要があります。

ワイヤレス通信機能

ここでは、ワイヤレスインターネットモデルのみの説明をしています。

ワイヤレス通信機能を使う

ワイヤレスインターネットモデルでは、添付のワイヤレスモデムステーションと電話回線を接続しておく、ワイヤレスモデムステーションからの電波が届く範囲内であれば、どこでもインターネットやメールを利用できます。また、このパソコンと電話回線をモジュラーケーブルで接続しなくても良いので、ケーブルの長さや設置場所を気にする必要もありません。

⚠ 警告



航空機内や病院内などのPHS端末の使用を禁止された区域では、本機とワイヤレスモデムステーションの電源を切ってください。電子機器や医用機器に影響を与え、事故の原因となるおそれがあります。

植込み型心臓ペースメーカを装着されている方は、本機とワイヤレスモデムステーションをペースメーカ装着部から22cm以上離して使用してください。電波により影響を受けるおそれがあります。

電話回線に接続する

添付のワイヤレスモデムステーションと電話回線を接続するときは、ワイヤレスモデムステーションに添付のモジュラーケーブルを使って接続してください。



参照

電話回線に接続する 『はじめにお読みください』の「インターネットに接続する」

接続先を設定する

プロバイダなどへの接続先を、ワイヤレスモデムステーションを使用した接続設定にすることは、「ダイヤルアップネットワーク」で「新しい接続」を作成するときに、「モデムの選択」で「NEC PIAFS64K Wireless(DCXB)」を選んでください。

ダイヤル方法の設定をする

ワイヤレスモデムステーション背面の回線スイッチは、ご利用の電話回線のダイヤル方法に合わせて変更する必要があります。



参照

回線スイッチの変更について『はじめにお読みください』の「インターネットに接続する」またはワイヤレスモデムステーションのマニュアル

パソコンがワイヤレスモデムステーションと通信可能な圏内にあるか確認する

メール着信ランプ(☑)で確認する

BIOSセットアップメニューの「周辺機器セットアップ」「PIAFS使用時のランプ切り替え」を「圏内」に設定すると、パソコンがワイヤレスモデムステーションと通信可能な圏内にあるかをメール着信ランプ(☑)で確認することができます。

ランプ	状態
緑点灯	通信圏内
消灯	通信圏外

「アンテナくん」で確認する

このパソコンにインストールされている「アンテナくん」を使って、パソコンがワイヤレスモデムステーションと通信可能な圏内にあるかを、画面に表示されるアイコンの状態を確認することができます。

「アンテナくん」の基本的な使いかた

「アンテナくん」を起動して画面にアイコンを表示しておく、パソコンがワイヤレスモデムステーションから受信する電波の状態によって、アイコンの状態が変化します。アイコンの状態によって、パソコンがワイヤレスモデムステーションと通信可能な圏内にあるかを確認することができます。通信可能な圏内にある場合は、アイコンの状態によって、受信している電波の状態(強弱)を確認することができます。

表示するアイコンの種類と大きさ、アイコンを表示する場所は、設定によって変更することができます。アイコンの状態は、受信している電波の状態によって異なります。

ここでは、購入時に設定されている状態で「アンテナくん」を使う方法について説明しています。「アンテナくん」で設定できる項目については、「アンテナくん」の設定をする（ p.102 ）をご覧ください。設定を変更した後の詳しい使いかたについては、「アンテナくん」のオンラインヘルプをご覧ください。




参照

「アンテナくん」のオンラインヘルプを見る 「アンテナくん」のヘルプを見る（ p.102 ）

購入後、はじめて「アンテナくん」を使うときは、セットアップが必要です。セットアップを行うときは、次の「アンテナくん」をセットアップする」をご覧ください。

「アンテナくん」をセットアップする

次の手順は、購入後はじめて「アンテナくん」を使うときのみ必要です。

- 1 デスクトップにある  をダブルクリックする
- 2 「アンテナくん セットアップへようこそ」と表示されたら「次へ」ボタンをクリックする
- 3 「インストール先の選択」画面が表示されたら「次へ」ボタンを押す
- 4 「プログラム フォルダの選択」画面が表示されたら「次へ」ボタンをクリックする
セットアップが始まります。
- 5 「セットアップの完了」画面が表示されたら「完了」ボタンをクリックする
「セットアップの完了」画面が消えたら、セットアップは完了です。

「アンテナくん」を起動する

- 1 「スタート」ボタン 「プログラム」 「アプリケーション」 「アンテナくん」をクリックする



デスクトップに  が、インジケータ領域(タスクトレイ)に  が表示されます。

ここで表示される  は、電波の状態がきわめて良好な状態を示しています。

「アンテナくん」を終了する








- 1 デスクトップにある  を右クリックする

- 2 表示されたメニューから「終了」をクリックする

「アンテナくん」が終了して、デスクトップから  が、インジケータ領域(タスクトレイ)から  が消えます。

電波の状態を確認する


画面に表示される「アンテナくん」のアイコンは、パソコンがワイヤレスモデムから受信する電波の状態によって、次のように変化します。

アイコンの状態	電波の状態
 (測定不能)	測定不能な状態を表しています。
 (通信中)	通信アプリケーションがワイヤレス通信機能を使用している状態を表しています。
 (圏外)	パソコンがワイヤレスモデムステーションと通信可能な圏内でない状態を表しています。
 (電波弱)	悪い状態を表しています。
 (電波中)	やや悪い状態を表しています。
 (電波強)	良好な状態を表しています。
 (電波極強)	きわめて良好な状態を表しています。

他の通信アプリケーション(「ワイヤレスフォン」など)を起動している場合にも「通信中」が表示されます。この場合には通信アプリケーションを終了してください。

「アンテナくん」の設定をする

表示するアイコンの種類や、アイコンを表示する位置など、「アンテナくん」をより使いやすく設定することができます。


- 1 「アンテナくん」を起動する(p.101)
- 2 デスクトップにある  を右クリックする
- 3 表示されたメニューから、次の項目を選んで設定を行う。
 - ・「最小化」
 - ・「常に手前に表示」
 - ・「位置を固定する」
 - ・「最小化時の機能設定」
 - ・「機能の設定」
 - ・「画像の設定」
 - ・「サイズの設定」

設定する項目について詳しくは、「アンテナくん」のオンラインヘルプをご覧ください。



「アンテナくん」のオンラインヘルプを見る 次の「アンテナくん」のヘルプを見る」

「アンテナくん」のヘルプを見る

- 1 「アンテナくん」を起動する(p.101)
- 2 デスクトップにある  を右クリックする
- 3 表示されたメニューから、「ヘルプ」「目次」をクリックする
「アンテナくん」のオンラインヘルプが起動し、起動画面が表示されます。

ワイヤレス通信機能を使用するときの注意

- ・ワイヤレス通信機能が使用できない場合は、BIOSセットアップメニューが次のように設定されているかを確認してください。もし、設定内容が異なっている場合は、次のように設定を変更し、ワイヤレス通信機能を使用できるようにしてください。

設定項目	設定内容
「周辺機器セットアップ」の「オンボードシリアルポート2」	自動

- ・このパソコンとワイヤレスモデムステーションは、電波を用いて通信を行います。周囲の電波状況により、ワイヤレスモデムステーションの電波を受信できなかったり、正常に通信ができない場合がありますので、次の点に注意してください。
 - このパソコンとワイヤレスモデムステーションの通信距離は、見通し距離で約100m以内ですが、周囲の環境や建物の構造によっては通信距離が短くなります。
 - このパソコンとワイヤレスモデムステーションは、他の機器(電気機器、AV機器、OA機器、デジタルコードレス電話機、無線を使用するターミナルアダプタなど)を使用している環境では影響を受けやすいため、まれにワイヤレスモデムステーションの電波を受信できなかったり、通信ができない場合があります(メール着信ランプ(☐)が消灯状態になります)。その場合は、数分待ってから通信を行ってください。それでも通信ができない場合は、他の機器から距離を離してください。
 - このパソコンとワイヤレスモデムステーションの近くでは、無線を使用する機器(デジタルコードレス電話機、FAX、ターミナルアダプタ、ホームアンテナなど)を同時に4台以上使用しないでください。
- ・ワイヤレスモデムステーションとパソコンの距離が近すぎると、通話にノイズが入ったり、データ通信でエラーが発生する場合があります。
- ・アナログ回線の状態が悪い場合は、通信の途中で切断されることがあります。
- ・ハイパーターミナルなどを使って通信する場合は、ATコマンドが必要です。



参照

ATコマンドについて「サポートセンタ」-「パソコンを使いこなそう」-「ハードウェア情報」-「ATコマンド一覧」

- ・お使いの構内交換機によっては、外線発信番号のダイヤル間隔に対応できない場合があります。その場合は、外線発信番号の必要がない回線を使用してください。

ワイヤレス通信機能を活用する

ワイヤレスモデムステーションとこのパソコンとは、親機（ワイヤレスモデムステーション）と子機（パソコン）の関係になっています。親機として別売のワイヤレスモデムステーションを追加したり、子機としてワイヤレス通信機能のあるパソコンを追加することで、さらにワイヤレス通信機能を活用することができます。

親機に子機を追加登録する

添付のワイヤレスモデムステーションには、このパソコンが子機としてあらかじめ登録されています。ワイヤレスモデムステーションに、別売のワイヤレス通信機能のあるパソコンなどを追加登録すると、ワイヤレスモデムステーションを介して、このパソコンと追加登録したパソコンとの間でワイヤレスにデータの転送が可能になります。



メモ

ワイヤレスモデムステーションに子機を追加登録するには、「無線の増設登録（有料）」が必要です。ご購入元、NECフィールドイングの各支店、営業所などに相談してください。



参照

ワイヤレスモデムステーションに子機を追加登録する 添付のワイヤレスモデムステーションのマニュアル

ワイヤレスでデータを転送する

このパソコンと追加登録した別売のパソコンとの間でワイヤレスにデータの転送を行うには、次の手順が必要です。

2台あるパソコンは、1つをサーバ側、もう1つをクライアント側として設定します。データ通信するための接続が完了すると、相互にデータの転送が可能になります。

サーバ側のパソコンの設定をする

サーバ側のパソコンの設定は、次の手順で行います。

- 1.サーバ側のパソコンをサーバとして使用可能な状態にする
- 2.ファイルを共有できるようにする
- 3.サーバのコンピュータ名を設定する
- 4.フォルダを共有できるようにする
- 5.サーバを待機状態にする

1. サーバ側のパソコンをサーバとして使用可能な状態にする

- 1 「コントロールパネル」を開き、「アプリケーションの追加と削除」アイコンをダブルクリックする
「アプリケーションの追加と削除」の画面が表示されます。
- 2 「Windows ファイル」タブをクリックする
- 3 「ファイルの種類」欄の「通信」をクリックして、「詳細」ボタンをクリックする
- 4 表示された「ファイルの種類」から「ダイヤルアップ サーバー」をにする
- 5 「OK」ボタンをクリックする
- 6 「適用」ボタンをクリックする
ファイルのコピーがはじまります。

2. ファイルを共有できるようにする

- 1 「コントロールパネル」を開き、「ネットワーク」アイコンをダブルクリックする
「ネットワーク」の画面が表示されます。



メモ


CyberTrio-NXのモード変更を促す画面が表示された場合は「アドバンスモードに変更」をクリックしてください。そのあと、もう一度手順1を行ってください。

- 2 「ファイルとプリンタの共有」ボタンをクリックする
「ファイルとプリンタの共有」の画面が表示されます。
- 3 「ファイルを共有できるようにする」をにする
- 4 「OK」ボタンをクリックする


3. サーバのコンピュータ名を設定する

- 1 「ネットワーク」の画面で「識別情報」タブをクリックする
- 2 「コンピュータ名」にサーバのコンピュータ名を入力する
サーバの名前は、あとで設定するクライアントの名前とは異なるものに設定してください。
- 3 「OK」ボタンをクリックする

4. フォルダを共有できるようにする

- 1 「スタート」ボタン 「プログラム」 「エクスプローラ」をクリックする
「エクスプローラ」の画面が表示されます。
- 2 共有したいフォルダをクリックする
- 3 「ファイル」メニュー 「共有」をクリックする
- 4 「共有する」を  にして、「OK」ボタンをクリックする
必要に応じて、アクセス権を設定してください。

5. サーバを待機状態にする

- 1 「マイコンピュータ」の画面で、「ダイヤルアップネットワーク」アイコンをダブルクリックする
「ダイヤルアップネットワーク」の画面が表示されます。
- 2 「接続」メニュー 「ダイヤルアップサーバー」をクリックする
「ダイヤルアップサーバー」の画面が表示されます。
- 3 モデムが複数インストールされている場合は、それぞれのモデムのタブが表示されるので、「NEC PIAFS64K Wireless(DCXB)」を選ぶ
- 4 「着信する」を  にする
- 5 「サーバーの種類」ボタンをクリックする
「サーバーの種類」画面が表示されます。
- 6 「ダイヤルアップサーバーの種類」で「PPP: インターネット、Windows NT Server、Windows 98」を選ぶ
- 7 「OK」ボタンをクリックする
- 8 「適用」ボタンをクリックして、「OK」ボタンをクリックする

クライアント側のパソコンの設定をする

クライアント側のパソコンの設定は、次の手順で行います。

- 1 .ファイルを共有できるようにする
- 2 .クライアントのコンピュータ名を設定する
- 3 .新しい接続先を作成する
- 4 .サーバ側のパソコンと接続する
- 5 .サーバ側のパソコンを検索する

1. ファイルを共有できるようにする

- 1 「コントロールパネル」を開き、「ネットワーク」アイコンをダブルクリックする
「ネットワーク」の画面が表示されます。
- 2 「ファイルとプリンタの共有」ボタンをクリックする
「ファイルとプリンタの共有」の画面が表示されます。
- 3 「ファイルを共有できるようにする」をにする
- 4 「OK」ボタンをクリックする

2. クライアントのコンピュータ名を設定する

- 1 「ネットワーク」の画面で「識別情報」タブをクリックする
- 2 「コンピュータ名」にクライアントのコンピュータ名を入力する
クライアントの名前は、先に設定したサーバの名前とは異なるものに設定してください。
- 3 「OK」ボタンをクリックする

3. 新しい接続先を作成する

- 1 「マイコンピュータ」の画面で、「ダイヤルアップネットワーク」アイコンをダブルクリックする
「ダイヤルアップネットワーク」の画面が表示されます。
- 2 「新しい接続」アイコンをダブルクリックする
「新しい接続」の画面が表示されます。
- 3 「接続名」と「モデムの選択」で、「NEC PIAFS64K Wireless (DCXB)」を選ぶ
- 4 「次へ」ボタンをクリックする
- 5 「電話番号」の欄に、サーバの内線番号を入力する
購入時には、このパソコンの内線番号は「91」に設定されています。このパソコンをサーバ用のパソコンとして設定している場合は、電話番号の欄に「#*91PF」を入力します。
- 6 「次へ」ボタンをクリックする
- 7 「完了」ボタンをクリックする

4. サーバ側のパソコンと接続する

- 1 作成した接続先のアイコンを右クリックして、プロパティを選ぶ
- 2 「市外局番とダイヤルのプロパティを使う」を にし、「OK」ボタンをクリックする
- 3 作成した接続先のアイコンをダブルクリックする
作成した接続先の画面が表示されます。
- 4 「電話番号」の欄に設定した電話番号(「#*」+ 内線番号 + 「PF」)になっていることを確認する
- 5 「接続」をクリックしてサーバ側のパソコンにダイヤルアップする

5. サーバ側のパソコンの共有フォルダを検索する

- 1 「スタート」ボタン 「プログラム」 「エクスプローラ」をクリックする
「エクスプローラ」の画面が表示されます。
- 2 「ツール」メニュー 「検索」 「ほかのコンピュータ」をクリックする
「検索:コンピュータ」の画面が表示されます。
- 3 「名前」欄にサーバのコンピュータ名を入力して「検索開始」ボタンをクリックする
- 4 サーバ側のパソコンを見つけたら、アイコンをダブルクリックする
共有フォルダが表示されます。

これで、サーバ側とクライアント側のパソコンとでの相互間のデータ転送が可能になります。

親機(ワイヤレス通信機器)を増やす

複数の電話回線を利用できる環境にあるときは、親機を増やすことができます。このパソコンを子機として複数の親機に登録することができます。

利用できる親機には、次の機器があります。

- ・ Aterm WM56
- ・ Aterm IW50/D



メモ

このパソコンを別売の親機に追加登録するには、「無線の増設登録(有料)」が必要です。ご購入元、NECフィールドディングの各支店、営業所などに相談してください。

通信速度を変更する

購入時には、ワイヤレスモデムステーションの通信速度は64kbpsに設定されています。通信速度を32kbpsに変更したいときは、「ダイヤルアップの接続」画面の電話番号の最後に「PF」を追加してください。

ワイヤレスフォンを使う

ワイヤレスフォンでは、このパソコンと添付のワイヤレスモデムステーションを使って電話をかけたり受けたりし、パソコンを電話機のように使うことができます。ワイヤレスフォンでの相手との通話には、別売のヘッドセットを使用してください。また、添付のワイヤレスモデムステーションに子機としてパソコンを追加登録してある場合は、登録してあるパソコン間で内線電話として使うこともできます。機能や使いかたについて詳しくは、ワイヤレスフォンのヘルプをご覧ください。



メモ

ワイヤレスフォンのヘルプは、ワイヤレスフォンの画面の「ヘルプ」ボタンをクリックすると表示されます。



チェック

このパソコンでワイヤレスフォンを使って電話をかけたり受けたりするためには、別売のヘッドセット(ヘッドホン付きマイクロホン) PK-SU004またはPK-SU005)が必要です。なお、ヘッドセット使用中は、内蔵マイクロホンや内蔵スピーカの機能は使用できなくなります。

ワイヤレスフォンを使用するときの注意

- ・ワイヤレスフォンで回線接続した後に、FAXやインターネット、メールなどのデータ通信機能に移行することはできません。他のアプリケーションでデータ通信してください。
- ・このパソコンに接続した電話機で電話をかけて通話しているときに、その通話をワイヤレスフォンに切り替えることはできません。
- ・ワイヤレスフォンを使って通話中は、このパソコンをスタンバイ状態にすることはできません。

- ・ワイヤレスフォンには留守録、保留、いたずら電話などの撃退、リモートでの操作の機能はありません。また、ナンバーディスプレイには対応していません。
- ・ワイヤレスフォンで通話中に、ワイヤレス通信機能を使用する他の通信ソフトは使用できません。他の通信ソフトを使用するときは、ワイヤレスフォンでの通話を終了してください。
- ・内線からの0発信はできません。
- ・ワイヤレスフォンではFAXの送受信はできません。FAXを送受信するときは、内蔵FAXモデムを使用する添付のFAX-NXを利用してください。

ワイヤレスフォンの起動と終了

起動する

- 1 「スタート」ボタン 「プログラム」 「アプリケーション」 「ワイヤレスフォン」をクリックする
次のような画面が表示されます。



名称	機能
RING点滅部	RING検出時に緑色に点滅
情報表示パネル	日付や通話時間などを表示
「設定」ボタン	設定画面を表示
「アドレス」ボタン	アドレス帳を起動
「切断」ボタン	通話の切断
「クリア」ボタン	ダイヤル入力の消去
「数字」ボタン	電話番号の入力
「リダイヤル」ボタン	リダイヤル
「ダイヤル」ボタン	電話をかける / 受ける
「ヘルプ」ボタン	ヘルプを表示

終了する

- 1 「ワイヤレスフォン」の画面右上の をクリックする

ワイヤレスフォンの設定をする

ワイヤレスフォンを使う前の基本設定をする

- 1 「ワイヤレスフォン」で「設定」ボタンをクリックする
「電話のプロパティ」画面が表示されます。

2 各種の設定を行う



「既定値に戻す」ボタン

クリックすると、設定を購入時の初期状態に戻します。

回線デバイス

ワイヤレスフォンを使用している場合は、内蔵のワイヤレス通信機能のドライバ名が表示されます。

RING検出時に画面を元に戻して表示

ワイヤレスフォンをアイコン表示にしているときに電話がかかってきた場合、ワイヤレスフォン画面を通常のサイズに戻して表示します。

「タッチダイヤルの設定」ボタン

クリックすると、タッチダイヤルの登録を行うことができます。

設定方法について詳しくはワイヤレスフォンのヘルプをご覧ください。ワイヤレスフォンのヘルプは、ワイヤレスフォンの画面の「ヘルプ」ボタンをクリックすると表示されます。

ワイヤレスフォンの音量を調節する

ワイヤレスフォンの音量を調節するときは、ボリュームコントロールの「Telephony」(p.81)を使用してください。



チェック


音量を上げ過ぎると、音割れやノイズが発生することがあります。

ワイヤレスフォンで電話をかける

電話をかける



ワイヤレスフォンで電話をかける場合には、次のような方法があります。

ワイヤレスフォン画面の数字ボタンでダイヤルする


- 1 「数字」ボタンを使って、相手先の電話番号を入力する
情報表示パネルに入力した電話番号が表示されます。
電話番号はキーボードから入力することもできます。
- 2  「ダイヤル」ボタン をクリックする
相手先にダイヤルされます。相手先とつながると通話をはじめられます。通話中は、情報表示パネルに通話時間が表示されます。


アドレス帳からダイヤルする

あらかじめアドレス帳に相手先の電話番号などを入力しておく、電話をかけるときにアドレスから電話番号を選んで電話をかけることができます。

- 1  「アドレス」ボタン をクリックする
アドレス帳が表示されます。
- 2 表示されたアドレス帳で相手先の電話番号をクリックする
ワイヤレスフォン画面の情報表示パネルに相手先の電話番号が表示されます。
- 3  アドレス帳の「ダイヤル」ボタン をクリックする
相手先にダイヤルされます。相手先とつながると通話をはじめられます。通話中は、情報表示パネルに通話時間が表示されます。

ツータッチダイヤルからダイヤルする


ツータッチダイヤルに相手先の電話番号を登録しておく、登録したID番号をクリックした後に、 「ダイヤル」ボタン をクリックするだけで、電話をかけることができます。

- 1 「数字」ボタンを使って、登録してあるID番号を入力する
- 2  「ダイヤル」ボタン をクリックする
相手先にダイヤルされます。相手先とつながると通話をはじめられます。通話中は、情報表示パネルに通話時間が表示されます。




メモ
ツータッチダイヤルの登録は、ワイヤレスフォン画面の「設定」ボタンをクリックすると表示される「電話のプロパティ」画面の「ツータッチダイヤルの設定」ボタンをクリックして行います。登録のしかたについて詳しくは、ワイヤレスフォンのヘルプをご覧ください。

通話が終わったら


- 1  「切断」ボタン をクリックする



相手が電話を切っても自分側は通話状態のままなので、通話が終わったら  「切断」ボタン をクリックして電話を切ってください。

リダイヤルする

- 1 「リダイヤル」ボタン をクリックする
前回ダイヤルした電話番号が情報表示パネルに表示されます。

- 2  「ダイヤル」ボタン をクリックする
相手先にダイヤルされます。相手先とつながると通話をはじめられます。通話中は、情報表示パネルに通話時間が表示されます。





リダイヤルの履歴情報は、過去1件のみです。また、履歴情報は保存されるので、ワイヤレスフォンを終了しても消去されません。


ワイヤレスフォンで電話を受ける

電話を受ける


電話がかかってくると、画面左上にある  (RING点滅部) が緑色に点滅します。

- 1  (RING点滅部) が緑色に点滅したら、  「ダイヤル」ボタン をクリックする
通話ができるようになります。通話中は、情報表示パネルに通話時間が表示されます。

通話が終わったら

- 1  「切断」ボタン をクリックする



相手が電話を切っても自分側は通話状態のままなので、通話が終わったら  「切断」ボタン をクリックして電話を切ってください。

インターネットへの通信環境を切り替える

インターネット設定切替ツールを使うと、このパソコンの内蔵モデムやワイヤレスモデムステーションの通信設定を簡単に切り替えることができます。



参照

インターネット設定切替ツールの使いかた このPARTの「モデム」の「インターネットへの通信環境を切り替える」(p.93)

PHS インターフェイス

ここでは、ワイヤレスインターネットモデルのみの説明をしています。

PHSと接続する

このパソコンには、PHS(NTTドコモ / アステル)接続ケーブルが添付されています。添付のケーブルを使ってNTTドコモまたはアステルのPHSと接続し、屋外でもインターネットや電子メールを利用することができます。

接続できるPHSの機種については、NECのホームページ(98Information)をご覧ください。

<http://www.nec.co.jp/98/>



メモ

- ・PIAFSとは、PHS Internet Access Forum Standardの略称で、PHSによるデジタルデータ通信の標準規格です。
- ・このパソコンのPHSインターフェイスにPHSを接続してインターネットや電子メールをご利用になるには、お使いになっているPHSと、プロバイダやパソコン通信会社のアクセスポイントがPIAFSに対応している必要があります。PIAFSに対応していれば、PHSのデジタル通信回線(32kbps、64kbps)を利用して、高速な通信を行うことができます。ご利用のプロバイダやパソコン通信会社にご確認ください。

このパソコンにPHSを接続する方法は、次のとおりです。

1 本体や周辺機器の電源を切る

パソコンの電源を切り、ACアダプタをコンセントから抜いてください。プリンタなどの周辺機器をつないでいる場合、すべての周辺機器の電源コードのプラグとACアダプタをコンセントから抜いてください。

⚠ 警告



感電注意

雷が鳴り出したら、本機や電源コードに触れないでください。また、機器の接続や取り外しを行わないでください。落雷による感電のおそれがあります。

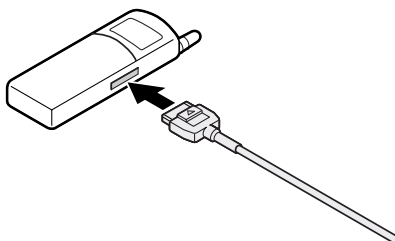
⚠ 注意





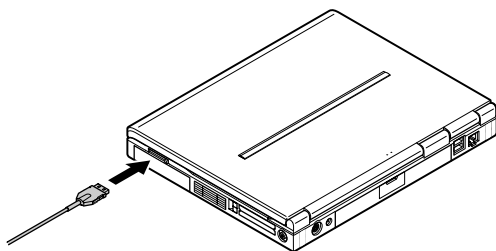
感電注意

モジュラージャックの端子に触れないでください。電話回線と接続しているモジュラージャックを抜いたときに電話がかかってくると、電話回線上に電圧がかかるため、端子に触れると感電することがあります。

- 2** PHS(NTTドコモ / アステル)接続ケーブルの小さいほうのコネクタを、PHS本体に接続する
コネクタの向きに注意し、カチッと音がして止まるまで軽く押し込んでください。



- 3** パソコンの右側面のPHSインターフェイス()に、もう一方のコネクタを  マークがある方を上にして接続する
コネクタの向きに注意して、止まるまで軽く押し込んでください。



PHSインターフェイス使用上の注意

- ・ PHS接続時は、ワイヤレス通信機能を使ってダイヤル発信をすることができません。ワイヤレス通信機能を使ってダイヤル発信する場合は、次の設定が必要です。

- 1** 「コントロールパネル」を開き、「モデム」アイコンをダブルクリックする
「モデムのプロパティ」が表示されます。
- 2** 「NEC PIAFS64K Wireless(DCXB)」を選び、「プロパティ」ボタンをクリックする
- 3** 「接続」タブをクリックし、「詳細」ボタンをクリックする
- 4** 「接続の詳細設定」の「追加設定」の欄に「S143=1」と入力し、「OK」ボタンをクリックする
- 5** 「OK」ボタンをクリックする

6 「閉じる」ボタンをクリックする

- ・ハイパーターミナルなどを使って通信する場合、ATコマンドが必要です。



参照

ATコマンドについて「サポートセンタ」-「パソコンを使いこなそう」-「ハードウェア情報」-「ATコマンド一覧」

- ・PHSを取り外す場合は、パソコンの電源を切り、ACアダプタをコンセントから抜いてください。プリンタなどの周辺機器を接続している場合は、すべての周辺機器の電源コードのプラグとACアダプタをコンセントから抜いてください。

接続先を設定する

プロバイダなどへの接続先を、PHSを使用した接続設定にするときは、「ダイヤルアップネットワーク」で「新しい接続」を作成するときに、「モデムの選択」で「NEC PIAFS64K Wireless(DCXB)」を選んでください。



チェック

お使いのPHSによっては、電話機側に設定が必要な場合や専用のアクセスポイントへの接続が必要な場合があります。詳しくは、PHSのマニュアルをご覧ください。また専用のアクセスポイントについては、インターネットのサービスプロバイダにお問い合わせください。

ダイヤル設定のしかた

PHSを接続して、屋外などでインターネットや電子メールをご利用になる場合、近くのアクセスポイントを使えば電話料金を節約することができます。



メモ

ここでの説明は、すでにプロバイダとの契約が終わっていることが前提となっています。

このパソコンに添付されている「インターネット設定切替ツール」を使って、モバイルする場所にあわせて最適な設定へ簡単に切り替えることができます。ご購入時の状態では、「インターネット設定切替ツール」はインストールされていません。「インターネット設定切替ツール」を使う場合は、添付の「アプリケーションCD-ROM」を使ってインストールしてください。

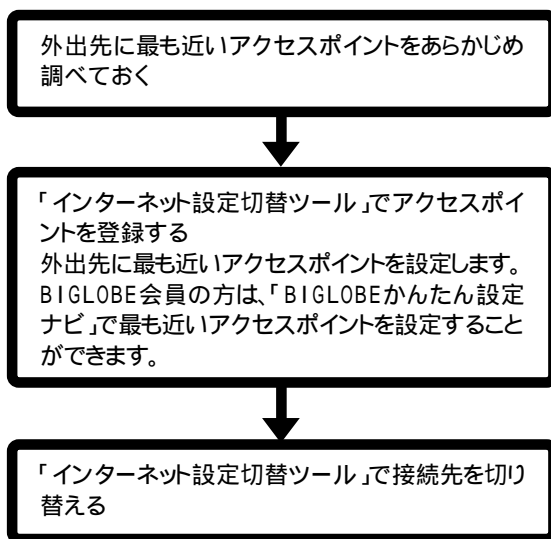


参照

「インターネット設定切替ツール」のインストール方法 「サポートセンター」-「パソコンを使いこなそう」-「アプリケーションの追加と削除」

「インターネット設定切替ツール」でアクセスポイントなどの設定を切り替えるには、まず自分が使用する予定の場所の市外局番やダイヤル方法、アクセスポイントを設定しておく必要があります。

一度設定すると、接続先を選ぶだけでインターネットエクスプローラやメールソフトの設定など、インターネットへの接続環境をすべて同時に変更することができます。外出先でも快適にモバイルするために、以下の説明を読んで必要な設定を行ってください。



これで外出先でインターネットやメールを楽しむことができます。



メモ

- ・アクセスポイントを変更しなくてもインターネットやメールを楽しむことはできますが、アクセスポイントまでの電話料金がたくさんかかることになります。最も近いアクセスポイントに変更することによって電話料金をおさえることができます。
- ・「BIGLOBEかんたん設定ナビ」でアクセスポイントを変更する 「サポートセンター」「パソコンを使いこなそう」「添付ソフトの使い方」「BIGLOBEかんたん設定ナビ」



参照

「インターネット設定切替ツール」の詳しい使いかた 「添付ソフトの使い方」「インターネット設定切替ツール」

設定を元に戻す

外出先でインターネットやメールを楽しんだあとは、変更した設定を元に戻す必要があります。

外出時にインターネット接続に関する設定を変更しなかった場合は、そのままインターネットやメールを楽しめます。

インターネット接続の設定を元に戻す
「インターネット設定切替ツール」でインターネット
接続の設定を自宅の設定に戻します。

自宅のインターネット接続の設定を「インターネット設定切替ツール」に登録していない場合は、p. 118のフローチャートを参考にして、「インターネット設定切替ツール」に自宅でのインターネット接続の設定を登録してください。



参照

「インターネット設定切替ツール」の詳しい使いかた 「添付ソフトの使い方」「インターネット設定切替ツール」

携帯 / PHS インターフェイス

ここでは、携帯 / PHSモデルのみの説明をしています。

携帯電話またはPHSと接続する

このパソコンには、携帯電話(DoPa/PDC)接続ケーブルが添付されています。添付のケーブルを使ってNTTドコモ、DDIセルラーグループ、ID0、ツーカーグループ、J-PHONEの携帯電話と接続し、屋外でもインターネットや電子メールを利用することができます。

携帯できる携帯電話またはPHSについてはNECのホームページ(98Information)をご覧ください。

<http://www.nec.co.jp/98/>

別売のPHS接続用ケーブルや携帯電話接続用ケーブルを使うと、PHSや、上記以外の携帯電話と接続することもできます。

使用できる携帯電話 / PHS接続用ケーブル(別売)

このパソコンに接続できる別売のPHS接続用ケーブルや携帯電話接続用ケーブルは次のとおりです。

- ・cdmaOne接続ケーブル(PC-VP-WK02)
- ・PHS(NTTドコモ/アステル)接続ケーブル(PC-VP-WK03)
- ・PHS(DDIポケット)接続ケーブル(PC-VP-WK04)

接続の方法

このパソコンに携帯電話またはPHSを接続する方法は、次のとおりです。

1 本体や周辺機器の電源を切る

パソコンの電源を切り、ACアダプタをコンセントから抜いてください。プリンタなどの周辺機器をつないでいる場合、すべての周辺機器の電源コードのプラグとACアダプタをコンセントから抜いてください。

⚠警告



感電注意

雷が鳴り出したら、本機や電源コードに触れないでください。また、機器の接続や取り外しを行わないでください。落雷による感電のおそれがあります。

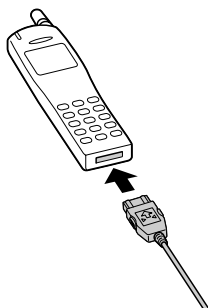
⚠注意




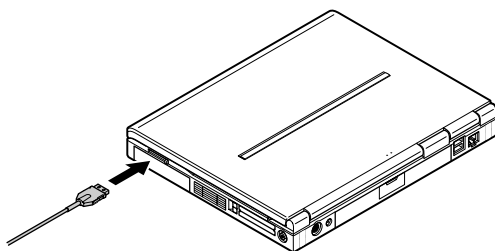
感電注意

モジュラージャックの端子に触れないでください。電話回線と接続しているモジュラージャックを抜いたときに電話がかかってくると、電話回線上に電圧がかかるため、端子に触れると感電することがあります。

- 2 携帯電話接続用ケーブルまたはPHS接続用ケーブルの小さいほうのコネクタを、携帯電話またはPHS本体に接続する
コネクタの向きに注意し、カチッと音がして止まるまで軽く押し込んでください。



- 3 パソコンの右側面の携帯 / PHSインターフェイス()に、もう一方のコネクタを接続する
コネクタの向きに注意して、止まるまで軽く押し込んでください。



携帯電話 / PHSインターフェイス使用上の注意

- ・このパソコンの携帯 / PHSインターフェイスで使用できるアプリケーションは、購入時にインストールまたは添付されているもののみです。携帯電話またはPHS用に市販されているアプリケーションを使用することはできません。
- ・ハイパーターミナルなどを使って通信する場合、ATコマンドが必要です。



ATコマンドについて「サポートセンタ」・「パソコンを使いこなそう」・「ハードウェア情報」・「ATコマンド一覧」

接続先を設定する

プロバイダなどへの接続先を、携帯電話またはPHSを使用した接続設定にするときは、「ダイヤルアップネットワーク」で「新しい接続」を作成するときに、「モデムの選択」で「NEC MultiMobile」を選んでください。



チェック

お使いの携帯電話またはPHSによっては、電話機側に設定が必要な場合や専用のアクセスポイントへの接続が必要な場合があります。詳しくは、携帯電話またはPHSのマニュアルをご覧ください。また専用のアクセスポイントについては、インターネットのサービスプロバイダにお問い合わせください。

ダイヤル設定のしかた

携帯電話またはPHSを接続して、屋外などでインターネットや電子メールをご利用になる場合、近くのアクセスポイントを使えば電話料金を節約することができます。



メモ

ここでの説明は、すでにプロバイダとの契約が終わっていることが前提となっています。

このパソコンには、「インターネット設定切替ツール」が添付されていますので、モバイルする場所にあわせて最適な設定へ簡単に切り替えることができます。ご購入時の状態では、「インターネット設定切替ツール」はインストールされていません。「インターネット設定切替ツール」を使う場合は、添付の「アプリケーションCD-ROM」を使ってインストールしてください。



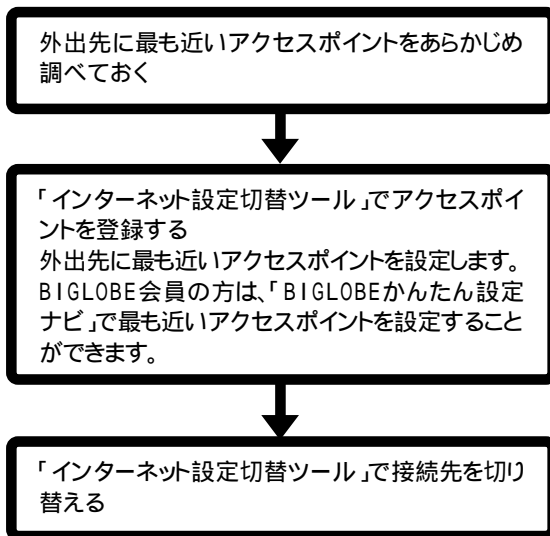
参照

「インターネット設定切替ツール」のインストール方法 「サポートセンター」-「パソコンを使いこなそう」-「アプリケーションの追加と削除」

「インターネット設定切替ツール」でアクセスポイントなどの設定を切り替えるには、まず自分が使用する予定の場所の市外局番やダイヤル方法、アクセスポイントを設定しておく必要があります。

一度設定すると、接続先を選ぶだけでインターネットエクスプローラやメールソフトの設定など、インターネットへの接続環境をすべて同時に変更することができます。

外出先でも快適にモバイルするために、以下の説明を読んで必要な設定を行ってください。



これで外出先でインターネットやメールを楽しむことができます。



メモ

- ・ アクセスポイントを変更しなくてもインターネットやメールを楽しむことはできますが、アクセスポイントまでの電話料金がたくさんかかることとなります。最も近いアクセスポイントに変更することによって電話料金をおさえることができます。
- ・ 「BIGLOBEかんたん設定ナビ」でアクセスポイントを変更する 「サポートセンタ」-「パソコンを使いこなそう」-「添付ソフトの使い方」-「BIGLOBEかんたん設定ナビ」



参照

「インターネット設定切替ツール」の詳しい使いかた 「添付ソフトの使い方」-「インターネット設定切替ツール」をご覧ください。

設定を元に戻す

外出先でインターネットやメールを楽しんだあとは、変更した設定を元に戻す必要があります。

外出時にインターネット接続に関する設定を変更しなかった場合は、そのままインターネットやメールを楽しめます。

インターネット接続の設定を元に戻す
「インターネット設定切替ツール」でインターネット
接続の設定を自宅の設定に戻します。

自宅のインターネット接続の設定を「インターネット設定切替ツール」に登録していない場合は、p. 123のフローチャートを参考にして、「インターネット設定切替ツール」に自宅でのインターネット接続の設定を登録してください。



参照

「インターネット設定切替ツール」の詳しい使いかた 「添付ソフトの使い方」 「インターネット設定切替ツール」

いろいろなデータ通信を行う

このパソコンの携帯 / PHSインターフェイスでは、通常のデータ通信のほかに、次のようなデータ通信を行うことができます。

cdmaOneでデータ通信を行う

cdmaOne電話機のデータ通信モードを「Async」に設定して、携帯 / PHSインターフェイスに接続するとcdmaOneでデータ通信が利用できます。



チェック

cdmaOneを使用する場合には、別売のcdmaOne接続ケーブル(PC - VP - WK02)が必要です。

NTTドコモのDoPaサービスでデータ通信を行う

次の手順を行うとNTTドコモのDoPaサービス(パケット通信サービス)を利用できます。

- 1 NTTドコモのDoPaサービスが利用可能な携帯電話を、接続ケーブルを使って携帯 / PHSインターフェイスに接続する
- 2 「ダイヤルアップの接続」画面で、電話番号の最後に「##02」を追加する

チェック

- ・ DoPaによる通信をする場合には、DoPa対応のアクセスポイントに接続する必要があります。
- ・ DoPaサービスを利用せずに9600bpsデータ通信を行う場合には、「##02」を追加する必要はありません。

NTTドコモのドッチーモでPIAFS32Kのデータ通信を行う

次の手順を行うとNTTドコモのドッチーモでPIAFS32Kの通信が利用できます。

- 1 ドッチーモを、接続ケーブルを使って携帯 / PHSインターフェイスに接続する
- 2 「ダイヤルアップの接続」画面で、電話番号の最後に「##13」を追加する

チェック

- ・ ドッチーモでPIAFS32K通信を行う場合には、ドッチーモの待ち受けモードを「PHS専用」に切り替える必要があります。
- ・ NTTドコモ、アステル、DDIポケットのPHSを携帯 / PHSインターフェイスに接続している場合は、「##13」を追加する必要はありません。

NTTドコモのPHS(64K対応)またはドッチーモでPIAFS64Kのデータ通信を行う

次の手順を行うとNTTドコモのPHS(64K対応)またはドッチーモでPIAFS64Kの通信が利用できます。

チェック

NTTドコモのPHSを使用する場合には、別売のPHS(NTTドコモ / アステル)接続ケーブル(PC-VP-WK03)が必要です。

- 1 NTTドコモのPHS(64K対応)またはドッチーモを、接続ケーブルを使って携帯 / PHSインターフェイスに接続する

2 「ダイヤルアップの接続」画面で、電話番号の最後に「##16」を追加する



チェック

- ・ドッチーモでPIAFS64K通信を行う場合には、ドッチーモの待ち受けモードを「PHS専用」に切り替える必要があります。
- ・PIAFS64K通信モードで、PIAFS32K専用のアクセスポイントへあやまって接続した場合、いったん接続した後で切断されることがあります。PIAFS64Kで通信を行う場合は、必ずPIAFS64K対応のアクセスポイントに接続してください。

携帯電話連携機能

このパソコンにインストールされている「携帯連携 / i」を使うと、パソコンで作成した予定表や連絡先などのデータを、i モード機能が付いている携帯電話から閲覧することができます。

また、携帯 / PHSモデルの場合、このパソコンにインストールされている「携帯電話2001」を使って、携帯電話に登録している電話番号や連絡先などの情報を、パソコン上で編集することができます。

携帯連携 / i

パソコン上のOutlook 2000で作成した、予定表や連絡先などのデータを、i モード機能が付いている携帯電話から閲覧するためのアプリケーションです。Outlook 2000を使って予定表や連絡先などを作り、インターネットのホームページに登録しておく、外出先でi モード機能が付いている携帯電話から閲覧することができます。

携帯連携 / iを使うためには、次の装置、アプリケーション、環境が必要です。

- ・ 必要な装置
 - i モード機能が付いている市販の携帯電話
- ・ 必要なアプリケーション
 - Outlook 2000
- ・ 必要な環境
 - このパソコンからインターネットに接続できる環境
 - FTPプロトコルに対応した、インターネット公開可能なホームページスペース



メモ

携帯連携 / iを使うためには、iモードメールサービスの契約をNTTドコモと行う必要があります。



参照

携帯連携 / iの詳しい使いかた 携帯連携 / iのオンラインヘルプ

携快電話2001

携快電話2001は、携帯 / PHSモデルのみにインストールされています。

携帯電話に登録している電話番号や連絡先などの情報を、パソコン上で編集するためのアプリケーションです。文字の入力やデータの整理などをパソコン上でを行い、携帯電話で利用することができます。



メモ

お使いの携帯電話によっては、携快電話2001を使用できない場合があります。携快電話2001が使える携帯電話の機種、注意事項などの情報については、次の専用ホームページをご覧ください。

<http://www.sourcenext.co.jp/k1/target/>

携快電話2001を使うためには、次の装置が必要です。

- ・市販の携帯電話
- ・添付の携帯電話(DoPa/PDC)接続ケーブル



参照

携快電話2001の詳しい使いかた 携快電話2001のオンラインヘルプ

LAN(ローカルエリアネットワーク)

ここでは、LAN内蔵モデルについてのみの説明をしています。

LANへの接続

このパソコンの内蔵LANボードは、100BASE-TXまたは10BASE-Tネットワークシステムに接続することができます。



メモ

100BASE-TXは、従来のEthernet(10BASE-T)の環境で転送速度100Mbpsを実現したネットワークです。従来のネットワーク構成を変更せずに既存のHUBを変更するだけで、高速化がはかれます。このパソコンは、どちらの環境にも接続することができます。

LANの設置

初めて100BASE-TXネットワークを設置するためには、配線工事などの技術が必要ですので、ご購入元または当社指定のサービス窓口にお問い合わせください。また、このパソコンに接続するケーブル類やハブなどは、弊社製品を使用してください。他社製品を使用し、システムに異常が発生した場合の責任は負いかねますので、ご了承ください。

接続方法

既存のネットワークに、端末としてこのパソコンを接続する場合について説明します。

ネットワークへの接続には、リンクケーブルが必要です。

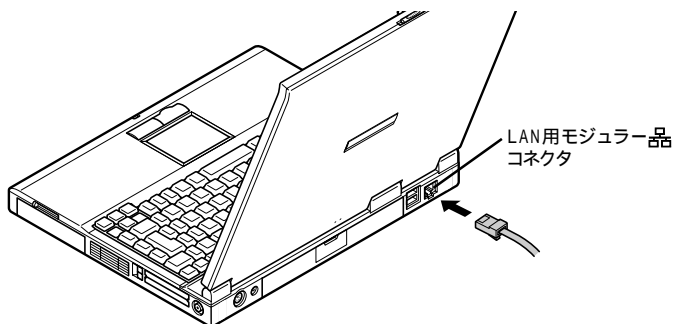
このパソコンに内蔵されているLANインターフェイスは、100Mbpsで動作する100BASE-TX基準を満たしています。100BASE-TX(100Mbps)で使用するときには、必ずカテゴリ5(CAT5)のケーブルを使用してください。10BASE-T(10Mbps)で使用するときには、カテゴリ3または5のケーブルを使用してください。



チェック

このパソコンを稼働中のLANに接続するには、システム管理者またはネットワーク管理者の指示に従って、ネットワークの設定やリンクケーブルの接続を行ってください。

- 1 リンクケーブルの一端を、このパソコンのLAN用モジュラーコネクタに、奥までしっかり差し込む



- 2 リンクケーブルのもう一方を、ネットワーク(100BASE-TXハブなど)に接続する
ネットワーク側の接続や設定については、接続した機器のマニュアルをご覧ください。

運用上の注意

LANに接続してこのパソコンを使用するときは、次の点に注意してください。

- ・システム運用中は、ハブからリンクケーブルを外さないでください。ネットワークが切断されます。ネットワーク接続中にリンクケーブルが外れたときは、すぐに接続作業をすることで復旧し、使用できる場合もありますが、使用できない場合は、このパソコンを再起動してネットワークの接続をやり直してください。
- ・LAN回線を接続してネットワーク通信をするときには、このパソコンにACアダプタを接続して使用するようにしてください。バッテリーパックのみで使用すると、使用時間が短くなります。
- ・ネットワーク(LAN)に接続して通信状態のときは、スリープ状態やサスペンドにしないでください。このパソコンが正常に動かなくなることがあります。
- ・100BASE-TX/10BASE-Tシステムの保守については、ご購入元または当社指定のサービス窓口にお問い合わせください。

電源回復(スタンバイ状態からの復帰)の設定

この設定は、Windows 98、Windows 2000のみで行うことができます。
以下の設定を行うと、本機をネットワークに接続して使用しているときに、電源回復イベントが発生したときに、本機をスタンバイ状態から自動的に復帰させることができます。



メモ

電源回復イベントには、従来からサポートされているMagicPacket検出に加えて、電源回復フレーム検出(例えば、ARPリクエスト、NETBIOS名検索、コンピュータに直接送られてきたIPフレームなどの検出)が追加されています。

ARPリクエスト、NETBIOS名検索、コンピュータに直接送られてきたIPフレームなどは、コンピュータをネットワークに接続して使用していると、他のコンピュータから不定期に送られてくるため、本機をスタンバイ状態にしておくと、これらが検出されたときに、不定期にスタンバイから復帰することがあります。



チェック

電源回復イベントの設定を行った場合は、購入時の設定で使う場合にくらべて、本機のバッテリーの消費量が大きくなります。バッテリー駆動時間を優先して本機を使いたい場合は、電源設定は行わずに出荷時の設定で使用してください。

- 1 「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする
- 2 「デバイスマネージャ」タブをクリックする
- 3 「ネットワークアダプタ」をダブルクリックする
- 4 「電源の管理」タブをクリックする
- 5 以下の設定を行う
 - ・「節電のためにコンピュータの電源を自動的に切る」を「オン」にする
 - ・「コンピュータのスタンバイ解除の管理をこのデバイスで行う」を「オン」にする

ユニバーサル管理アドレス(MACアドレス)

ユニバーサル管理アドレスは、IEEE(米国電気電子技術者協会)で管理されているアドレスで、主に他のネットワークに接続するときなどに使用します。ユニバーサル管理アドレスは、次の方法で確認することができます。

コマンドプロンプトに、次のコマンドを入力してください(ただし、TCP / IPプロトコルが必要です)。

Winipcfg.exe【Enter】

CATVでインターネットを利用する

このパソコンに内蔵されているLANインターフェイスから、CATVインターネットを利用することができます。

CATVインターネットとは

CATVインターネットは、CATVのケーブルを利用したインターネット接続サービスです。

約500Kbps ~ 約10Mbps(モデムの約10 ~ 100倍)の高速な接続が可能です。また、電話回線を利用しないため、電話料金がかかりません(ただしCATVインターネットのサービス会社への接続料金はかかります)。



メモ

データの転送速度は、CATVインターネットのサービス会社によって異なります。また、データの転送速度は、回線の混雑の状況、データを転送する状況(アップロード時か、ダウンロード時か)によって変化することがあります。

CATVインターネットを利用するには

CATVインターネットを利用するには、CATVインターネットのサービス会社(最寄りのCATV局)と契約が必要です。最寄りのCATV局に、インターネットの接続サービスを行っているか、ご確認ください。

CATVインターネットへの接続方法や設定方法については、CATVインターネットのサービス会社にご確認ください。

CATVインターネットのサービス会社によっては、ユニバーサル管理アドレス(MACアドレス)が必要になります。ユニバーサル管理アドレス(MACアドレス)については、上記の「ユニバーサル管理アドレス(MACアドレス)」をご覧ください。

PART

3

マルチメディア機能

このパソコンで、音楽や映像の再生や編集を行う方法を説明します。

音楽の再生 / 編集機能

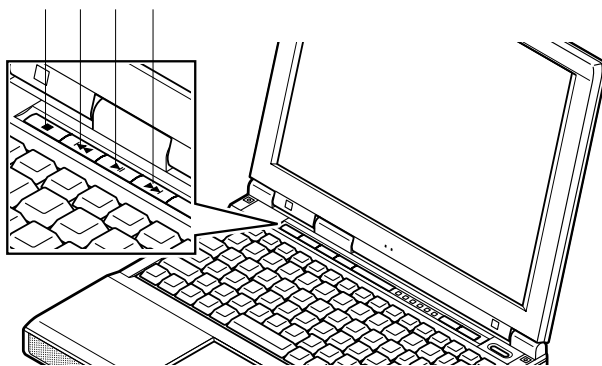
音楽を再生するには

このパソコンで音楽CDや音楽データを再生するには次のような方法があります。

- ・プレーヤ-NXを使う
- ・Virtual CD 2を使う
- ・Jet-Audio Playerを使う


音楽を再生するときに便利なボタン

このパソコンには、音楽を再生するときに利用できるCDプレーヤボタンがついています。それぞれのボタンの役割は、次のとおりです。



ボタン	機能
	停止
◀◀	前のトラック / 巻き戻し
▶▶	再生 / 一時停止
▶▶	次のトラック / 早送り

プレーヤ-NXを使う

CD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブに音楽CDをセットすると自動的にプレーヤ-NXが起動します。音楽CDを再生するには、プレーヤ-NXの画面上のをクリックするか、CDプレーヤボタンのCD再生ボタン(▶||)を押します。



参照

プレーヤ-NXの使いかた 「添付ソフトの使い方」-「プレーヤ-NX」

Virtual CD 2を使う

Virtual CD 2を使うと、音楽CDを仮想CDとしてハードディスクに取り込むことができます。取り込まれた音楽CDは音楽データ(ファイル)としてハードディスクに保存されるので、次回からは音楽CDをセットしなくてもこのパソコンで保存した音楽データを再生することができます。



参照

Virtual CD 2の使いかた 「添付ソフトの使い方」-「Virtual CD 2を使う」

Jet-Audio Playerを使う

Jet-Audio Playerは、音楽CDの再生やMP3規格の音楽データを再生できるアプリケーションです。MP3規格の音楽データは、インターネットなどからダウンロードすることができます。



メモ

MP3とは、MPEG1 Audio Layer-3の略で、音楽データを高音質のまま高い圧縮率で保存できる規格のことです。



参照

Jet-Audio Playerの使いかた Jet-Audio Playerのオンラインマニュアル



メモ

Jet-Audio Playerのオンラインマニュアルは、「スタート」「プログラム」「Jet-Audio Player」「Jet-Audio Manual」をクリックすると表示できます。

音楽を編集するには

光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子と市販のMDデッキを接続すると、Jet-Audio Playerで編集した音楽データをMDに書き込んで、オリジナルMDを作ることができます。



参照

オリジナルMDを作るには「編集してオリジナルMDを作る」

CD-R/RWモデルの場合、パソコンにインストールされているEasy CD Creatorを使うと、Jet-Audio Playerで編集した音楽データをCD-RまたはCD-R/RWに書き込んで、オリジナル音楽CDを作ることができます。



参照

オリジナル音楽CDを作る「編集してオリジナル音楽CDを作る」

編集してオリジナルMDを作る

このパソコンの光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子と、光デジタルオーディオ入力端子をもつ市販のMDデッキを接続すると、音楽CDやMP3データをパソコンで再生しながら、MDに録音することができます。録音するには、次のような方法があります。



チェック

- ・パソコンとMDデッキを接続するには、市販の光デジタル接続ケーブルをお買い求めください。
- ・MDデッキの機能や録音のしかたなどについては、MDデッキのマニュアルをご覧ください。
- ・お客様がオリジナルのCD-ROM、音楽CD、ビデオCDなどの複製や改変を行う場合、オリジナルのCD-ROMなどについて著作権を保有していなかったり、著作権者から複製・改変の許諾を得ていない場合は、著作権法または利用許諾条件に違反することがあります。複製などの際は、オリジナルのCD-ROMなどの利用許諾条件や複製などに関する注意事項にしたがってください。

プレーヤ-NXで再生しながら録音する

CD-R/RWドライブに音楽CDをセットすると、「プレーヤ-NX」が自動的に起動して再生をはじめます。また、CDプレーヤボタンを使って再生スタートやストップ、早送りなどの操作ができます。



参照

- ・プレーヤ-NXの使いかた 「添付ソフトの使い方」-「プレーヤ-NX」
- ・CDプレーヤボタンの使いかた このPARTの「音楽を再生するときに便利なボタン」(p.134)

Jet-Audio Playerで再生しながら録音するMP3データを再生することができます。いくつかのMP3データを好きな順番に並びかえて、再生することもできます。



参照

Jet-Audio Playerの使いかた Jet-Audio Playerのオンラインマニュアル

編集してオリジナル音楽CDを作る

ここでは、CD-R/RWモデルのみの説明をしています。

このパソコンにインストールされているEasy CD Creatorを使うと、音楽CDなどから好きな曲を選んでCD-Rに書き込み、オリジナル音楽CDを作ることができます。Easy CD Creatorを使って作成したオリジナル音楽CDは、家庭用のCDプレーヤー、カーステレオ用のCDプレーヤー、パソコンについているCD-ROMドライブなどで再生することができます。Easy CD Creatorについて詳しくは、Easy CD Creatorのオンラインヘルプをご覧ください。



参照

Easy CD Creatorのオンラインヘルプを読むには Easy CD Creatorを起動して、画面のメニューバーの「ヘルプ」をクリックする



チェック

お客様がオリジナルのCD-ROM、音楽CD、ビデオCDなどの複製や改変を行う場合、オリジナルのCD-ROMなどについて著作権を保有していなかったり、著作権者から複製・改変の許諾を得ていない場合は、著作権法または利用許諾条件に違反することがあります。複製などの際は、オリジナルのCD-ROMなどの利用許諾条件や複製などに関する注意事項にしたがってください。

映像の再生 / 編集機能

ここではCD-R/RWモデルのみの説明をしています。

映像を再生する

デジタルビデオで撮った画像を再生する

このパソコンでは、Windows Media Playerを使って、外部のデジタルビデオ機器で撮影した映像を取り込んで、再生することができます。さらに取り込んだ画像を編集して、ハードディスクに保存したり外部のデジタルビデオ機器に出力することもできます。



参照

Windows Media Playerの使いかた Windows Media Playerのオンラインヘルプ
外部デジタルビデオ機器の接続と映像の編集 次の「映像を編集する」

映像を編集する

このパソコンでは、「VideoStudio」を使って、外部のデジタルビデオ機器から映像を取り込んだり、編集することができます。

ここでは、VideoStudioのVideo Wizardを使って、外部のデジタルビデオ機器から映像を取り込み、編集してからハードディスクに保存するまでを説明します。

外部ビデオ機器を接続する

外部ビデオ機器を接続する

このパソコンに映像を取り込むために、ビデオデッキやビデオカメラといった外部ビデオ機器を接続します。接続は、このパソコンのIEEE1394コネクタを使って行います。外部ビデオ機器とIEEE1394ケーブルを用意しておいてください。



メモ

- ・接続できる外部ビデオ機器は、IEEE1394での入出力に対応している機器です。外部ビデオ機器にIEEE1394コネクタがついているかを確認してください。IEEE1394コネクタはDV端子などの別名で呼ばれていることもあります。詳しくは販売店などで確認してください。
- ・このパソコンのIEEE1394コネクタは4ピンです。パソコン側に接続するケーブルのプラグは4ピンのもので、外部ビデオ機器側に接続するプラグは、外部ビデオ機器のIEEE1394コネクタの形状に合ったものを用意してください。

- 1 外部ビデオ機器のIEEE1394コネクタに、IEEE1394ケーブルのプラグを接続する
- 2 このパソコンのIEEE1394コネクタに、IEEE1394ケーブルの4ピンのプラグを接続する(p.175)



チェック

接続するときには、プラグの向きに注意してください。プラグの向きを間違えるとIEEE1394コネクタやプラグを破損するおそれがあります。

Video Wizardを使って取り込む

ここでは、VideoStudioのVideo Wizardを使って映像を取り込む方法を説明します。



チェック

VideoStudioのVideo Wizardを使うときは、Video Wizardを起動する前に外部ビデオ機器を接続して、外部ビデオ機器の電源を入れ、映像を再生できる状態にしておいてください。外部ビデオ機器を接続せずにVideo Wizardを起動するとVideo Wizardが外部ビデオ機器を認識できませんので、いったんVideo Wizardを終了してから、もう一度起動しなおしてください。



メモ

映像を取り込むことを「キャプチャ」と呼ぶこともあります。

Video Wizardを起動する

- 1 「スタート」ボタン「プログラム」「Ulead VideoStudio 4.0 SE Basic」「Ulead Video Wizard」をクリックする
Video Wizardの画面が表示されます。



メモ

画面の右にある「情報」ボタンをクリックするとヘルプが表示されます。

映像を取り込む

- 1 「プロジェクト名」欄にプロジェクト名を入力する



チェック

プロジェクト名を付けないと映像を取り込むことはできません。



メモ

- ・プロジェクト名は、これから取り込む映像のファイル名となります。取り込んだ後、編集できるようにファイルとして保存するためのものなので、ここでプロジェクト名を付けてください。
- ・Video Wizardの「ビデオ形式」ボタンおよび「ビデオソース」ボタンは、デジタルビデオカメラから映像を取り込むときは必要ないので、クリックできないようになっています。

- 2  をクリックする

- 3 外部ビデオ機器で映像の再生をはじめる
外部ビデオ機器で再生している映像が、Video Wizardの画面に表示されます。

- 4 取り込みを開始したい位置で「開始」ボタンをクリックする
取り込みがはじまり、「開始」ボタンが「停止」ボタンに変わります。
取り込み開始からの時間が映像の下に表示されます。
- 5 取り込みが終了したら「停止」ボタンをクリックする



メモ

- ・映像の取り込みは何度でもくりかえしできるので、必要な部分のみを取り込むことができます。
- ・取り込んだ映像は、後からトリミングする(必要な部分だけ取り出す)ことができるので、必要な映像の前後を少し長めに取り込むことをおすすめします。

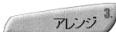
- 6 外部ビデオ機器の再生を停止する

取り込んだ映像を編集する

ここでは、トリミングをしたり、効果やタイトルの入れかたを説明します。

トリミング

取り込んだビデオ映像の中で必要な部分を取り出す操作をトリミングといいます。

- 1  をクリックする
取り込んだ映像の最初の画面が表示されます。
- 2 取り込んだ映像がいくつかある場合は、トリミングしたい映像をクリックする







メモ

ここで、取り込んだ映像の中から不要なものを削除することができます。削除したい映像をクリックしてから「削除」ボタンをクリックしてください。

- 3 「トリム」ボタンをクリックする
「ビデオをトリム」の画面が表示されます。



- 4 ビデオを開始したい位置にをドラッグする
- 5 「トリム開始」ボタンをクリックする
- 6 ビデオを終了したい位置にをドラッグする
- 7 「トリム終了」ボタンをクリックする
- 8  (選択範囲を再生) をクリックする
 トリミングされたビデオが再生されます。内容を確認してください。
- 9  (Video Wizardに戻る) をクリックする

効果やタイトルを入れる

効果をつけるとは、タイトルやエンディングロールを入れたり、場面転換などで特殊効果をつけたりすることです。ここでは「トランジション効果」とタイトルの入れかたを説明します。



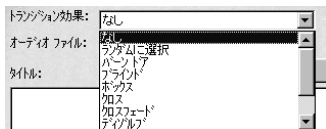
メモ

映像と映像の間の場面転換をどのように見せるかを設定する操作のことをトランジション効果といいます。代表的なものに「スライド(上下や左右にずべるように画面が移動する)」や「クロスフェード(映像が少しずつ薄れていくフェードアウトと、映像が少しずつ濃く浮かび上がってくるフェードインを連続して行う)」などがあります。

- 1  をクリックする
 次のような画面が表示されます。



- 2 「トランジション効果」欄の右にある▼をクリックし、つけたい効果名をクリックする



- 3 「タイトル」を入力する
タイトル文字のサイズやフォントの種類、背景色などを変更することができます。

編集した映像を再生する

- 1 「作成」をクリックする
次のような画面が表示されます。



- 2 「ビデオファイルの作成」ボタンをクリックする
ファイル作成の進行状況が表示されます。ファイル作成が終了すると、自動的に「再生」の画面が表示されます。



メモ

映像のサイズによっては、作成が完了するまでにしばらく時間がかかります。

- 3 「再生」ボタンをクリックする



メモ

再生の結果、修正したい場合は、「取り込んだ映像を編集する」(p.141) に戻って編集しなおすことができます。

🔍 チェック

Video WizardではAVI形式のファイルを自動生成します。保存形式を変更したり、さらに詳細な編集をしたい場合は、「作成」ボタンをクリックして「VideoStudioで開く」ボタンをクリックしてください。VideoStudioが起動して編集が行えるようになります。VideoStudioを起動すると、Video Wizardは自動的に終了し、Video Wizardの画面には戻れなくなりますので、以降の作業はVideoStudioで行ってください。

4 Video Wizardを終了する場合は、画面左下の「閉じる」の文字をクリックする

5 「Ulead Video Wizardを終了しますか?」と表示されるので、「はい」ボタンをクリックする

📝 メモ

Video Wizardでビデオの作成を行うと、最後に黒い画面が追加されます。この画面は、映像が終わるところを知らせるためのものです。不要な場合は、VideoStudioなどで削除することができます。

VideoStudioのできるいろいろな編集

ここでは、VideoStudioの機能について説明します。VideoStudioでは、映像の取り込み、編集、外部ビデオ機器への出力を行うことができます。

VideoStudioを起動する

1 「スタート」「プログラム」「Ulead VideoStudio 4.0 SE Basic」「Ulead VideoStudio 4.0 SE Basic」をクリックする
VideoStudioの画面が表示されます。

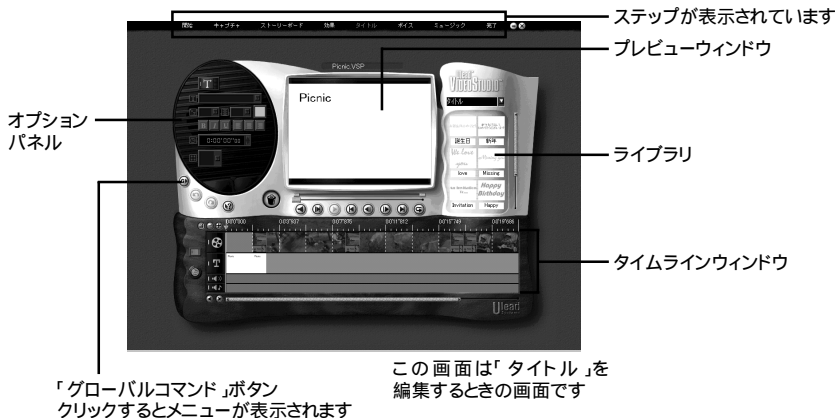


📝 メモ

VideoStudioを終了するときは、画面右上にある🔴をクリックします。

VideoStudioでの編集

VideoStudioでは、画面上部に表示されているステップ(開始 キャプチャ ストーリーボード 効果 タイトル ボイス ミュージック 完了)の順に作業を進めていきます。



メモ

VideoStudioでは、ステップごとにガイド(ヘルプ)が表示されます。作業内容を確認しながら作業を進めることができます。

効果

場面転換の効果を設定します。「ライブラリ」に表示される100種類以上の効果を確かめながら選ぶことができます。

タイトル

画像に文字を入力します。タイトルだけでなく、画面にコメントを入れたりすることができます。「オプションパネル」で、タイトルに使用する文字のフォントやサイズ、位置や表示される時間などが設定できます。また、「ライブラリ」にはサンプルが表示されており、この中から選ぶこともできます。

ボイス

市販のマイクロホンを使って音声を入力します。編集したビデオファイルを再生しながらリアルタイムに録音できます。また、音声ファイルを取り込むこともできます。

ミュージック

BGMを録音します。DVD-ROMドライブにセットされている音楽CDを自動的に認識して、「オプションパネル」に一覧が表示されます。表示された一覧の中から選んで録音することができます。

完了

すべての編集が完了したら、ひとつのビデオファイルとして生成します。「オプションパネル」で、全画面再生を行ったり、いろいろな形式のビデオファイルに保存することができます。また、外部ビデオ機器に出力を行ったり、ホームページで見ることができる形式に保存することもできます。

VideoStudioで保存できる形式には、AVI、ASF、FLC、FLI、FLX、MOV、QT、MGP、MJPEG、MPV、DAT、RIM、UISがあります。



メモ

VideoStudioの機能や詳しい使いかたについては、VideoStudioのヘルプをご覧ください。VideoStudioのヘルプは、次の手順で起動します。

1. VideoStudioを起動する(p.144)
2. キーボードの【F1】を押す

画像ファイルや映像ファイルを活用する

ThumbsStudioを使うと、パソコンに取り込んだ画像ファイルや映像ファイルを整理しておくことができます。画像や映像のファイルはサムネイル(画像を縮小して一覧表示したもの)で見ることができるので、たくさんの画像ファイルの中から見たいファイルを探すときなどに便利です。また、スライドショー機能で画像を次々と表示させることもできます。そのほか、設定しておけば、ThumbsStudioで一覧表示した画像の中から、送りたい画像ファイルを選んでメールに添付することができます。



参照

ThumbsStudioの使いかた 「添付ソフトの使い方」-「ThumbsStudio」

P A R T

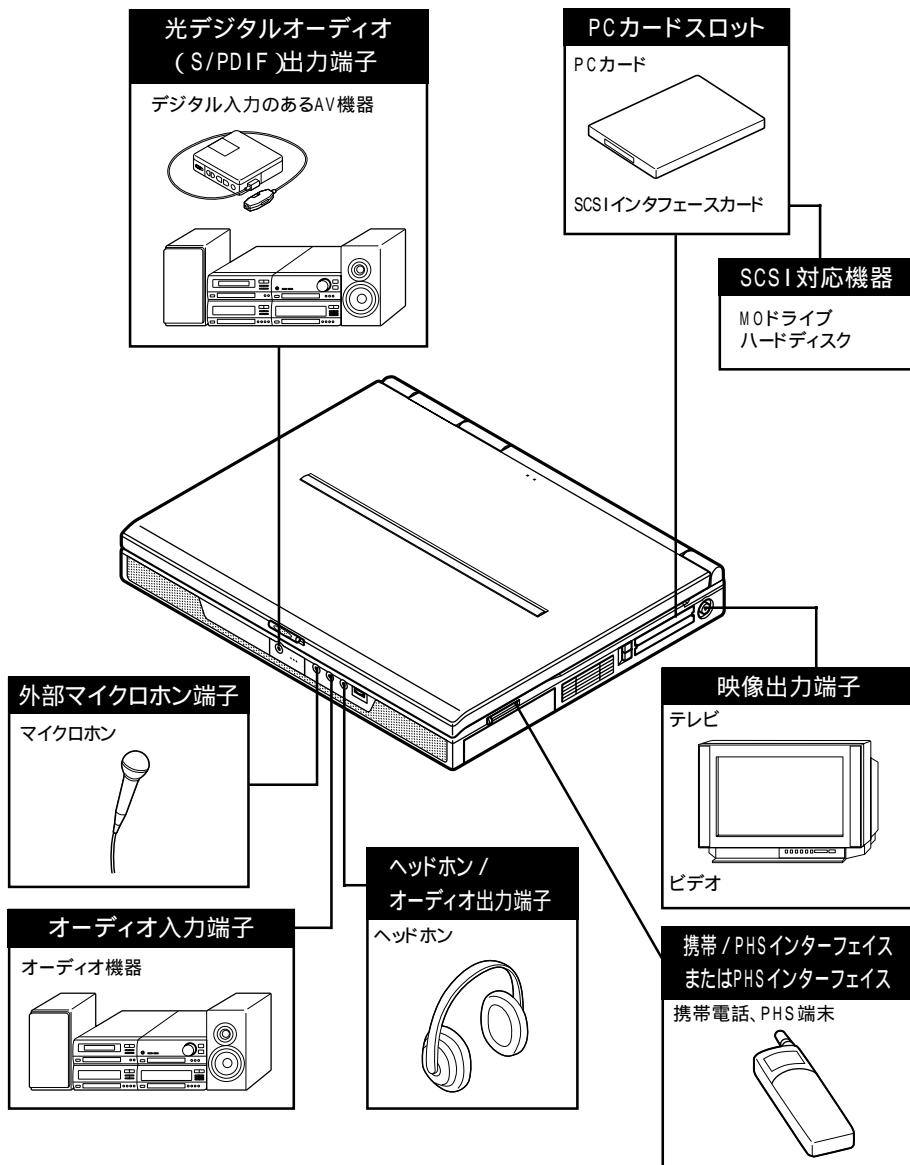
4

周辺機器を使う

別売の周辺機器の接続方法や注意事項などを説明しています。

このパソコンに接続できる周辺機器

本体前面 / 右側面



本体背面

マウス / テンキーボード用コネクタ

マウス

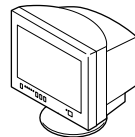


テンキーボード



外部CRT用コネクタ

外部ディスプレイ



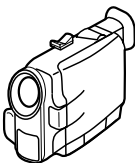
パラレルコネクタ

プリンタ



IEEE1394コネクタ

デジタルビデオカメラ



USBコネクタ

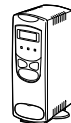
USB機器



マウス / キーボード

シリアルコネクタ

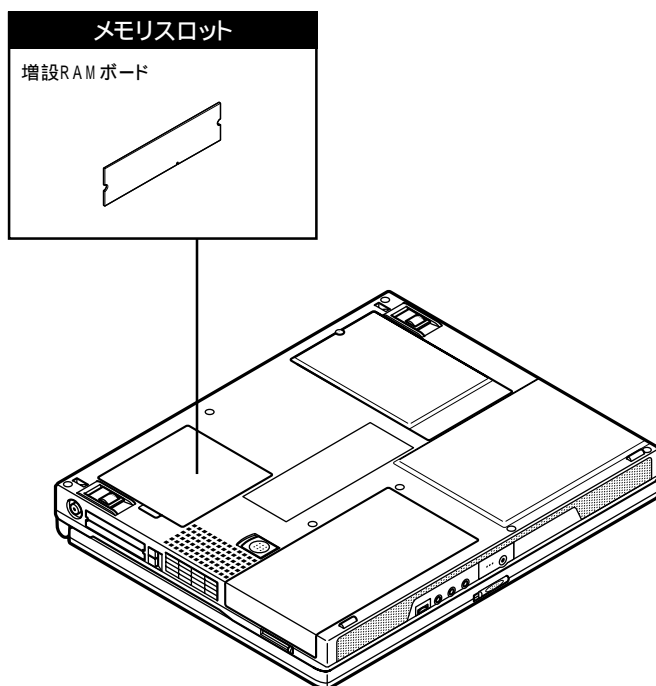
ターミナルアダプタ



4

周辺機器を使う

本体底面



周辺機器を接続する前に

周辺機器を利用する

プリンタや外部ディスプレイなど、パソコンに接続して使用する機器全般を、周辺機器といいます。このパソコンには、さまざまな周辺機器を接続するためのコネクタやポートが用意されています(p. 148, 149)。



メモ

Windows 98のCOM1ポートはこのパソコンのシリアルコネクタ(ポート)に、LPT1はパラレルコネクタ(ポート)にあたります。

周辺機器を利用するときの注意

⚠ 警告



感電注意

雷が鳴りだしたら、本機や電源コードに触れないでください。また、機器の接続や取り外しを行わないでください。落雷による感電のおそれがあります。

⚠ 注意



感電注意

周辺機器の取り付け / 取り外しをするときは、本機の電源を切ったあと、本機と周辺機器の電源コードを抜いてください。電源コードがACコンセントに接続されたまま、周辺機器の取り付け / 取り外しをすると、感電の原因となります。

濡れた手で電源コードを抜き差ししないでください。感電の原因となります。

周辺機器の取り付け / 取り外し時の注意

- ・スタンバイ状態または休止状態のときは、周辺機器を取り付けたり取り外したりしないでください。
スタンバイ状態または休止状態のときは、復帰させてデータを保存してから電源を切り、周辺機器の取り付けや取り外しを行ってください。
- ・別売の周辺機器を取り付けるときには、その周辺機器がこのパソコンに対応していることを確認してください。また、周辺機器によっては使用上の制限事項がある場合がありますので、周辺機器の説明書などをよく読んで使用してください。当社製以外の周辺機器を使用する場合は、周辺機器の製造元 / 発売元などに上記の事項を確認してください。
- ・周辺機器の取り付けや取り外しは、周辺機器の取扱説明書にしたがって正しく行ってください。
- ・周辺機器によっては、専用のケーブルが必要な場合があります。接続する前に確認して用意しておいてください。

リソースの競合について

周辺機器を増設すると、他の周辺機器とリソースが競合してどちらかが使えなくなることがあります。この場合は、次の手順でリソースが競合しないように変更してください。



参照

リソースについて PART7の「割り込みレベルとDMAチャンネル (p.248)」



- 1 起動しているアプリケーションをすべて終了する
- 2 「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする
「システムのプロパティ」画面が表示されます。



メモ

CyberTrio-NXのモード変更を促す画面が表示された場合は、「アドバンスドモードに変更」をクリックしてください。そのあと、もう一度手順2を行ってください。

- 3 「デバイスマネージャ」タブをクリックする
「デバイスマネージャ」画面が表示されます。
- 4 **!** や **X** が表示されていて動作しない周辺機器を選び、「プロパティ」ボタンをクリックする

- 5 「プロパティ」画面で「リソース」タブをクリックし、「自動設定を使う」を□にする
- 6 競合しているリソースを「リソースの種類」一覧の中から選び、ダブルクリックする
「競合の情報」欄に、競合しているデバイスと、競合しているリソースの種類が表示されます。
- 7 競合しないリソースの値を設定し、「OK」ボタンをクリックする
「競合するデバイス」欄に競合しているデバイスと競合しているリソースが表示されます。
 -  **チェック**
他の周辺機器がそのリソースを使用している場合や、「この設定のリソースは変更できません」と表示された場合は、その値への変更はできません。
 -  **メモ**
選んだ周辺機器によっては「ポート番号」と「I/Oの範囲」など複数の変更が必要になることがあります。
- 8 リソースが競合していないことを確認し、「プロパティ」画面で「OK」ボタンをクリックする
- 9 「変更不可の環境設定の作成」の画面が表示されるので、「はい」ボタンをクリックする
元の画面に戻るまでに、しばらく時間がかかることがあります。そのままお待ちください。
- 10 「OK」ボタンをクリックし、「システムのプロパティ」を閉じる
- 11 「スタート」ボタン「Windowsの終了」をクリックする
「Windowsの終了」画面が表示されます。
- 12 「再起動する」を選び、「OK」ボタンをクリックする
再起動します。

周辺機器を使えるようにセットアップする

周辺機器を使うには、接続した周辺機器用のデバイスドライバをパソコンにセットアップする必要があります。デバイスドライバとは、パソコンと周辺機器との仲介をする周辺機器専用のソフトウェアのことで、ドライバと呼ぶこともあります。デバイスドライバのセットアップ方法は、周辺機器がプラグ&プレイ機能に対応しているかどうかによって異なります。



チェック

デバイスドライバが正しく組み込めなかった場合は、周辺機器が使用できないばかりか、パソコンの動作が不安定になることがあります。その場合は、周辺機器のマニュアルにしたがって、再度デバイスドライバを正しくセットアップしてください。

「プラグ&プレイ機能」対応の周辺機器の場合

周辺機器を接続してWindowsを起動すると自動的にドライバの設定が行われ、周辺機器が使用可能な状態になります。



メモ

このパソコンにインストールされているWindows 98には、プラグ&プレイ機能用に多くの周辺機器のドライバがあらかじめ添付されています。接続しようとする周辺機器がプラグ&プレイ機能に対応しており、かつ添付されたドライバの中に該当するものがあれば、周辺機器の検出と設定が自動的に行われます。

「プラグ&プレイ機能」に対応していない周辺機器の場合

周辺機器を接続したあと、ドライバの設定が必要な場合があります。設定の詳細は、このパソコンやドライバに添付のREADMEファイルや周辺機器のマニュアルをご覧ください。



メモ

READMEファイルは、「メモ帳」などのテキスト形式のファイルが開けるアプリケーションで簡単に見ることができます。

周辺機器の電源を入れる / 切る順序

このパソコンに周辺機器を接続しているときには、次の順序で電源を入れたり切ったりしてください。

電源を入れるとき

周辺機器 パソコン

電源を切るとき

パソコン 周辺機器

プリンタ

プリンタを接続する

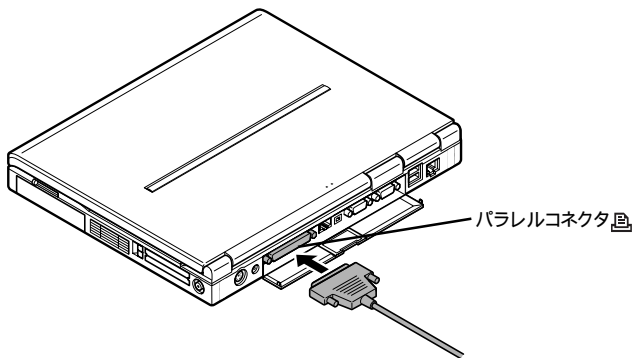
このパソコンに接続できるプリンタには、パラレルコネクタに接続するプリンタとUSBコネクタに接続するプリンタの2種類があります。パラレルコネクタにプリンタを接続するには、25ピンパラレルインターフェイスに対応したプリンタケーブルが必要です。



参照

USBプリンタを使う このPARTの「USB対応機器」(p.177)

- 1 パソコンを使用中の場合は、「スタート」ボタン 「Windowsの終了」で「電源を切れる状態にする」を選び、「OK」ボタンをクリックして電源を切る
- 2 電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタを本体から取り外す
- 3 パラレルコネクタにプリンタケーブルの小さいほうのコネクタを向き(上下)に注意して差し込む



- 4 プリンタケーブルの大きいほうのコネクタをプリンタのコネクタに差し込む
接続についてはプリンタのマニュアルもご覧ください。
- 5 パソコンにACアダプタを接続する
- 6 プリンタの電源ケーブルとパソコンの電源コードをACコンセントに接続する

プリンタを設定する

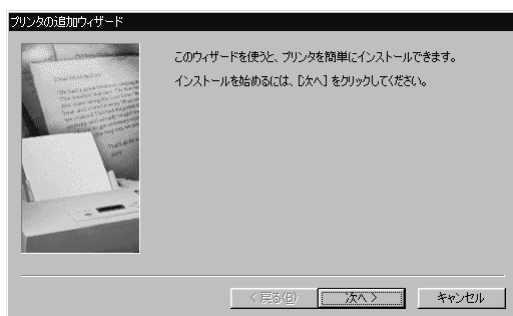
パラレルコネクタに接続したプリンタの設定は、使用するプリンタの機種ごとに、Windowsの「プリンタ」の画面で行います。例えば、会社で使うプリンタと家庭で使うプリンタの機種が異なる場合は、それぞれの機種に対して設定を行う必要があります。

プラグ&プレイ機能対応のプリンタを設定する

プラグ&プレイ機能 (p. 154) に対応したプリンタを設定する場合、プリンタをパソコンに接続したあと、プリンタ パソコンの順に電源を入れると、自動的にプリンタドライバの組み込みが行われます。

プラグ&プレイ機能を利用しないでセットアップを行う場合

- 1 プリンタが正しく接続され、プリンタの電源が入っていることを確認する
- 2 「スタート」ボタン 「設定」 「プリンタ」をクリックする
「プリンタ」の画面が表示されます。
すでに設定済みのプリンタがある場合は、その機種のアイコンが表示されています。
- 3 「プリンタの追加」アイコンをダブルクリックする
「プリンタの追加ウィザード」が表示されます。



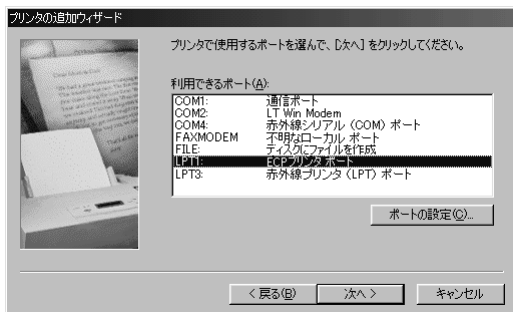
- 4 「プリンタの追加ウィザード」ウィンドウの「次へ」ボタンをクリックする
- 5 「プリンタはどこに接続されていますか?」と表示された場合は、「ローカルプリンタ」をクリックして「次へ」ボタンをクリックする
「製造元」と「プリンタ」のリストが表示されます。

- 6 表示されたリストの中から、使用するプリンタの製造元とプリンタの機種 または互換性のある機種)を選ぶ



プリンタにインストールディスク/ドライバディスクが添付されており、そのインストールディスクを使用してセットアップを行う場合は、「ディスク使用」ボタンをクリックします。インストール場所を指定する画面が表示されたら、プリンタのマニュアルをご覧ください。インストールディスクの指定を行ってください。

- 7 「次へ」ボタンをクリックすると、プリンタを使用できるポートのリストが表示されるので、LPT1を選ぶ



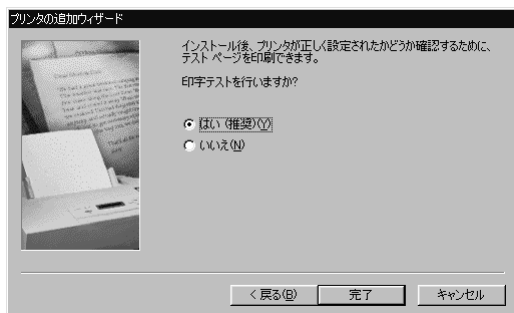
- 8 「次へ」ボタンをクリックし、表示された画面の「プリンタ名」欄に使用するプリンタの名前を付ける

この欄には手順6で選んだプリンタの機種名がプリンタ名として表示されるので、特に名前を付け直す必要がなければ、そのままにしておきます。このプリンタを通常使用するプリンタとして登録する場合は、下欄の「はい」ボタンをクリックしてください。

9 「次へ」ボタンをクリックする

テスト印刷を行うかどうかを選ぶ画面が表示されます。

「はい(推奨)」を選ぶと、テストページの印刷によってプリンタの接続や設定が正常に行われたかどうか確認することができます。この場合は、あらかじめプリンタのマニュアルにしたがって用紙などをセットしておいてください。



10 設定が終了したら「完了」ボタンをクリックする

もし、今までの設定を変更したい場合は、「戻る」ボタンをクリックして前の設定画面に戻り、設定をやり直します。

このあと必要なファイルのコピーが行われます。ファイルのコピーがすべて終了すると、設定したプリンタのアイコンが「プリンタ」ウィンドウに表示されます。「Windowsのディスクを挿入してください」というメッセージが表示された場合は、「C: ¥W I N D O W S ¥ O P T I O N S ¥ C A B S」を指定してください。



チェック

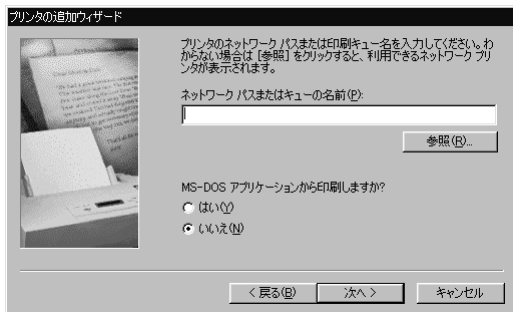
NEC製プリンタのMultiWriterシリーズ、MultiImpactシリーズでPrintAgentをお使いの場合は、スタンバイ機能に対応していないため、「コントロールパネル」の「電源の管理」の「電源設定」タブで「システムスタンバイ」を「なし」に設定して、スタンバイ機能が動作しないように設定してください。

ネットワーク上の共有プリンタを使うための設定をする

ネットワークに接続されているプリンタを使用する場合は、次のように設定します。設定するには、あらかじめプリンタのパスを調べておく必要があります。プリンタのパス名など、ネットワークプリンタについては、ネットワークの管理者にお問い合わせください。

1 「プリンタを設定する(p.156)」の手順1～4を行う

- 2 「ネットワークプリンタ」をクリックして、「次へ」ボタンをクリックする
次のような画面が表示されます。



- 3 ネットワークパス名を入力する
「参照」ボタンをクリックすると、ネットワークに接続されているプリンタが表示されるので、そこから選ぶこともできます。
- 4 「次へ」ボタンをクリックし、あとは画面の指示にしたがってプリンタの設定を行う

外部ディスプレイを使う

CRTディスプレイを使う

このパソコンには別売のCRTディスプレイを接続することができます。CRTディスプレイの大画面を使った作業が可能になります。

CRTディスプレイ接続時の解像度と表示色

別売のCRTディスプレイでは、次の解像度と表示色を表示できます。

表示解像度 (ドット)	水平走査 周波数(KHz)	垂直走査 周波数(Hz)	表示色			
			16色	256色	65,536色	1,677万色
640×480	31.5	60				
	37.5	75	×			
	43.3	85	×			
800×600	37.9	60	×			
	46.9	75	×			
	53.7	85	×			
1,024×768	48.4	60	×			
	56.5	70	×			
	60.0	75	×			
1,280×1,024	64.0	60	×			
	80.0	75	×			
	91.1	85	×			×
1,600×1,200	75.0	60	×			×
	93.8	75	×		×	×

: 表示可能

×: 表示不可能



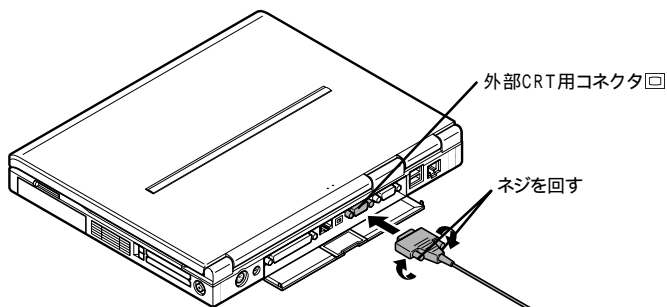
チェック

使用するCRTディスプレイによっては、上の表に記載されている走査周波数や解像度と異なる場合があります。CRTディスプレイを使用するときは、CRTディスプレイのマニュアルで、対応している走査周波数や解像度を確認してください。

CRTディスプレイを接続する

- 1 パソコンを使用中の場合は、「スタート」ボタン 「Windowsの終了」で「電源を切れる状態にする」を選び、「OK」ボタンをクリックして電源を切る

- 2 電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタをパソコンから取り外す
- 3 ディスプレイ用ケーブルをパソコンの外部CRT用コネクタに差し込み、ネジを回して固定する



- 4 CRTディスプレイの電源ケーブルを、ディスプレイ背面の電源コネクタに差し込む
詳しくはCRTディスプレイのマニュアルをご覧ください。
- 5 パソコンにACアダプタを接続する
- 6 CRTディスプレイの電源ケーブルとパソコンの電源コードをACコンセントに接続する
CRTディスプレイを接続した場合、パソコンはACアダプタで使用してください。

プロジェクタを使う

このパソコンには、別売のプロジェクタを接続することができます。プロジェクタは、プレゼンテーションなどに利用することができます。

プロジェクタと解像度について

別売のプロジェクタを使用する場合は、プロジェクタのマニュアルを参考にして表示解像度などを確認してください。

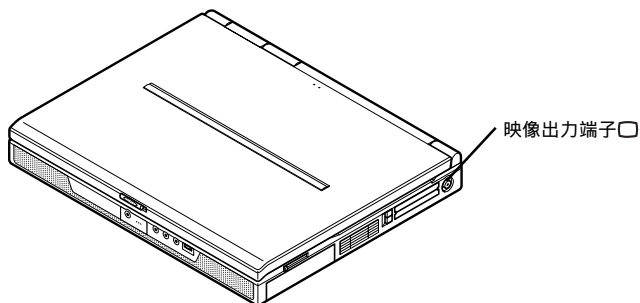


参照

プロジェクタとの接続のしかた プロジェクタのマニュアル

テレビを使う

市販のビデオケーブルを使って、このパソコンの映像出力端子(□)とテレビやビデオなどのビデオ入力端子を持つ機器を接続すると、パソコンの画面をテレビに出力することができますようになります。テレビへの出力のしかたについては、次の「表示するディスプレイを切り替える」をご覧ください。



参照

テレビで表示できる表示色と解像度 PART1の「液晶ディスプレイ」(p.44)

表示するディスプレイを切り替える

別売のCRTディスプレイやテレビなどが接続されているときは、キーボードを使って画面の出力先を切り替えることができます。

1 【Fn】を押したまま【F3】を押す

キーを押すごとに、「このパソコンの液晶ディスプレイとCRTディスプレイの同時表示」「テレビ」「このパソコンの液晶ディスプレイ」「CRTディスプレイ」の順に画面の出力先が切り替わります。



メモ


「テレビ」への出力は、テレビが接続されているときのみ切り替わります。

液晶ディスプレイとテレビに同時に表示する

このパソコンの液晶ディスプレイとテレビに同時に表示するためには設定が必要です。次の手順で設定を行ってください。

1 「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックする 「画面のプロパティ」が表示されます。

2 「設定」タブをクリックし、「詳細」ボタンをクリックする

- 3 「ATI画面」タブをクリックする
「モニタ」「パネル」「テレビ」の接続状態が表示されます。
- 4 「テレビ」の左上のをクリックする
接続したテレビへの表示がオンになります。
- 5 「OK」ボタンをクリックする
- 6 メッセージが表示されたら「はい」ボタンをクリックする

接続した外部ディスプレイを設定する

ディスプレイに合わせてパソコンを設定する

別売のCRTディスプレイを使用したとき、表示されたメッセージが適切でなかったり、プラグ&プレイに対応していないディスプレイの場合には、次の操作を行ってください。

- 1 「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックする
「画面のプロパティ」が表示されます。
- 2 「設定」タブをクリックし、「詳細」ボタンをクリックする
- 3 「モニタ」タブをクリックし、「変更」ボタンをクリックする
「デバイスドライバの更新ウィザード」が表示されます。
- 4 「次へ」ボタンをクリックする
- 5 「検索方法」で「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を作成し、インストールするドライバを選択する」を選んで、「次へ」ボタンをクリックする
- 6 「すべてのハードウェアを表示」を選ぶ
- 7 「デバイスドライバの更新ウィザード」の一覧から「製造元」と「モデル」を選ぶ
一覧に、接続したディスプレイのモデルが表示されない場合は、「製造元」欄で「(標準モニタの種類)」を選び、「モデル」欄で接続したディスプレイに対応した解像度を選んでください。
- 8 「次へ」ボタンをクリックし、再び「次へ」ボタンをクリックする
- 9 「完了」ボタンをクリックし、「閉じる」ボタンをクリックする
- 10 「OK」ボタンをクリックする
これでディスプレイの設定が完了しました。

PCカード

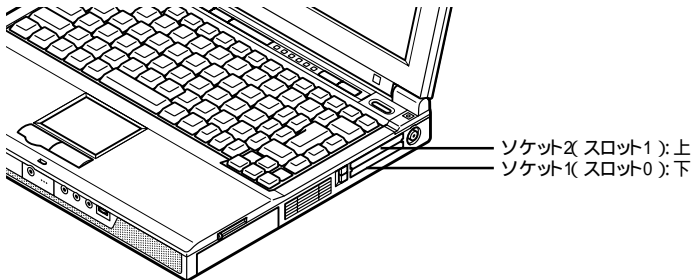
PCカードとPCカードスロットを使う

PCカードについて

PCカードには、メモ리카ードやモデムカード、SCSIインターフェイス対応機器をつなげるためのSCSIカードなどいくつかの種類があり、用途も幅広く使われています。PCカードを使うことで、パソコンの機能を拡張したり、さまざまな周辺機器を接続することができます。このパソコンではPC Card Standard準拠のPCカードが使用できます。

PCカードスロットについて

- TYPE 1かTYPE 2のPCカードを上下のスロットに1枚ずつ2枚まで、または上下のスロットを合わせて1枚のTYPE 2のPCカードを使用できます。
- ZVポート対応のPCカードはソケット1(スロット0)で使用できます。
- CardBus対応のPCカードは、ソケット1(スロット0)またはソケット2(スロット1)の両方で同時に使うことができます。
- MS-DOSモードでは使用できません。



PCカードの取り扱いについて

PCカードは精密にできています。PCカードやスロットの故障を防ぐため、次の点に注意してください。

- ・高温多湿あるいは低温の場所に放置しないでください。
- ・濡らさないでください。
- ・重いものを乗せたり、ねじ曲げたりしないでください。
- ・ぶつかけたり、落としたりして衝撃を与えないでください。
- ・PCカードの端子部分に金属などを差し込まないでください。

PCカードを使用するときの注意

- ・PC Card Standardに準拠していないPCカードは使用できません。対応していないPCカードを無理に押し込むと、故障の原因となります。
- ・ATAカードをセットしていると、カードをセットしていないときよりもスタンバイ状態または休止状態になるまでに時間がかかります。
- ・マルチファンクションカードとATAカードを同時にセットして使用するときは、下側のスロットにマルチファンクションカードを、上側のスロットにATAカードをセットしてください。
- ・CardBus対応PCカードのドライバをインストールしているときに、「例外エラー」が発生する場合があります。この場合、パソコンを再起動すると、正常にインストールを完了することがあります。
- ・ZVポートを利用する場合は、使用するPCカードがこのパソコンに対応しているかをあらかじめ販売元に確認してください。

PCカードのセットのしかたと取り出しかた

⚠注意



高温注意

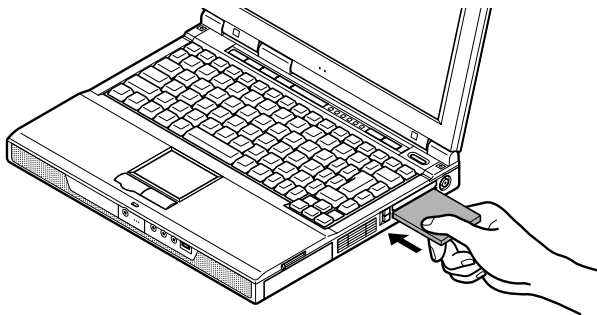
本機の使用時や使用直後はPCカードが熱くなっていますので、出し入れにご注意ください。

PCカードをセットする / 取り出すときの注意

- ・PCカードには表と裏があり、スロットに差し込む方向も決まっています。間違った向きで無理やり差し込むと、コネクタやスロットを破損するおそれがあります。
- ・スタンバイ状態または休止状態のときは、PCカードをセットしたり、取り出したりしないでください。パソコンの機器構成が変更されると、データが消失してしまうことがあります。
- ・アプリケーションを使用中は、PCカードをセットしたり、取り出したりしないでください。


PCカードをセットする

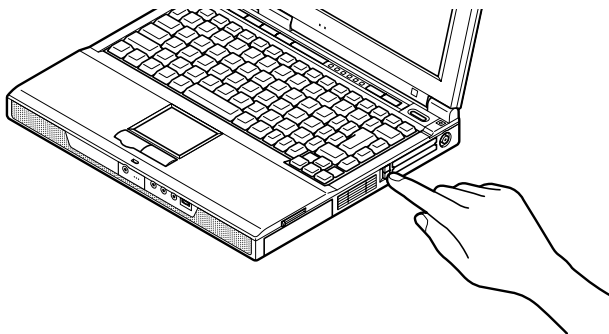
- 1 PCカードの差し込む向きを確認し、ラベル面を上にして、水平に静かに差し込む



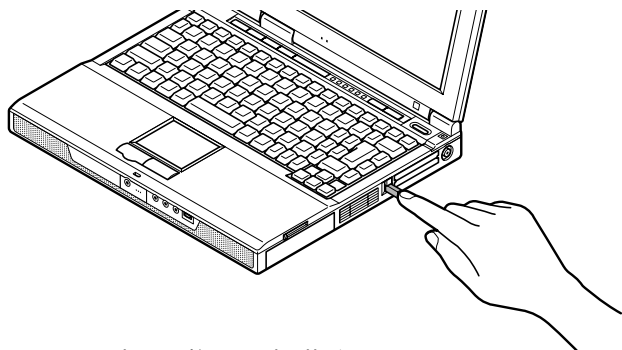
PCカードを取り出す

PCカードを取り出すときは、必ず次の手順で取り出してください。

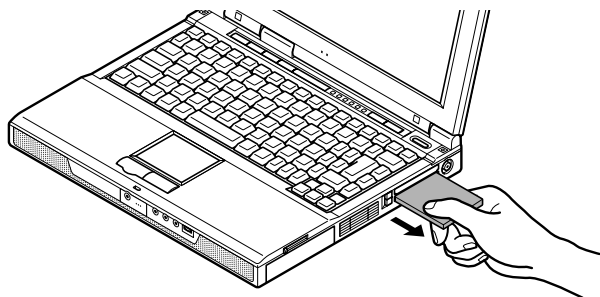
- 1 インジケータ領域(タスクトレイ)にあるPCカードのアイコン()をダブルクリックする
「PCカード(PCMCIA)のプロパティ」が表示されます。
- 2 取り外したいPCカードをクリックする
- 3 「停止」ボタンをクリックする
しばらくすると、「このデバイスは安全に取りはずせます」と表示されます。
- 4 「OK」ボタンをクリックする
- 5 本体のPCカードイジェクトボタンを押す
イジェクトボタンが手前にとび出します。



- 6 もう一度イジェクトボタンを押す
PCカードが少しとび出します。



- 7 PCカードを水平に静かに引き抜く



上記の手順以外の方法でPCカードを抜きとった場合は、「予期しないPCカードの取りはずし」ウィンドウが表示される場合があります。「OK」ボタンをクリックして、ウィンドウを閉じてください。

PCカードの割り込みレベルを設定する

PCカードによっては、割り込みレベルの設定がパソコンの他の設定と重なってしまう場合があります。PART7の「割り込みレベルとDMAチャンネル」(p.248)やPCカードのマニュアルをご覧になり、割り込みレベルが重なっていないか確認してください。割り込みレベルが重なる場合は、重ならないように設定を変更してください。



割り込みレベルの設定を変更する このPARTの「リソースの競合について」(p.152)

メモリ

メモリを増設する

別売の増設RAMボードを取り付けてメモリを増やすことで、より多くのアプリケーションを同時に起動したり、大きなデータをより高速に扱うことができるようになります。

このパソコンにはメモリスロットが2つあり、そのうちの1つには購入時に64Mバイトまたは128Mバイトのメモリが取り付けられています。



メモ

購入時に取り付けられているメモリを取り外し、別売の128Mバイトの増設RAMボードを2枚取り付けると、最大256Mバイトまでメモリを増設することができます。

このパソコンでは、次の増設RAMボードが使用できます。

型名	メモリ容量
PK-UG-M024	64Mバイト
PK-UG-M025	128Mバイト

増設RAMボードを取り扱うときの注意

△注意



感電注意

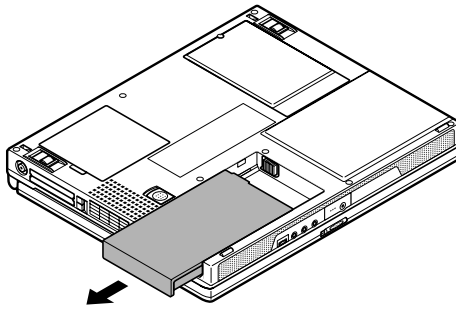
増設RAMボードの取り付け / 取り外しをするときは、本機の電源を切ったあと、電源コードとバッテリーパックを取り外してください。電源コードやバッテリーパックが取り付けられたまま増設RAMボードの取り付け / 取り外しをすると、感電の原因となります。

- ・増設RAMボードは静電気に大変弱く、身体に静電気を帯びた状態で増設RAMボードを扱うと破損する原因となります。増設RAMボードに触れる前に、アルミサッシやドアのノブなど身近な金属に手を触れて、静電気を取り除いてください。
- ・増設RAMボードのコネクタ部分には手を触れないでください。接触不良など、故障の原因となります。
- ・ボード上の部品やハンダ付け面には触れないよう注意してください。
- ・増設RAMボードを間違った向きで無理に取り付けようとすると、パソコンのコネクタ部や増設RAMボードが故障する原因となります。取り付け方向に注意してください。

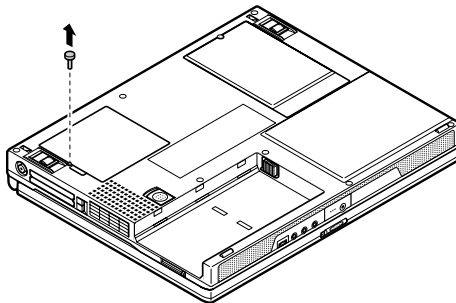
増設RAMボードの取り付けかたと取り外しかた

増設RAMボードを取り付ける

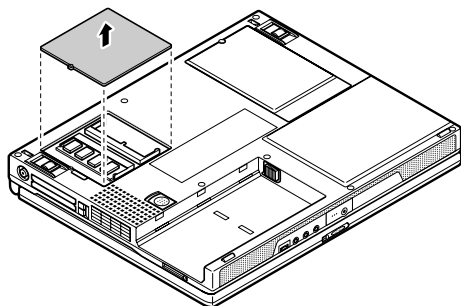
- 1 パソコンを使用中の場合は、「スタート」ボタン 「Windowsの終了」で「電源を切れる状態にする」を選び、「OK」ボタンをクリックして電源を切る
- 2 電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタをパソコンから取り外す
- 3 液晶ディスプレイを閉じて、パソコンを裏返す
- 4 バッテリーパックを取り外す(p.56)



- 5 図のネジをプラスドライバーで取り外す



6 メモリスロットのカバーを取り外す

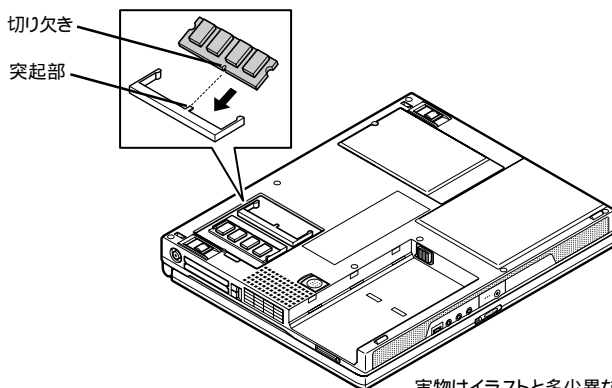


- 7 増設RAMボードの切り欠き部分をコネクタの突起部に合わせ、コネクタに対して約30度の挿入角度で、増設RAMボードの端子が当たるまで挿入する。増設RAMボードを奥まで挿入できているときは、端子部分(金色)のほとんどが、本体のコネクタに差し込まれた状態になります。

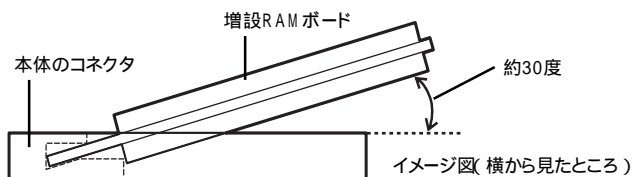



チェック

増設RAMボードの表と裏が逆の場合は、増設RAMボードの切り欠きとコネクタの突起部の位置が合わず、挿入することができませんので、よく確認してください。



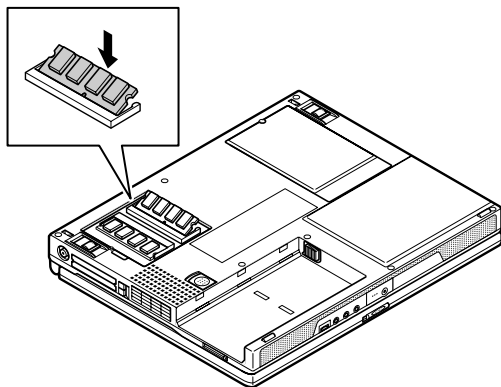
実物はイラストと多少異なる場合があります



 チェック

挿入するときに、コネクタが固いことがあります。奥までしっかり押し込んでください。しっかり押し込まずに次の手順を行うと、コネクタを破損するおそれがあります。

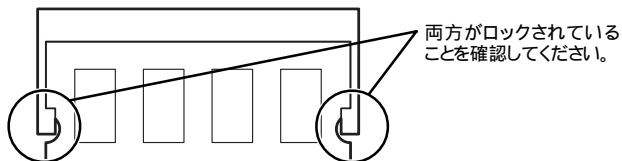
8 カチッと音がする位置まで増設RAMボードをコネクタに強く倒し込む



9 増設RAMボードがコネクタにしっかりロックされたことを確認する
正しくロックされている場合は、増設RAMボードが水平で、端子の金色の部分が少し(1mm程度)見える状態です。

 チェック

確実にロックされていないと、本体のコネクタ部や増設RAMボードの故障の原因となります。また、パソコンが正しくメモリを認識できないこともあります。



10 メモリスロットのカバーを元に戻し、外したネジを本体底面に取り付ける

11 バッテリーパックとACアダプタを取り付ける

休止状態の機能(p.64)を使用する方は、続けて次の手順12～13の操作を行ってください。設定を行わないと、休止状態の機能が使用できなくなります。

12 パソコンの電源を入れる

起動直後にメッセージが表示されますが、使用する上で支障はありません。

13 「休止状態の設定を解除する」(p.66)の手順にしたがって設定を解除したあと、「休止状態を再設定する」(p.67)の手順にしたがって再設定を行う

メモリ増設後は、次の「増設したメモリ(RAM)の確認」にしたがって、正しく増設できたかどうか確認してください。



メモ

休止状態(ハイバネーション)を利用するときは、元の状態をハードディスクにファイルとして保存します。このファイルを「休止状態のためのファイル」または「ハイバネーション用ファイル」と呼びます。購入時には、休止状態(ハイバネーション)を利用できるように、「休止状態のためのファイル」があらかじめハードディスクに用意されています。

「休止状態のためのファイル」をいったん削除することを、「休止状態の設定の解除」と呼びます。メモリの取り付け/取り外しを行ったときには、「休止状態の設定の解除」を実行する必要があります。

「休止状態の設定の解除」を実行したあとで、再び休止状態(ハイバネーション)を利用するには、「休止状態の再設定」で「休止状態のためのファイル」を作成する必要があります。

増設したメモリ(RAM)の確認

増設したメモリがパソコンに正しく認識されているかどうかを確認します。

1 「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする



メモ

CyberTrio-NXのモード変更を促す画面が表示された場合は、「アドバンスモードに変更」をクリックしてください。そのあと、もう一度手順1を行ってください。

2 「全般」タブで右下に表示されている「***MBのRAM」の数値を確認する ***MBがこのパソコンの総メモリ容量です。



メモ

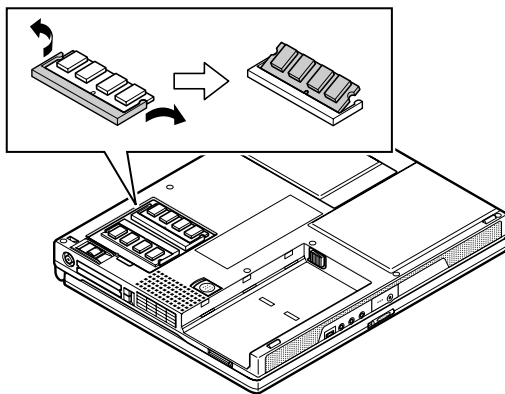
システムの状態によっては、増設したメモリ分より容量が少なく表示される場合がありますが故障ではありません。

メモリ容量が増えていない場合は、次のことを確認してください。

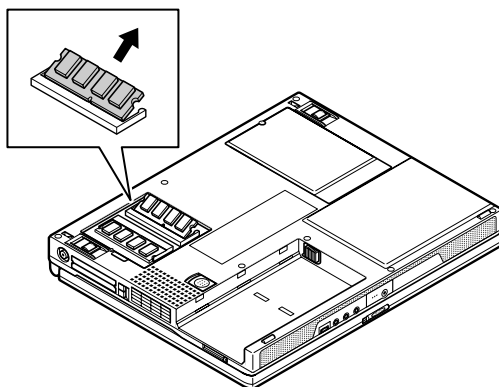
- ・増設RAMボードが正しく取り付けられているか
- ・このパソコンで使用できる増設RAMボードを取り付けているか

増設RAMボードを取り外す

- 1 「増設RAMボードを取り付ける」の手順1～6にしたがって、メモリスロットのカバーを取り外す
- 2 メモリスロットのコネクタの両端部分を左右に押し広げる
増設RAMボードが図のようにおきあがります。



- 3 そのまま増設RAMボードを斜めに引き抜く



- 4 メモリスロットのカバーを元に戻し、外したネジを本体底面に取り付ける

- 5 バッテリーパックを取り付ける

休止状態の機能（p.64）を使用する方は、続けて次の手順6～7の操作を行ってください。設定を行わないと、休止状態の機能が使用できなくなります。

6 パソコンの電源を入れる

起動直後にメッセージが表示されますが、使用する上で支障はありません。

7 「休止状態の設定を解除する」(p.66)の手順にしたがって設定を解除したあと、「休止状態を再設定する」(p.67)の手順にしたがって再設定を行う



メモ

休止状態(ハイバネーション)を利用するときは、元の状態をハードディスクにファイルとして保存します。このファイルを「休止状態のためのファイル」または「ハイバネーション用ファイル」と呼びます。購入時には、休止状態(ハイバネーション)を利用できるように、「休止状態のためのファイル」があらかじめハードディスクに用意されています。

「休止状態のためのファイル」をいったん削除することを、「休止状態の設定の解除」と呼びます。メモリの取り付け/取り外しを行ったときには、「休止状態の設定の解除」を実行する必要があります。

「休止状態の設定の解除」を実行したあとで、再び休止状態(ハイバネーション)を利用するには、「休止状態の再設定」で「休止状態のためのファイル」を作成する必要があります。

IEEE1394コネクタ

ここではCD-R/RWモデルのみの説明をしています。

IEEE1394とは

IEEE1394は、IEEE(米国電気電子技術者協会)で標準化された規格の一つで、パソコンと周辺機器のデータのやりとりを高速に行うことができるインターフェイスです。転送速度が早いので、動画などの容量の大きいデータもスムーズに転送することができます。

IEEE1394に対応している周辺機器には、デジタルビデオカメラやデジタルビデオデッキなどがあります。

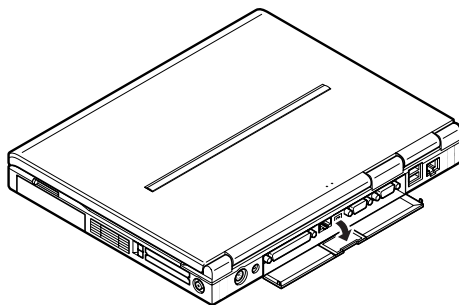
IEEE1394対応機器を接続する

接続する前に

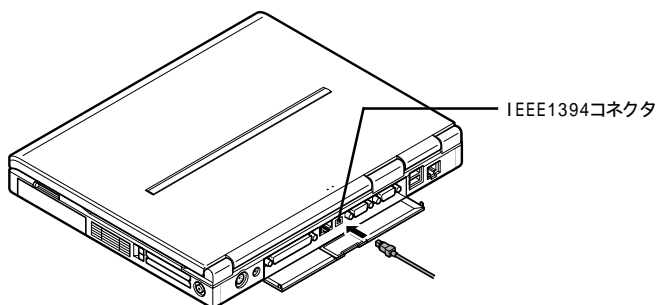
- ・このパソコンと、IEEE1394コネクタを持っている周辺機器を接続するときは、別売のケーブルが必要です。このパソコンのIEEE1394コネクタは、4ピンのコネクタです。ケーブルを購入する際には、接続するパソコンや機器側のコネクタの形状も確認しておいてください。
- ・周辺機器によっては、IEEE1394に対応した端子のことを別の名称(DV端子など)で呼んでいる場合もあります。

IEEE1394コネクタに接続する

1 本体左背面のカバーを開ける



2 カバーを開けたままの状態、IEEE1394ケーブルを接続する



チェック

接続するときは、プラグの向きに注意してください。間違った向きで無理に差し込もうとすると、本体側のコネクタやケーブルのプラグの故障または破損の原因となります。

3 ケーブルの反対側のプラグを周辺機器に接続する 周辺機器との接続については、周辺機器のマニュアルをご覧ください。

メモ

IEEE1394コネクタを使用しない場合は、コネクタのカバーは閉じておいてください。

IEEE1394コネクタでファイルを転送する

このパソコンのIEEE1394コネクタと別のパソコンのIEEE1394コネクタとを別売のIEEE1394接続ケーブル(4ピン-6ピン)〔PK-CA109〕で接続すると、パソコン間でのファイルの転送ができるようになります。

接続には「IEEE 1394 Network Driver Ver.2.0」が必要になります。このパソコンには、このドライバがインストールされていますので、組み込み作業を行ってからお使いください。

ドライバの組み込み手順については、「スタート」ボタン 「プログラム」 「IEEE1394 Network Driver Ver.2.0」 「はじめにお読みください」をクリックして内容をご覧になったうえで、同一フォルダ内のユーティリティの「開始する」ボタンをクリックしてください。自動的に組み込み作業がはじまります。

USB 対応機器

USBとは

このパソコンにはUSB対応機器を取り付けるためのUSBコネクタが2つあります。USBとはUniversal Serial Busの頭文字をとったもので、コネクタの形状が統一されており、127台までの機器を接続することができます。また、電源を切らずにプラグの抜き差しが可能で、プラグ&プレイ機能にも対応しています。USBコネクタはUSBポートと呼ぶこともあります。現在利用できる主なUSB対応機器として、次のようなものがあります。

- ・ マウス
- ・ プリンタ
- ・ イメージスキャナ
- ・ デジタルカメラ
- ・ ISDNターミナルアダプタ など

USBコネクタに接続する

接続する前に

USB対応機器を接続する前に、次の準備をしてください。

接続するUSB対応機器のマニュアルを読む

あらかじめ、機器に添付のマニュアルをよく読んでおきます。

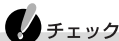
機器によっては、接続する前や接続したあとに、ドライバのインストールや各種スイッチなどの設定が必要な場合があるので、そのときはマニュアルにしたがって設定します。また、ドライバなどインストールに必要なCD-ROMやフロッピーディスクが添付されていれば用意しておいてください。



メモ

- ・ USB対応機器は、パソコンの電源を入れたままの状態でも接続できますので、接続前に電源を切る必要はありません。
- ・ 別売のUSBマウスなどで、接続してすぐ使うことができるものがあります。ただし、いくつかの機能が制限される可能性がありますので、必ず添付のマニュアルをよく読んでください。

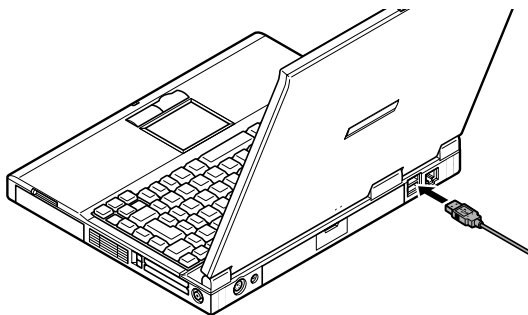
USBコネクタにプラグを差し込む



チェック

スタンバイ状態中、スタンバイ状態へ移行中、スタンバイ状態から復帰中のときは、USBコネクタにプラグを抜き差ししないでください。

1 パソコン本体のUSBコネクタにプラグを差し込む



チェック

はじめてUSB対応機器を接続したときに、画面に何も表示されない場合は、USBコネクタにプラグを正しく差し込めていない可能性があります。いったんプラグを抜き、もう一度差し込んでみてください。

なお、USB対応機器は一度設定をすれば、次回からはプラグを差し込むだけで、すぐに機器が使用可能になります。このとき画面には何も表示されませんが、故障はありません。

2 接続したUSB対応機器がパソコンに正しく認識されたかどうかを確認する

確認する方法は、機器の種類によって異なります。機器によっては、接続後さらに別の設定作業が必要になる場合があります。詳しくは、各USB対応機器に添付のマニュアルなどをご覧ください。



メモ

別売のUSBマウスを接続したときに、NXパッドでの操作を無効に設定しておくことができます。無効に設定しておくことにより、NXパッドでの誤操作を防ぐことができます。USBマウスを接続したときにNXパッドを無効にするには、BIOSセットアップメニューの「拡張セットアップ」で「NXパッド」を「使用しない」に設定（p.204）してください。

その他の機器を使う

その他の周辺機器について

このパソコンでは、次のような別売の機器を使用することができます。

種類	機器
オーディオ機器	ヘッドホン、マイクロホン、オーディオ機器など
入力装置	マウス、外付けキーボード、テンキーボード、デジタルカメラ、イメージスキャナなど
通信機器	携帯電話、PHS、外付けモデム、ターミナルアダプタなど

それぞれの周辺機器をパソコンのどのコネクタに接続するかは、周辺機器が使用しているインターフェイスによって異なります。また、周辺機器によってインターフェイスが決まっている訳ではありません。詳しくは、各周辺機器のマニュアルをご覧ください。



チェック

スタンバイ状態または休止状態のときは、周辺機器を接続したり、接続していた機器を取り外したりしないでください。パソコンの機器構成が変更されると、データが消えてしまうことがあります。

PHSインターフェイス

ワイヤレスインターネットモデルでは、PHSインターフェイスにNTTドコモやアステルのPHSを接続できます。



参照

PHSを接続する PART2の「PHSインターフェイス」(p.115)

携帯 / PHSインターフェイス

携帯 / PHSモデルでは、携帯 / PHSインターフェイスに携帯電話またはPHSを接続できます。

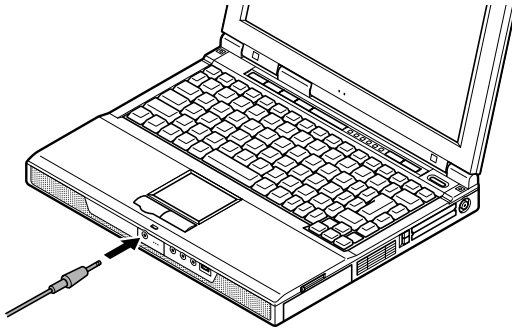


参照

携帯電話またはPHSを接続する PART2の「携帯 / PHSインターフェイス」(p.120)

光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子

デジタル入力を持ったオーディオ機器を接続することができます。



デジタル入力を持ったオーディオ機器を接続する場合、市販の光デジタルケーブルを使用します。パソコン本体側の端子は光ミニ端子です。

⚠️ チェック

- ・ 機器によっては、デジタル入力端子が光デジタルではない場合があります。このような場合、別途、変換ユニットが必要になる場合があります。
- ・ このパソコンの光デジタル出力のサンプリングレートは48KHzです。デジタル入力のあるオーディオ機器を接続する場合、そのオーディオ機器が48KHzのサンプリングレートに対応している必要があります。オーディオ機器のマニュアルやカタログで確認するか、販売店、メーカーにお問い合わせください。

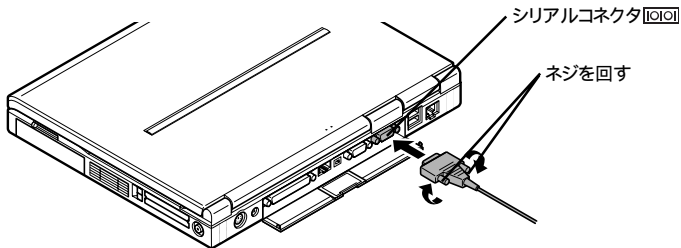
シリアルコネクタ

シリアル対応機器を接続するためのコネクタです。一般的なコンピュータ用語ではこれをシリアルポートと呼び、WindowsではCOM1やCOM2の名称で呼んでいます。シリアルコネクタには、外付けモデムやターミナルアダプタなどを接続することができます。また、ほかのパソコンとケーブルで接続してデータ転送することもできます。



参照

ほかのパソコンとケーブル接続でファイル転送する PART1の「ファイル転送機能」
(p.77)



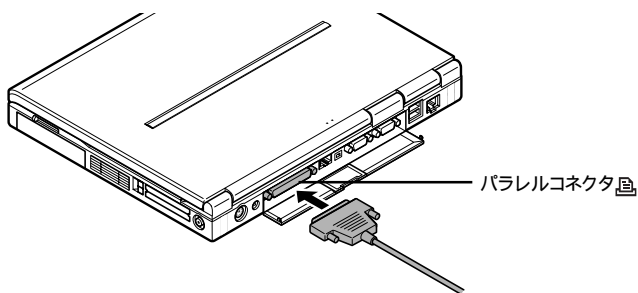
パラレルコネクタ

別売のプリンタなどのパラレル対応機器を接続するためのコネクタです。一般的なコンピュータ用語ではこれをパラレルポートと呼び、WindowsではプリンタポートまたはLPT1の名称で呼んでいます。パラレル対応機器であればプリンタ以外の機器も接続することができます。また、シリアルコネクタと同じように、ほかのパソコンとケーブルで接続してデータ転送することができます。



参照

ほかのパソコンとケーブル接続でファイル転送する PART1の「ファイル転送機能」
(p.77)



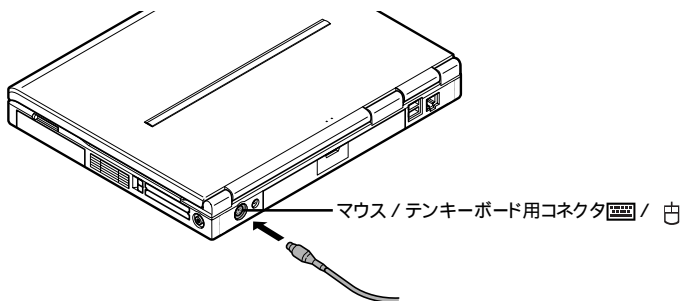
マウス / テンキーボード用コネクタ

別売のマウスやテンキーボードなどのPS/2タイプの機器を取り付けるためのコネクタです。



チェック

マウスやテンキーボードを接続するときは、必ず、「スタート」ボタン「Windowsの終了」でパソコンの電源を切ってから接続してください。



メモ

- ・ 別売のPS/2タイプのマウスを接続したときに、NXパッドでの操作を無効に設定しておくことができます。無効に設定しておくことにより、NXパッドでの誤操作を防ぐことができます。PS/2タイプのマウスを接続したときにNXパッドを無効にするには、BIOSセットアップメニューの「拡張セットアップ」で「NXパッド」を「自動」に設定(p.204)してください。
- ・ マウスとテンキーボードの両方を同時に接続したいときは、別売のYケーブル(PK-KB012) またはマウスに添付されているYアダプタを使ってください。

5

アプリケーションの追加と削除

アプリケーションの追加(インストール)や削除について説明しています。

このパソコンに添付されているアプリケーションを追加したり削除したりするときは、必ずここをお読みください。

インストールされていないアプリケーションの追加

インストールが必要なアプリケーションや機能

このパソコンには、あらかじめ、さまざまなアプリケーションがインストールされていますが、それ以外にもインストールされていないものがいくつかあります。次のアプリケーションや機能は、購入時にはインストールされていません。使いたい場合は、別途セットアップする必要があります。

Microsoft/Shogakukan Bookshelf Basicのセットアップ(Office 2000 モデルのみ)

CD-ROMに入った辞書です。国語辞典、英和辞典、和英辞典の3種類の辞書を1枚のCD-ROMに収めており、言葉に関するさまざまな情報を得ることができます。

「Office 2000 Personal」添付の「Microsoft/Shogakukan Bookshelf Basic」CD-ROMをCD-ROMドライブまたはCD-RWドライブにセットして、インストールを行います。

インストール方法については、CD-ROMに添付のマニュアルをご覧ください。

一太郎10・花子10パックの機能をフルに使う(一太郎モデルのみ)

このパソコンにインストールされている「一太郎10・花子10パック」は、「標準」でインストールされており、購入時の状態ですべての機能を利用できるわけではありません。購入時の状態で使用できる機能については、「一太郎10・花子10パック」に添付のマニュアルに記載されている「各セットアップ方法でコピーされる機能について」をご覧ください。

「標準」以外の機能を使用する場合は、添付の「一太郎10・花子10パックCD-ROM」から追加してください。追加の方法については、「一太郎10・花子10パック」に添付のマニュアルをご覧ください。

アプリケーションの削除

アプリケーションを削除する前に

削除が必要なとき

ここで説明するのは、このパソコンに標準でインストールまたは添付されているアプリケーションの削除方法です。購入後に、ご自分でインストールしたアプリケーションの削除方法については説明していませんので、アプリケーションに添付のマニュアルをご覧ください。

次のような場合にアプリケーションを削除してください。

- ・ハードディスクの空き容量を増やしたい場合
- ・通常使わないアプリケーションがある場合

削除方法

削除の方法は、アプリケーションによって異なります。次の3つの方法があるので、削除しようとしているアプリケーションの削除方法を確認してください。

- ・インストーラ-NXを使って削除するアプリケーション(p.188)
- ・コントロールパネルを使って削除するアプリケーション(p.191)
- ・アンインストール機能を使って削除するアプリケーション(p.192)

削除するときの注意

アプリケーションを削除する前に、次の点に注意してください。

- ・「Acrobat Reader」は、「駅すばあと」などに添付のPDF形式のオンラインドキュメントを読むために必要ですので、削除しないようにしてください。
- ・削除の際、アプリケーションが表示するメッセージや画面が他のウィンドウに隠れる場合があります。このような場合は、他のウィンドウを最小化して、メッセージや画面を表示させてください。
- ・アプリケーションによっては、削除中に「共有ファイルを削除しますか?」「共有コンポーネント」などのウィンドウが表示される場合があります。このようなウィンドウは、インストールされているアプリケーションが共通で使用していると思われるファイルを削除しようとしたときに表示されます。このようなウィンドウが表示された場合は、「すべていいえ」や「すべて残す」などを選んで、ファイルを削除しないようにしてください。
- ・アプリケーションによっては、削除したときに、一部のフォルダおよびデスクトップやスタートメニューのショートカットのアイコンが残ることがあります。この状態でもパソコンを操作する上では支障はありませんが、アイコンを削除するには、各アプリケーションの削除方法にしたがって操作してください。

- ・ワンタッチスタートボタンに割り当ててあるアプリケーションを削除した場合には、ワンタッチスタートボタンの設定をやり直してください。
- ・削除を途中で中断した場合に、そのままではアプリケーションを使用できない場合があります。その際にはパソコンを再起動してください。
- ・万一の場合に備えて、アプリケーションで作成したデータなどをバックアップしておくことをおすすめします。



参照

バックアップ-NXを使う 「サポートセンタ」-「困ったときのQ&A」-「トラブルの予防」-「大事なデータはバックアップを取ろう」

インストーラ-NXを使って削除する

インストーラ-NXを使って削除するアプリケーション

次のアプリケーションは、「インストーラ-NX」を使って削除します。

- ・10円メールマスター
- ・Acrobat Reader
- ・AOL
- ・BIGLOBE インターネット接続ツール
- ・BIGLOBE インターネット無料体験
- ・BIGLOBE 電話で入会ナビ
- ・BIGLOBE ページャ¹
- ・CyberCoach- NX
- ・CyberTrio- NX
- ・CyberWarner- NX
- ・DION かんたんインターネット2.1
- ・FAX- NX¹
- ・Jet-Audio Player
- ・KaraOK!¹
- ・NEWEB サインアップ
- ・MAGIC FLIGHT
- ・ODN(Open Data Network)
- ・PCポータル
- ・PostPet
- ・Peal Player™ G2¹
- ・SmartVoice^{1 2}
- ・So-netサインアップ¹
- ・ThumbsStudio
- ・VideoStudio³

- ・ Virtual CD 2
- ・ VirusScan
- ・ @niftyでインターネット
- ・ アクティブメニュー-NX
- ・ いま、いくら? その2
- ・ インターネット設定切替ツール¹
- ・ 駅すばあと
- ・ 携帯連携 / i
- ・ コペルニックライト
- ・ てきばき家計簿マム 2 Plus
- ・ サポートセンタ
- ・ しゃべっていいメール^{1 2}
- ・ 筆王
(筆王を削除する場合は、「筆王ユーザーズガイド」ではなく、「サポートセンタ」-「パソコンを使いこなそう」-「アプリケーションの追加と削除」の手順にしたがって作業を行ってください。)
- ・ パソコンのいろは
- ・ プレーヤ- NX
- ・ ホームページスクラップブックEX
- ・ 翻訳アダプタ CROSSROAD
- ・ マスターネットサインアップツール
- ・ 用語集

1: 購入時はインストールされていません

2: SmartVoice添付モデルのみ

3: CD-R/RWモデルのみ

インストーラ-NXを使う

インストーラ-NXを使ってアプリケーションを削除する場合は、次の手順で行います。



チェック

インストーラ-NXを起動する前に、CyberTrio-NXのモードを「アドバンスモード」にしておいてください(購入時の設定は「ベーシックモード」です)。

コントロールパネルを使って削除する

コントロールパネルを使って削除するアプリケーション

次のアプリケーションは、「コントロールパネル」を使って削除します。

- ・ Office 2000 Personal(Office 2000 モデルのみ)
- ・ パソコン大学一年生 for 一太郎10/三四郎(一太郎モデルのみ)
- ・ パソコン大学一年生 for Word2000/Excel2000(Office 2000 モデルのみ)
- ・ 一太郎10・花子10パック(一太郎モデルのみ)

コントロールパネルを使う

コントロールパネルを使ってアプリケーションを削除する場合は、次の手順で行います。

- 1 「コントロールパネル」を開き、「アプリケーションの追加と削除」アイコンをダブルクリックする
「アプリケーションの追加と削除のプロパティ」が表示されます。

- 2 「インストールと削除」タブをクリックする

各アプリケーションの削除方法については、「サポートセンタ」をご覧ください。



参照

アプリケーションの削除 「サポートセンタ」-「パソコンを使いこなそう」-「アプリケーションの追加と削除」



チェック

「コントロールパネル」の「アプリケーションの追加と削除」でアプリケーションを選んで「追加と削除」ボタンをクリックして削除を開始すると、中断しても、そのままではアプリケーションを使用できないことがあります。その場合は、パソコンを再起動して、アプリケーションを再度インストールしてください。

アンインストール機能を使って削除する

次のアプリケーションのアンインストール機能を使って削除します。

- ・ Easy CD Creator(CD-R/RWモデルのみ)
- ・ DirectCD(CD-R/RWモデルのみ)
- ・ IME 2000 音声入力アプレット(SmartVoice添付モデルのみ)

削除の方法は、「サポートセンタ」をご覧ください。



参照

アプリケーションの削除 「サポートセンタ」-「パソコンを使いこなそう」-「アプリケーションの追加と削除」

削除したアプリケーションの再追加

アプリケーションを再追加する前に

追加方法

削除したアプリケーションは、添付のCD-ROMを使って再追加することができます。追加の方法は、アプリケーションによって異なります。次のような方法があるので、追加しようとするアプリケーションの追加方法を確認してください。

- ・インストーラ-NXで自動インストールする
- ・インストーラ-NXで手動インストールする(p.197)
- ・アプリケーション独自の方法でインストールする(p.197, 198)

追加するときの注意

- ・アプリケーションCD-ROMには、「Vol.1」「Vol.2」の2枚があります。インストーラ-NXを使ってアプリケーションをインストールするときにメッセージが表示されますので、指定されたアプリケーションCD-ROMを利用してください。
- ・追加の際、アプリケーションが表示するメッセージや画面が他のウィンドウに隠れる場合があります。このような場合は他のウィンドウを最小化して、メッセージや画面を表示させてください。
- ・アプリケーションのインストール先を変更する場合は、「C:¥Program Files」「C:¥Windows」などの、システムで使用する重要なフォルダや他のアプリケーションがインストールされているフォルダを指定しないでください。これらのフォルダにインストールする場合は、「C:¥Program Files¥Application」のようなサブフォルダを作成し、サブフォルダにインストールしてください。
- ・VideoStudioを使うには、「Microsoft Netshow Tools 3.0」と「Apple Quick Time 4.0」が必要です。「Microsoft Netshow Tools 3.0」と「Apple Quick Time 4.0」を削除している場合は、「サポートセンタ」-「パソコンを使いこなそう」-「アプリケーションの追加と削除」の「VideoStudio」で「インストール内容を自分で決める」をご覧ください、VideoStudioを再追加してください。

インストーラ-NXを使って自動でインストールできるアプリケーション

次のアプリケーションは、このパソコンに添付されているアプリケーション CD-ROMを使って追加します。インストール時に設定をしなくても、購入時に近い状態で自動インストールできます。

- ・ 10円メールマスター
 - ・ BIGLOBEインターネット接続ツール
 - ・ BIGLOBEインターネット無料体験
 - ・ BIGLOBE電話で入会ナビ
 - ・ BIGLOBEページャ
 - ・ CyberCoach-NX
 - ・ CyberTrio-NX
 - ・ CyberWarner-NX
 - ・ DIONかんたんインターネット2.1
 - ・ FAX-NX
 - ・ MAGIC FLIGHT
 - ・ NEWEBサインアップ
 - ・ ODN(Open Data Network)
 - ・ PCポータル
 - ・ RealPlayer G2
 - ・ SmartVoice ¹
 - ・ ThumbsStudio
 - ・ VideoStudio ²
 - ・ Virtual CD 2
 - ・ VirusScan
 - ・ @niftyでインターネット
 - ・ アクティブメニュー-NX
 - ・ いま、いくら? その2
 - ・ インターネット設定切替ツール
 - ・ 駅すばあと
 - ・ 携帯連携 / i
 - ・ コベルニックライト
 - ・ サポートセンタ
 - ・ 筆王
- (筆王を追加する場合は、「筆王ユーザーズガイド」ではなく、「サポートセンタ」-「パソコンを使いこなそう」-「アプリケーションの追加と削除」の手順にしたがって作業を行ってください。)
- ・ パソコンのいろは
 - ・ プレーヤ-NX
 - ・ ホームページスクラップブックEX
 - ・ 翻訳アダプタ CROSSROAD
 - ・ マスターネットサインアップツール
 - ・ 用語集

1: SmartVoice添付モデルのみ

2: CD-R/RWモデルのみ

追加方法

次の手順で追加(インストール)します。



チェック

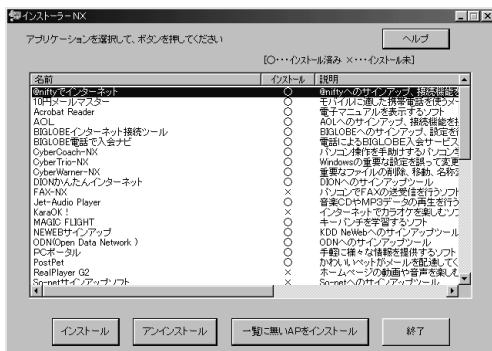
インストーラ-NXを起動する前に、CyberTrio-NXのモードを「アドバンスモード」にしておいてください(購入時の設定は「ベーシックモード」です)。



参照

CyberTrio-NXのモード変更 『困ったときのQ&A』PART1の「CyberTrio-NXのモードを変更する」

- 1 「スタート」ボタン 「プログラム」「アプリケーション」「インストーラ-NX」をクリックする
次の画面が表示されます。

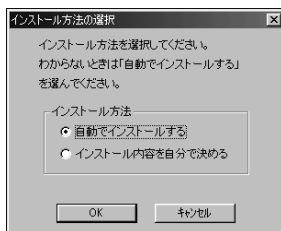


チェック

アプリケーションによっては、追加したアプリケーションのコンポーネントがインストーラ-NXの起動画面のアプリケーション一覧に、「一般AP」として表示されます。

- 2 追加(インストール)するアプリケーションをクリックする
- 3 「インストール」ボタンをクリックする
「媒体のセット」の画面が表示されます。
- 4 指定されたアプリケーションCD-ROMをCD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブにセットする
CD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブのアクセスランプが点灯します。

- 5 しばらく待ってから「OK」ボタンをクリックする
次の画面が表示されます。



- 6 「自動でインストールする」が選ばれていることを確認して、「OK」ボタンをクリックする
インストールが完了すると、メッセージが表示されます。

- ・ インストールが完了したことを表すメッセージが表示された場合は、「OK」ボタンをクリックしてください。インストールは完了です。
- ・ 再起動を促すメッセージが表示された場合は、「はい」ボタンをクリックして再起動してください。再起動後、インストールは完了です。

追加が終了したら、CD-ROMをCD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブから取り出してください。

チェック

- ・ インストーラ - NX の一覧にないアプリケーションのインストールが完了した直後は、アプリケーション名が一覧に表示されないことがあります。この場合、インストーラ - NX をいったん終了して、起動しなおすと正しく表示されます。
- ・ インストーラ - NX でアプリケーションのインストールが完了した直後に、「インストール」ボタン、「アンインストール」ボタン、「一覧に無いAPをインストール」ボタンが使用できなくなることがあります。この場合、インストーラ - NX をいったん終了して、起動しなおすと正しく表示されます。
- ・ 「アプリケーションCD-ROM」から、削除したアプリケーションを再追加する場合は、アプリケーションのアイコン登録先が、購入時と同じ状態に設定されないことがあります。
- ・ 「BIGLOBE電話で入会ナビ」を追加している途中で「バージョンの競合」ウインドウが表示された場合は、「はい」ボタンをクリックしてください。

各アプリケーションのインストール手順については、「サポートセンタ」をご覧ください。

参照

アプリケーションの追加 「サポートセンタ」-「パソコンを使いこなそう」-「アプリケーションの追加と削除」

インストーラ-NXを使って内容を確認しながらインストールするアプリケーション

次のアプリケーションは、このパソコンに添付されているアプリケーション CD-ROMを使って追加します。表示されるメッセージにしたがい、内容を確認しながらインストールしてください。

- ・ Acrobat Reader
- ・ AOL
- ・ Jet-Audio Player
- ・ KaraOK!
- ・ PostPet
- ・ So-netサインアップ
- ・ しゃべっていいメール
- ・ てきぱき家計簿マム2 Plus

:SmartVoice添付モデルのみ

各アプリケーションのインストール手順については、「サポートセンタ」をご覧ください。



参照

アプリケーションの追加 「サポートセンタ」-「パソコンを使いこなそう」-「アプリケーションの追加と削除」

パソコン大学一年生CD-ROMを使って追加する

「パソコン大学一年生CD-ROM」を使って、次のアプリケーションを追加することができます。

- ・ パソコン大学一年生 for 一太郎1α(一太郎モデルのみ)
- ・ パソコン大学一年生 for 三四郎α(一太郎モデルのみ)
- ・ パソコン大学一年生 for Word2000 Office 2000モデルのみ)
- ・ パソコン大学一年生 for Excel2000 Office 2000モデルのみ)

各アプリケーションのインストール手順については、「サポートセンタ」をご覧ください。



参照

アプリケーションの追加 「サポートセンタ」-「パソコンを使いこなそう」-「アプリケーションの追加と削除」

Office 2000 Personal CD-ROMを使って追加する(Office 2000モデルのみ)

Office 2000 Personalは、このパソコンに添付の「Office 2000 Personal」CD-ROMを使って追加することができます。

インストール手順については、「サポートセンタ」をご覧ください。



参照

アプリケーションの追加 「サポートセンタ」-「パソコンを使いこなそう」-「アプリケーションの追加と削除」

一太郎10・花子10パックCD-ROMを使って追加する(一太郎モデルのみ)

一太郎10・花子10パックは、このパソコンに添付の「一太郎10・花子10パック」CD-ROMを使って追加することができます。

インストール手順については、「サポートセンタ」をご覧ください。



参照

アプリケーションの追加 「サポートセンタ」-「パソコンを使いこなそう」-「アプリケーションの追加と削除」

Easy CD Creator™ 4 Standard/DirectCD™ 3 CD-ROMを使って追加する

Easy CD CreatorおよびDirectCDは、このパソコンに添付の「Easy CD Creator™ 4 Standard/DirectCD™ 3 CD-ROM」を使って追加することができます。

インストール手順については、「サポートセンタ」をご覧ください。



参照

アプリケーションの追加 「サポートセンタ」-「パソコンを使いこなそう」-「アプリケーションの追加と削除」

アプリケーションCD-ROMを使って追加する

IME 2000 音声入力アプレットは、このパソコンに添付の「アプリケーションCD-ROM Vol.2」を使って追加することができます。



参照

アプリケーションの追加 「サポートセンタ」-「パソコンを使いこなそう」-「アプリケーションの追加と削除」

6

BIOSセットアップメニュー

セキュリティや省電力など、パソコンの使用環境の設定について説明します。設定方法を間違えると正しく動作なくなってしまうので、十分注意してください。また、必要がある場合以外は設定値を変更しないでください。

BIOSセットアップメニュー

BIOSセットアップメニューを使ってできること

BIOSセットアップメニューは、パソコンの使用環境を設定するためのものです。BIOSセットアップメニューを使うと、次のような設定ができます。

- ・ 現在の日付と時間の設定
- ・ ハードウェア環境の確認と変更
- ・ 起動デバイスの起動順位の設定
- ・ セキュリティの設定
- ・ 省電力の設定

BIOSセットアップメニューを使う

BIOSセットアップメニューの起動とメイン画面

- 1 電源を入れて、「NEC」のロゴが表示されたらすぐに【F2】を押す
次のようなメイン画面が表示されます。画面上では「AMIBIOS HIFLEX 日本語
SETUP-VERSION x.xx」と表示されます。

AMIBIOS HIFLEX 日本語 SETUP - VERSION x.xx (C)2000 American Megatrends, Inc. All Rights Reserved
BIOS Revision xxxxxxxx 標準セットアップ 拡張セットアップ セキュリティセットアップ 省電力セットアップ 起動デバイスセットアップ 周辺機器セットアップ 表示言語 (Language) セットアップ バッテリーリフレッシュ デフォルト値をロード 変更を保存して終了 変更を保存せずに終了
システム日付、システム時刻、IDE デバイスのタイプなどを変更します ESC : 終了 : 選択 F3/F4 : カラー F10 : 保存と終了

BIOSセットアップメニューの基本操作

- ・操作はキーボードで行います。
- ・【 **X** 】で設定項目を選びます。
- ・設定内容の値は【PgUp **X** PgDn】で変更します。
- ・各設定項目の画面からメイン画面に戻るときは【Esc】を押します。

BIOSセットアップメニューを終了する

変更を保存して終了する

- 1 メイン画面で【F10】を押す
確認の画面が表示されます。
- 2 「はい」になっていることを確認して【Enter】を押す
設定値が保存され、BIOSセットアップメニューが終了します。



メモ

メイン画面で「変更を保存して終了」を選んで、BIOSセットアップメニューを終了することもできます。

変更を保存せずに(起動前の設定のまま)終了する

- 1 メイン画面で【Esc】を押す
- 2 【 **X** 】で「はい」を選び、【Enter】を押す
起動する前の設定のままBIOSセットアップメニューが終了します。設定の変更を行った場合も、すべて無効にして終了します。



メモ

メイン画面で「変更を保存せずに終了」を選んで、BIOSセットアップメニューを終了することもできます。

工場出荷時の値に戻す

- 1 メイン画面で【 **X** 】を使って「デフォルト値をロード」にカーソルを合わせる
- 2 【Enter】を押す
確認の画面が表示されます。
- 3 【 **X** 】で「はい」を選び、【Enter】を押す



チェック

ワイヤレスインターネットモデルの場合は、この手順の後「周辺機器セットアップ」の「オンボードシリアルポート2」を「自動」に設定してください。

設定項目一覧

ここでは、BIOSセットアップメニューでどのような設定ができるかを説明しています。表中の反転部分は、購入時の設定です。

標準セットアップ

システム日付(年/月/日)

日付を「年/月/日(西暦)」で設定します。

メモリ容量

このパソコンのメモリ容量が自動計算されます。

システム時刻(時:分:秒)

現在の時刻を「時:分:秒(24時間形式)」で設定します。

フロッピーディスクA

フロッピーディスクドライブのモードを選びます。

設定項目	設定内容	説明
フロッピーディスクA:	使用しない 1.44MB 3.5"	「使用しない」の場合、フロッピーディスクドライブが接続されていても使用することができません。 「1.44MB 3.5"」の場合、接続されているフロッピーディスクドライブが使用できます。

内蔵IDE

現在接続されているIDEデバイスの設定をします。



チェック

この設定を変更すると、内蔵ハードディスクが動作しなくなる場合があるので、通常は初期設定のまま使用してください。

設定項目	設定内容	説明
Type	ユーザ設定 自動 CD/DVD 使用しない	「自動」に設定するとBIOSが自動的にシリンダ、ヘッド、セクタを設定します。「ユーザ設定」に設定するとユーザによる指定ができます。
CylIn	0-65535	シリンダ数を設定します。 ¹
Head	0-255	ヘッド数を設定します。 ¹
WP com	0-65535	ヘッド待避シリンダ番号を設定します。 ¹
Sec	0-255	セクタ数を設定します。 ¹
LBA Mode	オン オフ	LBAモードを使用するかどうかを指定できます。 ²
Blk Mode	オン オフ	マルチセクタ転送モードを使用するかどうかを設定します。 ²
PIO Mode	自動 0-4	CPUが直接I/OポートとアクセスしてIDEとのデータのやりとりをするときのデータ転送モードを設定できます。 ²
32Bit Mode	オン オフ	32ビットIDEデータ転送を使用するかどうかを設定できます。

¹ 「Type」を「ユーザ設定」に設定したときのみ指定可

² 「Type」を「ユーザ設定」「CD-ROM」に設定したときのみ指定可

起動セクタへのウイルス感染防止

設定項目	設定内容	説明
起動セクタへのウイルス感染防止	使用する 使用しない	ウイルス感染防止のため、ハードディスク起動セクタを書き込み禁止にするかどうかを設定します。「使用する」に設定すると書き込み禁止になります。

拡張セットアップ

ビデオ出力方式

設定項目	設定内容	説明
ビデオ出力方式	NTSC PAL	ご使用の国、地域でのビデオ出力方式を設定します(日本 / アメリカでは "NTSC"、ヨーロッパでは "PAL")。

LCDパネル拡大表示

設定項目	設定内容	説明
LCDパネル拡大表示	オン オフ	LCDパネルの拡大表示を行うかどうかを設定します。

PS/2ポートウォームスワップ

設定項目	設定内容	説明
PS/2ポートウォームスワップ	使用する 使用しない	サスペンド状態でのPS/2キーボードやPS/2マウスの使用を設定します。

NXパッド

設定項目	設定内容	説明
NXパッド	使用する 自動 使用しない	「使用する」に設定すると、PS/2マウスとNXパッドを同時に使用することができます。「自動」に設定すると、PS/2マウスを接続したときに、NXパッドが使用できなくなります。USBマウスを使用するときにNXパッドを無効にしたい場合は、「使用しない」に設定します。

セキュリティセットアップ

スーパーバイザパスワードの設定

スーパーバイザパスワードの設定または変更を行います。

【Enter】を押すとパスワード設定の画面が表示されるので設定を行ってください。



参照

パスワードの設定 PART1の「セキュリティ機能」(p.70)

ユーザパスワードの設定

ユーザパスワードの設定または変更を行います。

ユーザパスワードは、スーパーバイザパスワードを設定していないと設定できません。

【Enter】を押すとパスワード設定の画面が表示されるので設定を行ってください。



参照

パスワードの設定 PART1の「セキュリティ機能」(p.70)

起動時のパスワード

設定項目	設定内容	説明
起動時のパスワード	はい いいえ	システム起動時にパスワード入力を行うかどうかの設定を行います。

レジューム時のパスワード

設定項目	設定内容	説明
レジューム時のパスワード	はい いいえ	レジューム時にパスワード入力を行うかどうかの設定を行います。

省電力セットアップ



チェック

このパソコンでは「省電力セットアップ」の設定は「Intel® SpeedStep™ テクノロジの設定」以外すべて無効になります。省電力の設定は「コントロールパネル」の「電源の管理」で行ってください(p.61)。

システムスイッチ切り替え

設定項目	設定内容	説明
システムスイッチ切り替え	パワーボタン スリープボタン	電源スイッチの機能を設定します(「スリープボタン」に設定すると、電源スイッチでスリープモードに移行できます)。

AC電源駆動時の省電力

設定項目	設定内容	説明
AC電源駆動時の省電力	オン オフ	AC電源駆動時に、現在の省電力設定を有効にするかを設定します。

省電力レベルの設定

設定項目	設定内容	説明
省電力レベルの設定	オフ ユーザ設定 性能優先 最大省電力	「オフ」に設定すると、BIOSによる省電力設定はすべて無効になります。「性能優先」ではこのパソコンの性能を優先した設定になり、「最大省電力」では、動作時間を優先した設定になります。

「ユーザ設定」に設定すると、CPUスピード、ハードディスクタイムアウト値などを任意に変更できます。

設定項目	設定内容	説明
CPUスピード	100% / 50% / 25% / 12.5%	CPUスピードを4つのレベルから選ぶことができます。
ハードディスクタイムアウト	オフ / 5秒 / 30秒 / 45秒 / 1分 / 2分 / 4分 / 6分 / 8分 / 10分 / 15分	設定した時間を経過してもハードディスクに対するアクセスがなかった場合、ハードディスクのモーターを停止します。
ビデオタイムアウト	オフ / 30秒 / 45秒 / 1分 / 2分 / 4分 / 6分 / 8分 / 10分 / 15分	設定した時間を経過してもキーボードやポインティングデバイスの操作が行われなかった場合、液晶ディスプレイの表示を停止します。
周辺機器タイムアウト	オン オフ	「オン」に設定すると、シリアルポート、パラレルポート、フロッピーディスクに対するアクセスが2秒間以上なかった場合、それぞれのデバイスを停止します。
オーディオタイムアウト	オン オフ	「オン」に設定すると、サウンド機能が30秒以上使用されなかった場合、オーディオデバイスを停止します。
自動スタンバイタイムアウト	オフ / 1分 / 2分 / 4分 / 6分 / 8分 / 10分 / 15分	設定した時間を経過してもコンピュータに対するアクセスがなかった場合、コンピュータをスタンバイモードに移行します。
自動スリープタイムアウト	オフ / 5分 / 10分 / 15分 / 20分 / 25分 / 30分	設定した時間を経過してもコンピュータに対するアクセスがなかった場合、コンピュータを「スリープ種別」で設定したスリープモードに移行します。

LCDパネル連動スリープ

設定項目	設定内容	説明
LCDパネル連動スリープ	使用する 使用しない	「使用する」に設定すると、LCDパネルを閉じたときに「スリープ種別」で設定したスリープモードに移行します。

スリープ種別

設定項目	設定内容	説明
スリープ種別	サスペンド ハイバネーション	スリープモードの種別を変更します。

自動ハイバネーション

設定項目	設定内容	説明
自動ハイバネーション	使用する 使用しない	「使用する」に設定すると、サスペンド状態に移行してから30分経過すると、自動的にハイバネーション状態に移行します。

LCDパネル輝度設定

設定項目	設定内容	説明
LCDパネル輝度設定	自動 ¹ ユーザ設定 ²	LCDパネルの明るさを調節します。

- 1: 自動設定にすると、起動時には電源を切る前に設定した輝度になり、キーボードやポインティングデバイスからの操作が15秒間ないと自動的に最低輝度になります(ただし、USBキーボード、USBポインティングデバイスからの操作では、最低輝度からの復帰はありません)。
2: 「ユーザ設定」にすると、ホットキーで設定した輝度が次回起動時にも有効になります。

スリープ時警告音

設定項目	設定内容	説明
スリープ時警告音	使用する 使用しない	「使用する」に設定すると、スリープモード移行時に警告音を鳴らします。

リモート電源制御

設定項目	設定内容	説明
リモート電源制御	使用する 使用しない	リモート電源制御を行うかどうかを設定します。

時刻指定によるレジューム

設定項目	設定内容	説明
時刻指定によるレジューム	使用する 使用しない	「使用する」に設定すると、「レジューム時刻」で指定した時刻になるとスリープモードから復帰します。
レジューム時刻	オフ	スリープモードから復帰する時刻を設定します。「時刻指定によるレジューム」が「使用する」に設定されているときのみ設定できます。

:Windows 98では、この機能は使用できません。

Intel® SpeedStep™テクノロジーの設定

設定項目	設定内容	説明
Intel(R) SpeedStep(TM) テクノロジーの設定	自動 バッテリー最適化 使用しない	「自動」に設定すると、AC電源でコンピュータを使用している場合、自動的に最高性能で動作します。 「バッテリー最適化」に設定すると、常にバッテリー最適化で動作します。 「使用しない」に設定すると、Intel® SpeedStep™テクノロジーが使えなくなります。

: LC700J、LC600Jのみ本設定が表示されます。

起動デバイスセットアップ

クイックブート

設定項目	設定内容	説明
クイックブート	使用する 使用しない	「使用する」に設定すると、BIOSによるシステムの診断を一部スキップし、起動時間を短縮します。

ロゴ表示

設定項目	設定内容	説明
ロゴ表示	使用する スキップ 使用しない	起動時の表示画面を設定します。

: BIOSセットアップメニューを起動する場合は電源を入れた後に【F2】を押してください。

起動時表示デバイス

設定項目	設定内容	説明
起動時表示デバイス	同時表示 LCD表示 CRT表示	起動時に表示するディスプレイを設定します。

起動時Numロック

設定項目	設定内容	説明
起動時Numロック	自動 オフ オン	起動時に【Num Lock】キーをオンにするかを設定します。

第一起動デバイス

設定項目	設定内容	説明
第一起動デバイス	使用しない IDE HDD フロッピー CD/DVD SCSI ネットワーク	一番最初に起動するドライブを設定します。

第二起動デバイス

設定項目	設定内容	説明
第二起動デバイス	使用しない IDE HDD フロッピー CD/DVD	二番目に起動するドライブを設定します。

第三起動デバイス

設定項目	設定内容	説明
第三起動デバイス	使用しない IDE HDD フロッピー CD/DVD	三番目に起動するドライブを設定します。

その他のデバイスから起動

設定項目	設定内容	説明
その他のデバイスから起動	はい いいえ	設定したすべてのデバイスで起動に失敗したとき、その他のデバイスから起動します。

周辺機器セットアップ

周辺機器に関する設定をします。

USBコントローラ

設定項目	設定内容	説明
USBコントローラ	使用する 使用しない	USBコントローラを初期化するかを設定します。

内蔵ハードディスク

設定項目	設定内容	説明
内蔵ハードディスク	使用する 使用しない	内蔵ハードディスクを使用するかを設定します。

シリアルポート

設定項目	設定内容	説明
シリアルポート	使用しない COM1 IRQ4 COM2 IRQ3 COM3 IRQ4 COM4 IRQ3 自動	ポートのリソースを他の周辺機器でも使用できるようにします。「自動」を設定すると、自動的に他のデバイスと競合しないリソースを設定します。

パラレルポート

設定項目	設定内容	説明
パラレルポート	使用しない LPT1 LPT2 自動	ポートのリソースを他の周辺機器でも使用できるようにします。「自動」を設定すると、自動的に他のデバイスと競合しないリソースを設定します。
パラレルモード	EPP ECP 出力のみ 双方向	パラレルポートのモードを設定します。特定の周辺機器は、特殊パラレルモードでしか動作しません。それぞれの周辺機器のマニュアルを参照してください。

シリアルポート2

設定項目	設定内容	説明
オンボード シリアルポート2	使用しない COM2 IRQ3 COM3 IRQ4 COM4 IRQ3 自動	ポートのリソースを他の周辺機器でも使用できるようにします。「自動」に設定すると、自動的に他のデバイスと競合しないリソースを設定します。

PIAFS使用時のランプ切り替え

設定項目	設定内容	説明
PIAFS使用時のランプ切り替え	着信 圏内	「圏内」に設定すると、PIAFS(ワイヤレス通信)使用時に、メール着信ランプ(✉)を圏内/圏外表示ランプとして使用することができます。メール着信ランプとして使用するとき、「着信」に設定します。

:ワイヤレスインターネットモデルのみ本設定が表示されます。

表示言語(Language)セットアップ

セットアップの表示言語を設定します。

表示言語(Language)セットアップ

設定項目	設定内容	説明
表示言語 (Language) セットアップ	英語(English) 日本語(Japanese) フランス語(French)	標準では日本語に設定されています。

バッテリーリフレッシュ

バッテリーリフレッシュを行います。



参照

バッテリーリフレッシュ PART1の「バッテリーリフレッシュ」(p.52)

P A R T

7

付録

ここでは、このパソコンの機能に関連した補足情報を説明しています。

パソコンのお手入れ

用意するもの

汚れが軽いとき
やわらかい素材の乾いたきれいな布

汚れがひどいとき
水かぬるま湯を含ませ堅くしぼったきれいな布



メモ

OA機器用クリーニングキットも汚れを拭き取るのに便利です。OA機器用クリーニングキットについてはご購入元、NECフィールドイングの各支店、営業所などにお問い合わせください。



参照

NECのお問い合わせ先 「NEC PCあんしんサポートガイド」または「サポートセンター」-「サービス&サポート」-「NECのサービス&サポート窓口」

パソコンのお手入れをはじめる前に

△注意



感電注意

お手入れの前には、必ずパソコンやパソコンの周辺機器の電源を切り、電源コードをACコンセントから抜いてください。

電源を切らずにお手入れをはじめると、感電することがあります。

パソコンのお手入れをするときは、次のことに注意してください。

- ・水やぬるま湯は、絶対に本機に直接かけないでください。本機の傷みや故障の原因になります。
- ・シンナーやベンジンなどの揮発性の有機溶剤や化学ぞうきんなどは使わないでください。本機の傷みや故障の原因になります。

液晶ディスプレイ

やわらかい素材の乾いたきれいな布で拭いてください。水やぬるま湯、揮発性の有機溶剤、化学ぞうきんは使わないでください。

本体

乾いたやわらかい素材のきれいな布で拭いてください。汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、堅くしぼったきれいな布で拭きます。

キーボード

乾いたやわらかい素材のきれいな布で拭いてください。汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、堅くしぼったきれいな布で拭きます。キーのすきまにゴミが入ったときは、専用のクリーナーなどでゴミをとってください。ゴミがとれないときは、ご購入元、NECフィールディングの各支店、営業所に問い合わせてください。

NXパッド

乾いたやわらかい素材のきれいな布で拭いてください。汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、堅くしぼったきれいな布で拭きます。

フロッピーディスクドライブ

クリーニングディスク(別売)を使ってフロッピーディスクドライブをクリーニングします。ひと月に一回を目安にクリーニングしてください。

電源コード

電源コードのプラグを長時間にわたってACコンセントに接続したままにしていると、プラグにほこりがたまることがあります。定期的にはこりを拭き取るようにしてください。



参照

NECのお問い合わせ先「NEC PCあんしんサポートガイド」または「サポートセンター」-「サービス&サポート」-「NECのサービス&サポート窓口」

Windows 98でMS-DOSモードを利用する

MS-DOSモードを利用する

MS-DOSプロンプトで動作しないMS-DOSアプリケーションを利用するために、MS-DOSモードで起動することができます。



チェック

プログラムによっては、このパソコンのMS-DOSモードおよびMS-DOSプロンプトでは利用できないものがあります。特にPC-9800シリーズ対応のアプリケーションの多くは動作しません。アプリケーションが利用できるかについてはアプリケーションの製造元にお問い合わせください。

MS-DOSモードで再起動する

MS-DOSモードを利用するには、次のように操作します。

- 1 「スタート」ボタン 「Windowsの終了」をクリックする
- 2 「MS-DOSモードで再起動する」を選び、「OK」ボタンをクリックする
MS-DOSモードで再起動します。

MS-DOSモードを終了する

- 1 コマンドプロンプトの画面から、次のように入力する

EXIT 

Windows 98が再起動します。

MS-DOSモードとMS-DOSプロンプトの違い

MS-DOSアプリケーションやMS-DOSコマンドを利用するには、「MS-DOSモード」と「MS-DOSプロンプト」とがあります。「MS-DOSモード」は、MS-DOSで起動したときと同じような環境になるため、他のアプリケーションと一緒に使うことはできません。「MS-DOSプロンプト」は、MS-DOSをWindows 98上でマルチタスクのアプリケーションとして使用できるようにしたものです。

MS-DOSプロンプトを起動する

「MS-DOSプロンプト」を利用するには、次のように操作します。

- 1 「スタート」ボタン 「プログラム」 「MS-DOSプロンプト」をクリックする
「MS-DOSプロンプト」ウィンドウが表示されます。



メモ

「MS-DOSモード」または「MS-DOSプロンプト」からは使用できないコマンドやアプリケーションもあります。

MS-DOSモードでCD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブを利用する

このパソコンには、CD-ROMドライブ(CD-ROMモデルのみ)またはCD-R/RWドライブ(CD-R/RWモデルのみ)が内蔵されていますが、購入時の設定では、MS-DOSモードでCD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブを使用することはできません。MS-DOSモードで内蔵のCD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブを使用する場合は、次の手順が必要です。

以降の説明では、CD-ROMドライブを例に説明しています。CD-R/RWモデルを使用している場合は、「CD-ROMドライブ」を「CD-R/RWドライブ」に読み替えてください。



チェック

CD-R/RWドライブは、MS-DOSモードでは、CD-ROMドライブとしてのみ使うことができます。

現在のMS-DOSモードで内蔵のCD-ROMドライブを使う場合

現在のMS-DOS設定を使って、MS-DOSモード上でCD-ROMドライブを使うときには、次の操作を行ってください。

- 1 「スタート」ボタン 「Windowsの終了」をクリックする
- 2 「MS-DOSモードで再起動する」を選び、「OK」ボタンをクリックする
MS-DOSモードで再起動します。
- 3 コマンドプロンプトの画面から次のように入力する

SETCD /A

CD-ROMドライブがCONFIG.SYS、DOSSTART.BATに追加され、SETCD実行前のCONFIG.SYS、DOSSTART.BATは拡張子SCDとして保存されます。

4 コマンドプロンプトの画面から次のように入力する



Windows 98が再起動します。

5 「スタート」ボタン 「Windowsの終了」をクリックする

6 「再起動する」を選び、「OK」ボタンをクリックする 再起動します。

7 「スタート」ボタン 「Windowsの終了」をクリックする

8 「MS-DOSモードで再起動する」を選び、「OK」ボタンをクリックする MS-DOSモードが起動し、CD-ROMドライブがQドライブに割り当てられます。

新しいIMS-DOS設定を指定する場合

新しいIMS-DOS設定を指定して、MS-DOSモード上でCD-ROMドライブを使用するには、次の操作を行ってください。

1 「スタート」ボタン 「プログラム」「エクスプローラ」でエクスプローラを 起動する 「エクスプローラ」が表示されます。

2 C: ¥COMMAND.COMをクリックする プログラム名が反転表示されます。



COMMAND.COMは、COMMANDと表示されることもあります。表示の設定を変更するには、「サポートセンタ」-「困ったときのQ&A」-「トラブル解決Q&A」-「ファイル/フォルダ」の中の「ファイル名の拡張子が表示されない」をご覧ください。

3 「エクスプローラ」の「ファイル」メニュー 「プロパティ」をクリックするか、 またはCOMMAND.COMを右クリックして「プロパティ」をクリックする 「Commandプロパティ」が表示されます。

4 「プログラム」タブをクリックして、「詳細設定」ボタンをクリックする 「プログラムの詳細設定」が表示されます。

- 5 「MS-DOSモード」をクリックして、「新しいMS-DOS設定を指定する」を☑にする
CONFIG.SYSとAUTOEXEC.BATの内容が編集できるようになります。
- 6 「OK」ボタンをクリックする
「プログラムの詳細設定」が閉じます。
- 7 「OK」ボタンをクリックする
「プロパティ」が閉じます。
- 8 「エクスプローラ」で新しいMS-DOS設定したCOMMAND.COMをダブルクリックする
MS-DOSモードが起動します。

- 9 コマンドプロンプトの画面から次のように入力する

```
SETCD /A ↵
```

CD-ROMドライブがCONFIG.SYS、AUTOEXEC.BATに追加され、SETCD実行前のCONFIG.SYS、AUTOEXEC.BATは拡張子SCDとして保存されます。

- 10 コマンドプロンプトの画面から次のように入力する

```
EXIT ↵
```

Windows 98が再起動します。

- 11 エクスプローラを起動していない場合は、「スタート」ボタン 「プログラム」 「エクスプローラ」でエクスプローラを起動する
「エクスプローラ」が表示されます。
- 12 「エクスプローラ」で新しいMS-DOS設定をしたCOMMAND.COMをダブルクリックする
MS-DOSモードが起動し、CD-ROMドライブがQドライブに割り当てられます。



新しいMS-DOS設定をしたCOMMAND.COMを起動した場合は、次のようなメッセージが表示されることがあります。

「このプログラムはMS-DOSモードで実行するように設定されており、ほかのプログラムの動作中には実行できません。続行するとほかのプログラムをすべて終了します。続行しますか?」

Windows 2000 Professionalを使う

Windows 2000 Professionalをセットアップする前に

Windows 2000の2000年問題対応について

NECのホームページ「98Information」(<http://www.nec.co.jp/98/>)では、コンピュータの2000年問題対応について情報を提供しています。



参照

コンピュータの2000年問題 「サポートセンター」-「困ったときのQ&A」-「トラブル解決Q&A」-「その他」-「西暦2000年問題について」

セットアップに必要なもの

Windows 2000のセットアップには次のものがが必要です。あらかじめ準備しておいてください。

- ・本機に添付の「アプリケーションCD-ROM Vol.2」
(以下、「アプリケーションCD-ROM」)
- ・別売の「Windows 2000 Professional CD-ROM Disc1, Disc2」
(以下「Windows 2000 CD-ROM」)
- ・新しいフロッピーディスク1枚(1.44Mバイトでフォーマットしたもの)
フロッピーディスクには「Windows 2000修復ディスク」のラベルを貼っておいてください。

セットアップの説明について

ここでの説明はWindows 2000をインストールするときに、次のようなドライブ構成になっていることを想定しています。異なるドライブ構成で利用する場合は、必要に応じてドライブ名を読み替えてください。

- ・フロッピーディスクドライブ Aドライブ
- ・Windows 2000をインストールするドライブ Cドライブ
- ・CD-ROMドライブ Eドライブ

ここではCD-ROMドライブとフロッピーディスクドライブを使用した場合の説明が記載されています。お使いの機種により、「CD-ROMドライブ」を「CD-R/RWDドライブ」に読み替えてください。

Windows 2000をセットアップする手順

このパソコンで別売のWindows 2000を利用するためには、次の手順でWindows 2000をセットアップする必要があります。

1. パソコン本体の準備をする
2. Windows 2000をセットアップする
3. 周辺機器の設定を行う



チェック

「NEC PC セットアップガイド for Windows[®] 2000」は必要ありません。

1. パソコン本体の準備をする

次の準備を行ってください。

- ・ BIOSセットアップメニューの設定を初期値に戻す
- ・ 電源を切る
- ・ 周辺機器を取り外す
- ・ ACアダプタを接続する

BIOSセットアップメニューの設定を初期値に戻す

次の手順でBIOSセットアップメニューの設定を初期値に戻してください。



メモ

BIOSセットアップメニューの設定を初期値に戻しても、スーパーバイザパスワードやユーザパスワードは解除されません。

- 1 電源を入れる
- 2 「NEC」のロゴが表示されたらすぐにキーボードの【F2】を押す
BIOSセットアップメニューのメイン画面が表示されます。
- 3 「デフォルト値をロード」を選び、【Enter】を押す
セットアップの確認のダイアログボックスが表示されます。
- 4 「はい」を選び、【Enter】を押す
BIOSセットアップメニューのメイン画面が表示されます。
- 5 キーボードの【F10】を押す
セットアップの確認のダイアログボックスが表示されます。
- 6 「はい」を選び、【Enter】を押す
これでBIOSセットアップメニューの設定が初期値に戻りました。

電源を切る

スタンバイ状態(サスPEND)や休止状態(ハイバネーション)になっている場合には一度データを保存し、電源を切ってください。

周辺機器を取り外す

周辺機器を取り外してください。

ACアダプタを接続する

バッテリー駆動では再セットアップすることはできません。必ずACアダプタを接続しておいてください。

2. Windows 2000 Professionalをセットアップする

- ・「アプリケーションCD-ROM」の「¥WIN2K」フォルダにWindows 2000の補足事項を記述したファイル「README.TXT」があります。セットアップを行う前にお読みください。
- ・このパソコンにWindows 2000をセットアップするときは、別売の「Microsoft Windows 2000 日本語版」のオンライン版『Microsoft Windows 2000ファーストステップガイド』をご覧ください。セットアップを行うようにしてください。



チェック

- ・「Windows 2000 の紹介」ウィンドウが一番前に表示されている場合は、タイトルバーの ボタンをクリックしてウィンドウを閉じてください。
- ・CD-ROMドライブに「Windows 2000 CD-ROM」をセットした後、自動的に「Windows 2000 CD-ROM」の画面が表示されることがあります。画面が表示された場合は、 ボタンをクリックして画面を終了し、セットアップを続けてください。

Windows 2000のセットアップ

このパソコンにWindows 2000を新規に組み込む場合について説明します。ここで詳しく解説されていない手順については、別売の「Microsoft Windows 2000日本語版」のオンライン版『Microsoft Windows 2000ファーストステップガイド』をご覧ください。セットアップを行うようにしてください。

- 1 電源を入れ、すぐにフロッピーディスクドライブに「Windows 2000 Setup Disk1」をセットし、CD-ROMドライブに「Windows 2000 CD-ROM Disc1」をセットする

- 2 画面の指示に従ってセットアップディスクを入れ替える
- 3 「セットアップ:」の画面が表示されたら、【Enter】を押す
- 4 「セットアップへようこそ」の画面が表示されたら、【Enter】を押す
- 5 ライセンス契約画面が表示されたら、内容を確認し、同意する場合は【F8】を押す
「PageDown」を押すと画面がスクロールします。なお、表示される内容に同意しない場合は、セットアップできません。
- 6 キーボードの種類を選択する画面が表示されたら、「106 日本語キーボード」を選択する
- 7 「106 Japanese Keyboard(Including USB)・よろしいですか?(Y/N)」の画面が表示されたら、【Y】を押す
- 8 Windows 2000をインストールするパーティション、ファイルシステム、ディレクトリの設定を行う
- 9 ファイルのコピー終了後、画面の指示に従いフロッピーディスクドライブよりフロッピーディスクを取り出し、コンピュータを再起動する
- 10 再起動後、「セットアップウィザードの開始」の画面で、「次へ」ボタンをクリックする
数秒後に自動的に次の画面に進みます。
- 11 次の設定を行う
 - ・地域
 - ・ソフトウェアの個人用設定
 - ・プロダクト キー
 - ・コンピュータ名とAdministratorのパスワード
 - ・日付と時刻の設定
- 12 画面の指示に従ってネットワークの設定を行う
- 13 ファイルのコピー終了後「Windows 2000セットアップウィザードの完了」の画面が表示されたら、CD-ROMドライブからCD-ROMを取り出し、「完了」ボタンをクリックする
自動的に再起動します。
- 14 再起動後、「ネットワーク識別ウィザードの開始」の画面が表示されたら、「次へ」ボタンをクリックする

- 15 コンピュータにログオンするユーザーを指定し、「次へ」ボタンをクリックする
- 16 「ネットワーク識別ウィザードの終了」の画面が表示されたら、「完了」ボタンをクリックする

以上でWindows 2000のセットアップは終了です。
次に「ドライバのコピー」へ進んでください。

ドライバのコピー

- 1 「スタート」ボタン 「プログラム」「アクセサリ」「コマンドプロンプト」をクリックする
- 2 「アプリケーションCD-ROM」をCD-ROMドライブにセットする
- 3 コマンドプロンプトから次のように入力する
ここでは、CD-ROMドライブをEドライブとして説明しています。お使いの環境に合わせて、実際のドライブ名に読み替えてください。



- 4 画面の指示にしたがってコピーする
- 5 コピーが終了したら、CD-ROMドライブから「アプリケーションCD-ROM」を取り出す

以上で、ドライバのコピーは終了です。

3. 周辺機器の設定を行う

Windows 2000のセットアップ後、周辺機器の設定を行います。お使いのモデルにあわせて、必要な部分をご覧ください。

周辺機器の設定は、必ず記載されている順に行ってください。

1. Windows 2000環境設定プログラムの実行
2. NX PADドライバのセットアップ
3. 内蔵FAXモデムボード対応ドライバのセットアップ
4. 内蔵LANドライバのセットアップ

5. 3モードFDドライバのセットアップ
6. 内蔵アクセラレータドライバのセットアップ
7. 内蔵サウンド対応ドライバのセットアップ
8. ワイヤレス通信機能のセットアップ

1. Windows 2000環境設定プログラムの実行


Windows 2000をご使用になる場合、まず最初に「Windows 2000環境設定プログラム」を適用してください。「Windows 2000環境設定プログラム」(SETENVX.EXE)では、Windows 2000上での環境設定を行います。

次の手順でインストールを行います。



SETENVX.EXEを実行する場合は、Administrator権限のあるユーザで実行してください。

- 1 「アプリケーションCD-ROM」をCD-ROMドライブにセットする
- 2 「スタート」ボタン 「プログラム」 「アクセサリ」 「コマンドプロンプト」をクリックする
- 3 コマンドプロンプトから次のように入力する




```
E: ↵  
CD ¥WIN2K¥SETENVX ↵  
SETENVX.EXE ↵
```

- 4 プログラム開始のメッセージが表示されるので、「OK」ボタンをクリックする
- 5 プログラム終了後、終了のメッセージが表示されるので、「OK」ボタンをクリックする
- 6 パソコンを再起動する

以上で「Windows 2000環境設定プログラムの実行」は終了です。次の「NXPADドライバのセットアップ」へ進んでください。

2. NX PADドライバのセットアップ

次の手順でドライバをセットアップします。

- 1 「Administrator」でログインする
- 2 使用中のアプリケーションをすべて終了する
- 3 「コントロールパネル」を開き、「マウス」アイコンをダブルクリックする
- 4 「ハードウェア」タブをクリックし、一覧に表示されている「標準 PS/2ポートマウス」を選択して、「プロパティ」ボタンをクリックする
- 5 「ドライバ」タブをクリックし、「ドライバの更新」ボタンをクリックする
- 6 「次へ」ボタンをクリックする
- 7 「このデバイスの既知のドライバを表示して、その一覧から選択する」を選択して、「次へ」ボタンをクリックする
- 8 「ディスク使用」ボタンをクリックする
- 9 「参照」ボタンをクリックする
- 10 「ファイルの場所」に以下のフォルダを指定する

- 11 「Apfiltr.inf」を選択してから「開く」ボタンをクリックする
- 12 「OK」ボタンをクリックする
- 13 「NX PAD」をクリックし、「次へ」ボタンをクリックする
- 14 「次へ」ボタンをクリックする
必要なファイルがコンピュータにコピーされます。
- 15 「完了」ボタンをクリックする
- 16 「閉じる」ボタンをクリックする
「システム設定の変更」ダイアログボックスが表示されます。

- 17 「はい」ボタンをクリックする
パソコンが再起動します。

以上で「NX PADドライバのセットアップ」は終了です。
次の「内蔵FAXボード対応ドライバのセットアップ」へ進んでください。

3. 内蔵FAXモデムボード対応ドライバのセットアップ

この手順は、FAXモデム内蔵モデルにのみ必要な手順です。
内蔵FAXモデムボードを利用するには、次の手順でドライバをセットアップします。

LAN非搭載 モデムのみ のモデルの場合

- 1 「Administrator」でログインする
- 2 「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする
- 3 「ハードウェア」タブをクリックし、「デバイスマネージャ」ボタンをクリックする
- 4 「その他のデバイス」の「PCIシンプル通信コントローラ」をダブルクリックする
「PCIシンプル通信コントローラのプロパティ」が起動します。
- 5 「ドライバ」タブをクリックし、「ドライバの更新」ボタンをクリックする
- 6 「デバイスドライバのアップグレードウィザードの開始」と表示されたら、「次へ」ボタンをクリックする
- 7 「デバイスに最適なドライバを検索する」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする
- 8 「場所を指定」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする
- 9 「製造元のファイルのコピー元」欄に次のように入力する

C: ¥WIN2K ¥LTMODEM

- 10 「OK」ボタンをクリックする
- 11 ドライバファイルの検索画面で「次へ」ボタンをクリックする
- 12 「デジタル署名が見つかりませんでした」の画面が表示された場合は、「はい」ボタンをクリックする
- 13 「デバイス ドライバのアップグレード ウィザードの完了」と表示されたら、「完了」ボタンをクリックする
- 14 「LT Win Modemのプロパティ」で、「閉じる」ボタンをクリックする
- 15 パソコンを再起動する

モデム / LAN同時搭載のモデルの場合

- 1 「Administrator」でログインする
- 2 「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする
- 3 「ハードウェア」タブをクリックし、「デバイスマネージャ」ボタンをクリックする
- 4 「その他のデバイス」の「PCIシリアルポート」をダブルクリックする
「PCIシリアルポートのプロパティ」が起動します。
- 5 「ドライバ」タブをクリックし、「ドライバの更新」ボタンをクリックする
- 6 「デバイス ドライバのアップグレードウィザードの開始」と表示されたら、「次へ」ボタンをクリックする
- 7 「デバイスに最適なドライバを検索する」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする
- 8 「場所を指定」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする
- 9 「製造元のファイルのコピー元」欄に次のように入力する

C: ¥WIN2K¥XCMODEM

- 10 「OK」ボタンをクリックする
- 11 ドライバファイルの検索画面で「次へ」ボタンをクリックする
- 12 「デジタル署名が見つかりませんでした」の画面が表示された場合は、「はい」ボタンをクリックする
- 13 「デバイス ドライバのアップグレード ウィザードの完了」と表示されたら、「完了」ボタンをクリックする
- 14 「Xiom MPC1+Modem 56 WinGlobalのプロパティ」で、「閉じる」ボタンをクリックする
- 15 パソコンを再起動する
- 16 「スタート」ボタン 「プログラム」 「アクセサリ」 「コマンドプロンプト」をクリックする
- 17 コマンドプロンプトから次のように入力する

```
C: [↵]  
CD ¥WIN2K ¥XCMODEM [↵]  
XIRCID [↵]
```

- 18 しばらくして、コマンドプロンプトに次のように表示されたら、コマンドプロンプトを終了する

```
C: ¥WIN2K ¥XCMODEM > Cselect /00  
C: ¥WIN2K ¥XCMODEM >
```


- 19 パソコンを再起動する

以上で「内蔵FAXモデムボード対応ドライバのセットアップ」は終了です。次の「内蔵LANドライバのセットアップ」へ進んでください。

4. 内蔵LANドライバのセットアップ

この手順は、LAN内蔵モデルにのみ必要な手順です。

内蔵LANを利用するには、次の手順でドライバをセットアップします。

- 1 「Administrator」でログインする
- 2 「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする
- 3 「ハードウェア」タブをクリックし、「デバイスマネージャ」ボタンをクリックする
- 4 次のいずれかが表示されたら、ダブルクリックする
 - ・「ネットワークアダプタ」の「Intel 8255x-based PCI Ethernet Adapter (10/100)」
 - ・「その他のデバイス」の「イーサネットコントローラ」
- 5 「ドライバ」タブをクリックし、「ドライバの更新」ボタンをクリックする
- 6 「デバイスドライバのアップグレードウィザードの開始」と表示されたら、「次へ」ボタンをクリックする
- 7 「デバイスに最適なドライバを検索する(推奨)」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする
- 8 「場所を指定」のみを選択し、「次へ」ボタンをクリックする
- 9 次のように入力する

- 10 「OK」ボタンをクリックする
- 11 「ハードウェアデバイスのドライバファイル検索が終了しました」と表示されたら、「次へ」ボタンをクリックする
- 12 「デジタル署名が見つかりませんでした」と表示された場合は、「はい」ボタンをクリックする
- 13 「デバイスドライバのアップグレードウィザードの完了」と表示されたら、「完了」ボタンをクリックする
- 14 「閉じる」ボタンをクリックする

- 15 「デバイスマネージャ」を閉じる
- 16 「システムのプロパティ」画面の「OK」ボタンをクリックする
- 17 「コントロールパネル」を閉じる
- 18 パソコンを再起動する

以上で「内蔵LANドライバのセットアップ」は終了です。
次の「3モードFDドライバのセットアップ」へ進んでください。

5. 3モードFDドライバのセットアップ

- 1 「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする
- 2 「ハードウェア」タブをクリックし、「デバイスマネージャ」ボタンをクリックする
- 3 「フロッピーディスクコントローラ」の「標準フロッピーディスクコントローラ」をダブルクリックする
- 4 「ドライバ」タブをクリックし、「ドライバの更新」ボタンをクリックする
- 5 「デバイスドライバのアップグレードウィザードの開始」と表示されたら、「次へ」ボタンをクリックする
- 6 「デバイスに最適なドライバを検索する(推奨)」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする
- 7 「場所を指定」のみを選択し、「次へ」ボタンをクリックする
- 8 CD-ROMドライブに「アプリケーションCD-ROM」をセットし、次のように入力する

E: ¥WIN2K ¥3MODE

- 9 「OK」ボタンをクリックする

10 「次のデバイスのドライバが検索されました」と表示されたら、「別のドライバを1つインストールする」にチェックをつけて「次へ」ボタンをクリックする

11 リストの一覧から次のものを選択する

NEC PC98-NX 3-mode Floppy controller (Type J)

12 「次へ」ボタンをクリックする

13 「デバイスドライバのアップグレードウィザードの完了」と表示されたら、「完了」ボタンをクリックする

14 「閉じる」ボタンをクリックする

15 パソコンを再起動する

16 再起動後、「コントロールパネル」を開き「システム」アイコンをダブルクリックする

17 「ハードウェア」タブをクリックし、「デバイスマネージャ」ボタンをクリックする

18 「フロッピーディスクドライブ」の「フロッピーディスクドライブ」をダブルクリックする

19 「ドライバ」タブをクリックし、「ドライバの更新」ボタンをクリックする

20 「デバイス ドライバのアップグレードウィザードの開始」と表示されたら、「次へ」ボタンをクリックする

21 「デバイスに最適なドライバを検索する(推奨)」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする

22 「場所を指定」のみを選択し、「次へ」ボタンをクリックする

23 「製造元のファイルのコピー元」に次のように入力する

E: ¥WIN2K ¥3MODE

24 「OK」ボタンをクリックする

25 「次のデバイスのドライバが検索されました」と表示されたら、「別のドライバを1つインストールする」をチェックして「次へ」ボタンをクリックする

26 「検出されたドライバファイル」のリストの中から次のものを選ぶ

NEC PC98-NX 3-mode floppy disk driver

27 「次へ」ボタンをクリックする

28 「デバイスドライバのアップグレードウィザードの完了」と表示されたら、「完了」ボタンをクリックする

29 「閉じる」ボタンをクリックする

30 再起動を促すメッセージが表示されたら、CD-ROMドライブから「アプリケーションCD-ROM」を取り出し、「はい」ボタンをクリックする
パソコンが再起動します。

以上で「3モードFDドライバのセットアップ」は終了です。
次の「内蔵アクセラレータドライバのセットアップ」へ進んでください。

6. 内蔵アクセラレータドライバのセットアップ

次の手順でドライバをセットアップします。

1 「スタート」ボタン 「ファイル名を指定して実行」をクリックする

2 「名前」の欄に次のように入力する

C:\WIN2K\MOBILITY\SETUP

3 「OK」ボタンをクリックする

4 「ようこそ」と表示されたら、「次へ」ボタンをクリックする

5 製品ライセンス契約の画面が表示されたら、内容を確認して、契約内容に同意する場合は「はい」ボタンをクリックする
ドライバのコピーが開始されます。
同意しない場合は、ドライバをセットアップできません。

- 6** 「セットアップの完了」と表示されたら「はい、直ちにコンピュータを再起動します」を選択し、「完了」ボタンをクリックする
パソコンが再起動します。
再起動後にヘルプの画面が表示されたら、「スタートアップにこの画面を表示する」のチェックをはずしてから、ヘルプの画面を終了してください。

以上で「内蔵アクセラレータドライバのセットアップ」は終了です。
次に「内蔵サウンド対応ドライバのセットアップ」へ進んでください。

7. 内蔵サウンド対応ドライバのセットアップ

次の手順でドライバをセットアップします。

- 1** 「Administrator」でログインする
- 2** 使用中のアプリケーションをすべて終了する
- 3** 「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする
- 4** 「ハードウェア」タブをクリックし、「デバイスマネージャ」ボタンをクリックする
- 5** 「サウンド、ビデオ、およびゲーム コントローラ」の「AC'97 Driver for Intel(r)82801 AB Controller」をダブルクリックする
- 6** 「ドライバ」タブをクリックし、「ドライバの更新」ボタンをクリックする



メモ

「AC'97 Driver for Intel(r)82801 AB Controller」が存在しない場合は、「その他のデバイス」にある「マルチメディアオーディオコントローラ」をダブルクリックして「マルチメディアオーディオコントローラのプロパティ」を起動し、「ドライバの更新」ボタンをクリックしてください。

- 7** 「デバイスドライバのアップグレードウィザード」が起動するので、「次へ」ボタンをクリックする
- 8** 「デバイスに最適なドライバを検索する(推奨)」を選択して、「次へ」ボタンをクリックする
- 9** 「場所を指定」のみを選択し、「次へ」ボタンをクリックする

- 10 「製造元のファイルのコピー元」の欄に次のように入力する

C: ¥WIN2K ¥YMF743

- 11 「OK」ボタンをクリックする

- 12 「デバイスドライバのインストールの開始」と表示されたら、「次へ」ボタンをクリックする

- 13 「デジタル署名が見つかりませんでした」と表示された場合は、「はい」ボタンをクリックする
ファイルがコピーされます。
ファイルの上書きの確認画面が表示された場合は、「はい」ボタンをクリックします。

- 14 「デバイスドライバのアップグレード ウィザードの完了」と表示されたら、「完了」ボタンをクリックする

- 15 「YAMAHA AC-XG Audio Deviceのプロパティ」画面で、「閉じる」ボタンをクリックする

- 16 再起動を促すメッセージが表示された場合は、「はい」ボタンをクリックする
表示されない場合は、「スタート」ボタン 「シャットダウン」をクリックし、「再起動」を選択して「OK」ボタンをクリックする
パソコンが再起動します。
再起動後、お使いの環境に合わせて解像度を変更してください。

以上で「内蔵サウンド対応ドライバのセットアップ」は終了です。
次の「ワイヤレス通信機能ドライバのセットアップ」へ進んでください。

8. ワイヤレス通信機能ドライバのセットアップ

この手順は、ワイヤレスモデルにのみ必要な手順です。
ワイヤレス通信機能を利用するには、次の手順でドライバをセットアップします。

- 1 「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする
- 2 「ハードウェア」タブをクリックし、「デバイスマネージャ」ボタンをクリックする
- 3 「その他のデバイス」に「NEC PIAFS64K DCXB」がある場合は選択し、「削除」アイコンをクリックする
「NEC PIAFS64K DCXB」がない場合は、手順5に進んでください。
- 4 「デバイス削除の確認」画面が表示されたら、「OK」ボタンをクリックする
- 5 「デバイスマネージャ」画面を閉じる
- 6 「システムのプロパティ」画面の「OK」ボタンをクリックする
- 7 電源を切る
- 8 電源を入れる
- 9 「新しいハードウェアの検出ウィザード」が起動したら、「次へ」ボタンをクリックする
- 10 「NEC PIAFS64K DCXB」と表示されていることを確認し、検索方法で「デバイスに最適なドライバを検索する(推奨)」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする
- 11 「場所を指定」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする
- 12 「製造元のファイルのコピー元」に次のように入力する

C: ¥WIN2K ¥PHS

- 13 「OK」ボタンをクリックする
- 14 「デバイス」ドライブのある場所として次のデバイスおよび場所が検出されるので、「次へ」ボタンをクリックする

デバイス :NEC PIAFS64K DCXB
場所 :c: ¥win2k ¥phs ¥mdmnpfrf2. inf

15 「デジタル署名が見つかりませんでした」の画面が表示されたら、「はい」ボタンをクリックする

16 「NEC PIAFS64K Wireless(DCXB)このデバイスに対するソフトウェアのインストールが終了しました。」というメッセージが表示されたら、「完了」ボタンをクリックする

17 パソコンを再起動する

以上で「ワイヤレス通信機能のセットアップ」は終了です。

携帯 / PHS インターフェイスの利用

Windows 2000で携帯 / PHSインターフェイスを使用する場合には、ドライバの更新が必要です。ドライバは、2000年7月に以下のホームページから入手できる予定です。

<http://www.nec.co.jp/98/>

IEEE1394コネクタでのファイル転送

このパソコンのIEEE1394コネクタと別のパソコンのIEEE1394コネクタとを別売のIEEE1394接続ケーブル(4ピン-6ピン)(PK-CA109)で接続すると、パソコン間でのファイル転送ができるようになります。

接続には、ドライバ(「IEEE 1394 Network Driver Ver.2.0」)が必要になります。ドライバは、以下のホームページから入手することができます。

<http://www.nec.co.jp/picrobo/>

機能一覧

本体

型名	LC700J/34DL LC700J/34DL9	LC600J/34DR LC600J/34DR9	LC500J/34DR LC500J/34DR9
型番	PC-LC700J34DL PC-LC700J34DL9	PC-LC600J34DR PC-LC600J34DR9	PC-LC500J34DR PC-LC500J34DR9
CPU	Intel® SpeedStep™ テクノロジー対応 Mobile Pentium プロセッサ700MHz	Intel® SpeedStep™ テクノロジー対応 Mobile Pentium プロセッサ600MHz	Mobile Pentium プロセッサ500MHz
内蔵キャッシュメモリ	32Kバイト		
セカンドキャッシュメモリ	256Kバイト(CPU内蔵)		
メモリ	ROM	512Kバイト(BIOSほか)	
	メインRAM	標準	128Mバイト (システムバス100MHz)
		最大	256Mバイト(別売の増設RAMボード(128Mバイト) を2枚増設した場合)
ビデオRAM	4Mバイト		
表示機能	表示素子 ¹	バックライト付14.1型TFTカラー液晶ディスプレイ(XGA)	
	ウィンドウアクセラレータ	ATI Mobility-M標準搭載(ビデオアクセラレーション機能対応)	
		640×480ドット(16色 / 26万色中256色 / 65536色 / 1677万色) 800×600ドット(26万色中256色 / 65536色 / 1677万色) 1024×768ドット(26万色中256色 / 65536色 / 1677万色) 1280×1024ドット(26万色中256色 / 65536色 / 1677万色) ² 1600×1200ドット(26万色中256色 / 65536色) ²	
別売のCRTディスプレイ接続時	640×480ドット(16色 / 26万色中256色 / 65536色 / 1677万色) 800×600ドット(26万色中256色 / 65536色 / 1677万色) 1024×768ドット(26万色中256色 / 65536色 / 1677万色) 1280×1024ドット(26万色中256色 / 65536色 / 1677万色) 1600×1200ドット(26万色中256色 / 65536色)		
サウンド機能	サウンドチップ	YAMAHA社製 YMF743搭載	
	PCM録音・再生機能	内蔵(ステレオ、量子化8ビット/16ビット、サンプリングレート8KHz/11.025KHz/16KHz/22.05KHz/44.1KHz/48KHz) 全二重化対応	
	MIDI音源機能	内蔵(拡張WAVE Table音源 WAVE Table音源最大128音)	
	スピーカ・マイク	ステレオスピーカ・マイクロホン内蔵	
	サラウンド	エンハンスド・ステレオ機能、3Dポジショナルサウンド	

型名	LC700J/34DL LC700J/34DL9	LC600J/34DR LC600J/34DR9	LC500J/34DR LC500J/34DR9
型番	PC-LC700J34DL PC-LC700J34DL9	PC-LC600J34DR PC-LC600J34DR9	PC-LC500J34DR PC-LC500J34DR9
通信機能	モデム	モデム内蔵 データ転送速度 最大56kbps(K56flex/V.90)エラー訂正V.42/ MNP4 データ圧縮V.42bis/MNP5)	
	携帯 / PHS インターフェイス	携帯電話:9.6kbpsデータ通信 / 9.6kbps・28.8kbps/パケット通信 cdmaOne:14.4kbpsデータ通信 PHS:PIAFS 32Kデータ通信 / PIAFS 64Kデータ通信(NTTドコモのみ)	
	FAX	内蔵 データ転送速度 最大14.4Kbps(V.17 FAX制御クラス1)	
	LAN	LAN内蔵(100BASE TX / 10BASE T)	なし
入力装置	キーボード	本体との一体型、JIS標準配列(英数・かな) Fnキー(ホットキー対応) 12ファンクションキー・Windowsキー・アプリケーションキー・Num Lockキー・右Altキー・右Ctrlキー付	
	ポインティングデバイス	NXパッド標準装備	
補助記憶装置	フロッピーディスク ドライブ	3.5型フロッピーディスクドライブ×1内蔵 720K/1.2M/1.44Mバイトタイプの3モードに対応)	
	固定ディスクドライブ (内蔵)	約20.0Gバイト ⁴	約12.0Gバイト ⁵
	CD-ROMドライブ / CD-RWドライブ ⁶	CD-ROMドライブの場合: CAV方式、CD-DA(オーディオCD)、CD-ROM MODE1/2、CD-ROM XA MODE2 (FORM1/2) マルチセッション対応 最大24倍速(平均17倍速) データ転送速度はCD-ROMの最内周で10.3倍速、最外周で24倍速 CD-R/RWドライブの場合: 読み込み最大20倍速(CD-RWは最大14倍速) 書き込み最大4倍速(CD-R/CD-RW)	
インターフェイス	マウス / テンキーボード(PS/2タイプミニDIN6ピン)、パラレル(D-SUB25ピン)、シリアル(D-SUB9ピン、最高115.2Kbps対応)、ディスプレイ(アナログRGBセパレート信号出力、ミニD-SUB15ピン)、IEEE1394(4ピン)×1(CD-R/RWモデルのみ)、USB×2、ビデオ出力		
	サウンド関連	ライン入力(ステレオ、ミニジャック) ヘッドホン出力 / ライン出力共用(ステレオ、ミニジャック) 光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力用(光ミニジャック) マイク入力(モノラル、ミニジャック) ライン入力インピーダンス10k 入力レベル1Vrms、 マイク入力インピーダンス2.2k 入力レベル5mVrms(バイアス2.5V) ライン出力レベル1Vrms	
PCカードスロット	TYPE ×2スロット(TYPE ×1スロットとしても使用可) ⁷ PC Card Standard準拠、CardBus/ZVポート対応 ⁸		
パワーマネージメント	自動または任意設定可能		
セキュリティ機能	ユーザパスワード機能、スーパーバイザパスワード機能、盗難防止ロック(市販の盗難防止用ケーブルを使用)		
バッテリー駆動時間 ⁹	約1.5~2.2時間(最大約2.0~3.0時間)		
バッテリー充電時間 ⁹	約3.0時間		

型名	LC700J/34DL LC700J/34DL9	LC600J/34DR LC600J/34DR9	LC500J/34DR LC500J/34DR9
型番	PC-LC700J34DL PC-LC700J34DL9	PC-LC600J34DR PC-LC600J34DR9	PC-LC500J34DR PC-LC500J34DR9
バッテリーによる スタンバイ状態 保持時間 ⁹	約3日(バッテリーフル充電時)		
電源	ニッケル水素バッテリー(DC9.6V、3,800mAh) ¹⁰ またはAC100V ± 10%、50/60Hz (ACアダプタ経由 ¹¹)		
消費電力	約19W(内蔵オプション最大接続時 約60W)		
温湿度条件	5 ~ 35 °C、20 ~ 80% ¹² (ただし、結露しないこと)		
外形寸法	307(W) × 252(D) × 40 ~ 44(H)mm(突起部含まず)		
質量 ⁹	約3.2kg		

1 :液晶ディスプレイは消耗品です。液晶ディスプレイでは、明るさのムラや、微細な斑点が現れることがありますが、故障ではありません。また、輝度の調節具合、表示モードと表示データの組み合わせによってはムラやちらつき、微細な斑点が現れることがあります。故障ではありません。

2 :バーチャルスクリーン表示。

3 :固定ディスク容量は、1Gバイトを10億バイトで計算した場合の数値です。0Sから認識できる容量は、実際の値より少なく表示されることがあります。

4 :Windowsのシステムからは約18.5Gバイトと認識されます。

5 :Windowsのシステムからは約11.2Gバイトと認識されます。

6 :Orange Book Part2(CD-R)およびPart3(CD-RW)に準拠。

7 :Windows 98のMS-DOSモードでは使用できません。

8 :ZVポート対応のPCカードは下のスロットのみで使用できます。

9 :時間や質量は、ご利用状況やオプションの接続により変わる場合があります。

10 :バッテリーパックは消耗品です。

11 :ACアダプタ自体は、入力電圧AC240Vまでの安全認定を取得していますが、添付の電源コードはAC125V対応です。

12 :18 ~ 25 °C、45 ~ 75%での使用を推奨。

型名	LC50H/34DA1 LC50H/34DA19 LC50H/34CA1 LC50H/34CA19	LC50H/34DB1 LC50H/34DB19	LC50H/33DR LC50H/33DR9
型番	PC-LC50H34DA1 PC-LC50H34DA19 PC-LC50H34CA1 PC-LC50H34CA19	PC-LC50H34DB1 PC-LC50H34DB19	PC-LC50H33DR PC-LC50H33DR9
CPU	Mobile Intel Celeron プロセッサ500MHz		
内蔵キャッシュメモリ	32Kバイト		
セカンドキャッシュメモリ	128Kバイト(CPU内蔵)		
メモリ	ROM	512Kバイト(BIOSほか)	
	メインRAM	標準 64Mバイト(システムバス100MHz対応)	
		最大	256Mバイト(別売の増設RAMボード(128Mバイト)を2枚増設した場合)
ビデオRAM	4Mバイト		
表示機能	表示素子 ¹	バックライト付14.1型TFTカラー液晶ディスプレイ(XGA)	バックライト付13.3型TFTカラー液晶ディスプレイ(XGA)
	ウインドウアクセラレータ	ATI Mobility-M標準搭載(ビデオアクセラレーション機能対応)	
	別売のCRTディスプレイ接続時	640×480ドット(16色 / 26万色中256色 / 65536色 / 1677万色) 800×600ドット(26万色中256色 / 65536色 / 1677万色) 1024×768ドット(26万色中256色 / 65536色 / 1677万色) 1280×1024ドット(26万色中256色 / 65536色 / 1677万色) ² 1600×1200ドット(26万色中256色 / 65536色) ²	
サウンド機能	サウンドチップ	YAMAHA社製 YMF743搭載	
	PCM録音・再生機能	内蔵(ステレオ、量子化8ビット/16ビット、サンプリングレート8KHz/11.025KHz/16KHz/22.05KHz/44.1KHz/48KHz) 全二重化対応	
	MIDI音源機能	内蔵(拡張WAVE Table音源 WAVE Table音源最大128音)	
	スピーカ・マイク	ステレオスピーカ・マイクロホン内蔵	
	サラウンド	エンハンスト・ステレオ機能、3Dポジショナルサウンド	
通信機能	モデム	モデム内蔵(データ転送速度 最大56kbps(K56flex/V.90)エラー訂正V.42/MNP4 データ圧縮V.42bis/MNP5)	
	FAX	内蔵(データ転送速度 最大14.4Kbps(V.17 FAX制御クラス1)	
	ワイヤレスモデムステーション(PIAFS) ³	LC50H/34DB1、LC50H/34DB19 ワイヤレス通信機能内蔵(データ転送速度 最大64kbps データ圧縮V.42bis) ワイヤレスデータ通信機能 PIAFS64K対応	

型名	LC50H/34DA1 LC50H/34DA19 LC50H/34CA1 LC50H/34CA19	LC50H/34DB1 LC50H/34DB19	LC50H/33DR LC50H/33DR9
型番	PC-LC50H34DA1 PC-LC50H34DA19 PC-LC50H34CA1 PC-LC50H34CA19	PC-LC50H34DB1 PC-LC50H34DB19	PC-LC50H33DR PC-LC50H33DR9
通信機能	なし	携帯電話: 9.6kbpsデータ通信 / 9.6kbps・28.8kbps/パケット通信 cdmaOne: 14.4kbpsデータ通信 PHS: PIAFS 32Kデータ通信 / PIAFS 64Kデータ通信 (NTTドコモのみ)	
入力装置	キーボード	本体との一体型、JIS標準配列(英数・かな) Fnキー(ホットキー対応) 12ファンクションキー・Windowsキー・アプリケーションキー・Num Lockキー・右Altキー・右Ctrlキー付	
	ポインティングデバイス	NXパッド標準装備	
補助記憶装置	フロッピーディスクドライブ	3.5型フロッピーディスクドライブ×1内蔵(720K/1.2M/1.44Mバイトタイプの3モードに対応)	
	固定ディスクドライブ(内蔵)	約10.0Gバイト ⁵	約12.0Gバイト ⁶
CD-ROMドライブ / CD-RWドライブ ⁷	CD-ROMドライブの場合: CAV方式、CD-DA(オーディオCD) CD-ROM MODE1/2、CD-ROM XA MODE2 (FORM1/2) マルチセッション対応 最大24倍速(平均17倍速) データ転送速度はCD-ROMの最内周で10.3倍速、最外周で24倍速 CD-R/RWドライブの場合: 読み込み最大20倍速(CD-RWは最大14倍速) 書き込み最大4倍速(CD-R/CD-RW)		
インターフェイス	マウス/テンキーボード(PS/2タイプミニDIN6ピン) 平行(D-SUB25ピン) シリアル(D-SUB9ピン、最高115.2Kbps対応) ディスプレイ(アナログRGBセパレート信号出力、ミニD-SUB15ピン) IEEE1394(4ピン)×1(CD-R/RWモデルのみ) USB×2、ビデオ出力		
サウンド関連	ライン入力(ステレオ、ミニジャック) ヘッドホン出力/ライン出力共用(ステレオ、ミニジャック) 光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力用(光ミニジャック) マイク入力(モノラル、ミニジャック) ライン入力インピーダンス10k 入力レベル1Vrms、 マイク入力インピーダンス2.2k 入力レベル5mVrms(バイアス2.5V) ライン出力レベル1Vrms		
PCカードスロット	TYPE ×2スロット(TYPE ×1スロットとしても使用可) ⁸ PC Card Standard準拠、CardBus/ZVポート対応 ⁹		
パワーマネージメント	自動または任意設定可能		
セキュリティ機能	ユーザパスワード機能、スーパーバイザパスワード機能、盗難防止ロック(市販の盗難防止用ケーブルを使用)		

型名	LC50H/34DA1 LC50H/34DA19 LC50H/34CA1 LC50H/34CA19	LC50H/34DB1 LC50H/34DB19	LC50H/33DR LC50H/33DR9
型番	PC-LC50H34DA1 PC-LC50H34DA19 PC-LC50H34CA1 PC-LC50H34CA19	PC-LC50H34DB1 PC-LC50H34DB19	PC-LC50H33DR PC-LC50H33DR9
バッテリー駆動時間 ¹⁰	約1.5~2.2時間(最大約2.0~3.0時間)		
バッテリー充電時間 ¹⁰	約3.0時間		
バッテリーによるスタンバイ状態保持時間 ¹⁰	約3日(バッテリーフル充電時)		
電源	ニッケル水素バッテリー(DC9.6V、3,800mAh) ¹¹ またはAC100V±10%、50/60Hz (ACアダプタ経由 ¹²)		
消費電力	約19W(内蔵オプション最大接続時 約60W)		
温湿度条件	5~35℃、20~80% ¹³ (ただし、結露しないこと)		
外形寸法	307(W)×252(D)×40~44(H)mm(突起部含まず)		
質量 ¹⁰	約3.1kg	約3.2kg	

1: 液晶ディスプレイは消耗品です。液晶ディスプレイでは、明るさのムラや、微細な斑点が現れることがありますが、故障ではありません。また、輝度の調節具合、表示モードと表示データの組み合わせによってはムラやちらつき、微細な斑点が現れることがありますが、故障ではありません。

2: バーチャルスクリーン表示。

3: 米国特許 第4,558ライセンス済み。Lissenced Under USA patent 4,558,302

4: 固定ディスク容量は、1Gバイトを10億バイトで計算した場合の数値です。0Sから認識できる容量は、実際の値より少なく表示されることがあります。

5: Windowsのシステムからは約9.3Gバイトと認識されます。

6: Windowsのシステムからは約11.2Gバイトと認識されます。

7: Orange Book Part2(CD-R)およびPart3(CD-RW)に準拠。

8: Windows 98のMS-DOSモードでは使用できません。

9: ZVポート対応のPCカードは下のスロットのみで使用できます。

10: 時間や質量は、ご利用状況やオプションの接続により変わる場合があります。

11: バッテリーパックは消耗品です。

12: ACアダプタ自体は、入力電圧AC240Vまでの安全認定を取得していますが、添付の電源コードはAC125V対応です。

13: 18~25℃、45~75%での使用を推奨。

内蔵FAXモデム

機能概要

項目	規格
CPU I/F	PCIローカルバスインターフェイス
NCU部	<ul style="list-style-type: none"> ・ダイヤルパルス送出機能 ・リング検出機能
モデムチップセット部	<ul style="list-style-type: none"> ・115.2Kbpsまでのデータ・モデム・スループット K56flex, V.90 V.34 V.32bis V.32, V.22bis, V.22, V.21 V.42LAPMおよびMNP2-4エラー訂正 V.42bisおよびMNP5データ圧縮 ・最高14.4Kbpsのファックス・モデム送受信速度 V.17, V.29, V.27ter, V.21チャンネル2 ・HayesATコマンドセット準拠 ATコマンド Sレジスタ ・回線品質モニタリングおよびオートリトレイン ・受信ライン信号品質に基づく自動ライン・スピード選択 ・フロー制御およびスピード・バッファリング ・パラレル非同期データ ・自動ダイヤルおよび自動アンサー ・トーンおよびパルスダイヤリング (DTMFトーン、ダイヤルパルス制御)

FAX機能

項目	規格
交信可能ファクシミリ装置	ITU-T G3ファクシミリ装置
適用回線	加入電話回線
同期方式	半二重調歩同期方式
通信速度	14400/12000/9600/7200/4800/2400/300bps
通信方式	ITU-T V.17/V.29/V.27ter/V.21ch2
変調方式	<ul style="list-style-type: none"> QAM: 14400/12000/9600/7200bps DPSK: 4800/2400bps FSK: 300bps
送信レベル	-9 ~ -15dBm(出荷時 -15dBm)
受信レベル	-10 ~ -40dBm
制御コマンド	EIA-578拡張ATコマンド(CLASS 1)

回線状態によって通信速度が変わる場合があります。

データモデム機能

項目	規格
適用回線	加入電話回線
同期方式	全二重調歩同期方式
通信速度	送受信 33600/31200/28800/26400/24000/21600/19200/16800/ 14400/12000/9600/7200/4800/2400/1200/300bps ¹ 受信 56000/54666/54333/54000/52000/50666/50000/49333/ 48000/46666/46000/45333/44000/42666/42000/41333/40000/ 38666/38000/37333/36000/34666/34000/33333/32000/30667/ 29333/28000bps ¹
通信規格	K56flex ITU-T V.90/V.34/V.32bis/V.32/V.22bis/V.22/V.21
変調方式	TCM:56000/54666/54333/54000/52000/50666/50000/49333/ 48000/46666/46000/45333/44000/42666/42000/41333/40000/ 38666/38000/37333/36000/34666/34000/33600/33333/32000/ 31200/30667/29333/28800/28000/26400/24000/21600/19200/ 16800/14400/12000/9600/7200bps QAM:9600/7200bps DPSK:4800/2400/1200bps FSK:1200/300bps
エラー訂正	ITU-T V.42(LAPM) MNP class4
データ圧縮	ITU-T V.42bis MNP class5
送信レベル	-9 ~ -15dBm(出荷時 -15dBm)
受信レベル	-10 ~ -40dBm
制御コマンド	HayesATコマンド準拠 ²

1: 回線状態によって、通信速度が変わる場合があります。

2: ATコマンドについては、「サポートセンタ」、「パソコンを使いこなそう」、「ハードウェア情報」、「ATコマンド一覧」をご覧ください。

NCU機能

項目	規格
適用回線	加入電話回線
ダイヤル形式	パルスダイヤル(10/20PPS) トーンダイヤル(DTMF)
NCU形式	AA(自動発信/自動着信型)
制御コマンド	HayesATコマンド準拠 EIA-578拡張ATコマンドAT(class 1)

ワイヤレス通信機能

ワイヤレス通信機能は、ワイヤレスインターネットモデルのみの機能です。

項目	規格
適用回線	自営標準 第3版準拠
通信速度	32Kデータ通信:29.2kbps(無線実行速度) 64Kデータ通信:58.4kbps
通信規格	RCR STD-28
制御コマンド	ATコマンド ¹

1:ATコマンドについては、「サポートセンタ」-「パソコンを使いこなそう」-「ハードウェア情報」-「ATコマンド一覧」をご覧ください。

PHSインターフェイス

PHSインターフェイスは、ワイヤレスインターネットモデルのみの機能です。

項目	規格
適用回線	移動電話回線(PHS 後位16芯) NTT ドコモ / アステル
自動発着信	ATコマンド
通信速度	PIAFS 32Kデータ通信:29.2kbps(実効値) PIAFS 64Kデータ通信:58.4kbps(実効値)
通信規格	PIAFS2.0
データ圧縮修復方式	V.42bis

: ATコマンドについては、「サポートセンタ」-「パソコンを使いこなそう」-「ハードウェア情報」-「ATコマンド一覧」をご覧ください。

携帯 / PHSインターフェイス

携帯 / PHSインターフェイス機能は、携帯 / PHSモデルのみの機能です。

個別仕様

種類	項目	規格
PHS (NTTドコモ / アステル)	適用回線	移動電話回線(PHS後位16芯)
	通信速度	PIAFS 32Kデータ通信:29.2kbps(実効値) PIAFS 64Kデータ通信:58.4kbps(実効値)
PHS (DDIポケット)	適用回線	移動電話回線(PHS後位12芯)
	通信速度	PIAFS 32Kデータ通信:29.2kbps(実効値)
携帯電話 (DoPa/PDC)	適用回線	移動電話回線(PDC5式携帯電話端末後位16芯)
	通信速度	9.6kbps(データ通信) 9.6kbps(パケット通信) 28.8kbps(パケット通信)
携帯電話 (cdmaOne)	適用回線	移動電話回線(CDMA方式携帯電話端末後位18芯)
	通信速度	14.4kbps(データ通信)

共通仕様

項目	規格
制御コマンド*	ATコマンド
網制御機能	A A

内蔵LAN機能仕様

LAN機能は、LAN内蔵モデルのみの機能です。

規格概要

項目	規格概要
準拠規格	ISO 8802-3、IEEE802.3、IEEE802.3u
ネットワーク形態	スター型ネットワーク
伝送速度	100BASE-TX使用時:100Mbps
	10BASE-T使用時:10Mbps
伝送路	100BASE-TX使用時:UTPカテゴリ5
	10BASE-T使用時:UTPカテゴリ3、4、5
信号伝送方式	ベースバンド伝送方式
ステーション台数	最大1024台 / ネットワーク
ステーション間距離 ネットワーク経路長	100BASE-TX : 最大約200m / ステーション間 10BASE-T : 最大約500m / ステーション間 最大100m / セグメント
メディアアクセス制御方式	CSMA / CD方式

*:リピータの台数など、条件によって異なります。

割り込みレベルとDMAチャンネル

割り込みレベルとDMAチャンネルについて

パソコンで使用できる周辺機器は、すべて「リソース」というものを使用しています。リソースには、大きく分けて「割り込みレベル(IRQ)」「DMAチャンネル」などがあります。

これらのリソースは、それぞれの機器ごとに違う設定をしなければなりません。1つのリソースが複数の機器に割り当てられている状態(リソースの競合)では、機器が正常に使用できないばかりか、システム全体の動作も不安定になってしまいます。

割り込みレベル

「割り込みレベル(IRQ)」は、複数の機器から同時にCPUにアクセスしたときに、どのような順序で処理していくかを決めるものです。このパソコンでは、購入時には次のように割り当てられています。

IRQ	インターフェイス	IRQ	インターフェイス
0	システムタイマ	9	USBホストコントローラ
1	キーボード		ACPI用システム制御割り込み
2	割り込みコントローラ	10	アクセラレータ ²
3	ワイヤレスモジュール ¹		サウンド ²
4	通信ポート		CardBusコントローラ
5	内蔵FAXモデム ²		PCIステアリングホルダー
	内蔵LANインターフェイス ³	11	(空き)
	CardBusコントローラ	12	NXパッド
	PCIステアリングホルダー	13	数値データプロセッサ
6	フロッピーディスクコントローラ	14	IDEコントローラ(内蔵ハードディスク)
7	プリンタポート		IDEコントローラ(内蔵CD-ROM)
8	システムクロック	15	(空き)

1: ワイヤレスインターネットモデルのみ。ワイヤレス通信機能使用時

2: IRQ5またはIRQ10に割り当てられます

3: LAN内蔵モデルのみ。IRQ5またはIRQ10に割り当てられます。

DMA チャンネル

「DMAチャンネル」は、CPUを経由せずに周辺機器とメモリとのデータのやり取りを制御する機能のことです。このパソコンでは、購入時には次のように割り当てられています。

D M A	インターフェイス			
	デフォルト	プリンタポートをE C Pで使用する場合(#1使用時)	プリンタポートをE C Pで使用する場合(#0使用時)	更にI Rを使用する場合
#0	(空き)	(空き)	E C P	E C P ¹
#1	(空き)	E C P	(空き)	I R ²
#2	フロッピーディスクコントローラ			
#3	(空き)	(空き)	(空き)	(空き)
#4	DMAコントローラ			

1: ECPが#1のときはIR

2: IRが#0のときはECP

索 引

索引

英字

BIOSセットアップメニュー 200
CATVインターネット 132
CD-R/RWドライブ 31
CD-ROMドライブ 31
CDの再生 36, 134
CDプレーヤボタン 2, 36, 134
DCコネクタ 3
DirectCD 39
DMAチャンネル 249
Easy CD Creator 37, 137
FAT32ファイルシステム 25
FDISK 22
【Fn】エフエヌキー) 12
IEEE1394コネクタ ... 3, 78, 149, 175
Intel® SpeedStep™ テクノロジ 58, 68
Jet-Audio Player 135
LAN 129
MACアドレス 132
MP3 135
MS-DOSプロンプト 216
MS-DOSモード 216
MS-IME 14
NXパッド 2, 16
NXパッドの設定 17
PCカード 164
PCカードイジェクトボタン 166
PCカードスロット 2, 148, 164
PHSインターフェイス 2, 115, 179
PIAFS 115
SmartVoice 84
ThumbsStudio 146
USB 177
USBコネクタ 3, 149, 177
VideoStudio 138
Video Wizard 139
Virtual CD 2 135

Windows 2000 Professional 220
Windows Media Player 138

あ行

アクセスランプ 6
アプリケーションの再追加 193
アプリケーションの削除 187
アプリケーションの追加 186
アンテナくん 99
イジェクトボタン(CD-ROMドライブ・
CD-R/RWドライブ) 31
インストーラ-NX 188, 193, 197
インターネット設定切替ツール 93
【インターネット】ボタン 2, 7
映像出力端子 2, 148, 162
映像の再生 138
映像の編集 138
液晶ディスプレイ 2, 43
お手入れ 214
オリジナルCDの作成 137
オリジナルMDの作成 136
音楽の再生 134
音楽の編集 136
音声入力機能 84
音量調節つまみ 2, 79

か行

解像度 44
外部CRT用コネクタ 3, 149, 161
外部ディスプレイ 160
外部マイクロホン端子 2, 148
画面の調整 43
キーボード 2, 10
キーボードの設定 13
キーボードロック 74
起動セクタへのウイルス感染防止 75
輝度 12, 43
キャップスロックキーランプ 6

休止状態	58, 64
休止状態から復帰	65
休止状態の再設定	65
休止状態の設定の解除	65
共有プリンタ	158
クリックボタン	16
携快電話2001	128
携帯 / PHSインターフェイス	2, 120, 179
携帯電話連携機能	127
携帯連携 / i	127
コントロールパネル	iv, 191

さ行

サウンド機能	79
サスペンド	58, 60
周辺機器	148, 149, 150
省電力機能	58
シリアルコネクタ	3, 149, 181
スーパバイザパスワード	71
スクロールロックキーランプ	6
スタンバイ状態	58, 60
スタンバイ状態から復帰	63
スピーカ	2
スリープ状態	58
セキュリティ機能	70
増設RAMボード	168

た行

ダイヤル設定	117, 122
タップ	16
ダブルタップ	16
通風孔	2
デジタルビデオ	138, 149
デバイスドライバ	154
デュアルディスプレイ機能	47
テレビ	162
電源スイッチ	2
電源ランプ	5

電話回線用モジュラーコネクタ	3
盗難防止用ロック	3, 76
トーン調整	82
ドライバ	154
ドラッグ	17

な行

日本語入力	14
ニューメリックロックキーランプ	6

は行

バーチャルスクリーン	46
ハードディスク	21
ハイバネーション	58, 64
パスワード	70
バックアップ	21
バッテリー	49
バッテリーアンロック	4, 56
バッテリー残量の確認	50
バッテリー充電ランプ	5
バッテリーの充電	49
バッテリーパック	4
バッテリーパックの交換	55
バッテリーリフレッシュ	52
パッド	16
パラレルコネクタ	155, 182
ピーブ音の設定	82
光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力機能	83
光デジタルオーディオ(S/PDIF) 出力端子	2, 83, 148, 180
非常時ディスク取り出し穴	31, 36
表示色	44
表示ランプ	2, 5
ファイル転送機能	77
フォーマット(ハードディスク)	22
フォーマット(フロッピーディスク)	30
復帰	58, 63, 65
プラグ&プレイ機能	154

プリンタ	155
プレーヤ-NX	36, 135
プロジェクタ	161
フロッピーディスクアクセスランプ	6
フロッピーディスクイジェクトボタン	28
フロッピーディスクドライブ	3, 28
ヘッドセットマイク	84
ホットキー機能	12
ボリュームコントロール	79

ま行

マウス/テンキーボード用コネクタ	183
メール着信ランプ	6, 99
【メール】ボタン	2, 8
メモリ	168
メモリスロット	150, 170
メモリ容量の確認	172
モデム	90, 244

や行

ユーザパスワード	71
ユニバーサル管理アドレス	132

ら行

リソースの競合	152
領域の確認	22
領域の確保	23
レジューム	58
ロックレバー	2

わ行

ワイヤレス通信機能	98, 246
ワイヤレスフォン	109
ワイヤレスモデムステーション	98
割り込みレベル	248
ワンタッチスタートボタン	7
ワンタッチスタートボタンの設定	9

「サポートセンタ」を活用しよう

「サポートセンタ」は、添付アプリケーションの操作方法を知りたいときや、パソコンを使って困ったときなどに、どうしたらよいかを画面上で見ることができる電子マニュアルです。

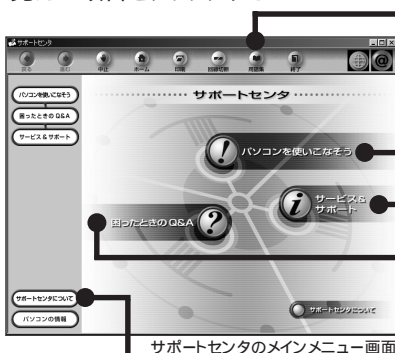
1 デスクトップ上の「サポートセンタ」をクリックする



サポートセンタ ここをクリックする

▼ サポートセンタのメインメニュー画面が表示されます。

2 見たい項目をクリックする



用語集
パソコン関連の
用語を説明して
います。

サポートセンタのメインメニュー画面

サポートセンタについて
サポートセンタの内容と使いかたにつ
いて説明します。

困ったときのQ&A

- ・トラブル解決Q&A
トラブルの解決法をQ&A
方式で説明します。
- ・トラブルの予防
トラブルを予防するソフトの
使いかたを説明します。
- ・インターネットトラブルシューティング
インターネットに接続する際に起こるトラブルの解決法
を説明します。



パソコンを使いこなそう

- ・添付ソフトの使い方
このパソコンに添付されているソフト
の使いかたの説明です。



- ・練習!パソコンの基本
このパソコンの使いかたを練習で
きるソフトを起動します。
- ・アプリケーションの追加と削除
各ソフトの追加と削除の方法を説
明します。
- ・マニュアルの利用法
このパソコンに添付されているマ
ニュアルを紹介します。
- ・ハードウェア情報
ハードウェアに関する情報を載せて
います。

サービス&サポート

- ・アプリケーションのサービス&
サポート窓口
- ・NECのサービス&サポート
窓口
- ・98OFFICIAL PASSメン
バーへの登録

LaVie

もっと知りたいパソコン



3版 2000年6月

NEC

P

808-875488-533-A3

PC98-**NX**SERIES

LaVie

LC700J・LC600J・LC500J・LC50H